



新更紗雛形

新形奇品數種  
描法彩色口傳

全

日本書院

原田織維文庫  
文庫4  
935



文庫4  
935

24

番 號	24
科 別	年鑑及史的文献
編著者	稻葉 新右衛門
書 名	新渡更紗 雛形
發行所	浪華書林

(原田文庫)

更紗圖譜目錄

- 一 更紗サラサを描下地拵シメテ様の事コレヲサウ
- 一 更紗描法心得カキアウの事ココロエ
- 一 更紗サラサ子く描カキアゲ上シメテる法の事シテ
- 一 古色フルビ付ツケ様の事ヤウ
- 一 生燕脂シヤウエンときやうレの事シ
- 一 藍蠟アサハラときやうレの事シ
- 一 雌黄メウワウときやうレの事シ
- 一 草クサれ汁シユ合アハせやうノ事シ
- 一 紫ムラサキ合アハせやうノ事シ

更紗圖譜

原田織維文庫

早稲田大学  
図書館蔵書



昭和二十六年二月十九日  
第一商学部より移管

- 一 茶色チャイロくらくやくれ事
- 一 紺コくらくやくれ事
- 一 黒クロ合せやくれ事
- 一 絵具留エノク撮トメの事
- 一 イニチニれ事
- 一 白シロく染ソメぬきやくれ事
- 一 霜シモふり文紗仕ニ撮トメの事
- 一 仕上シアゲ洗アラひやくれ事
- 一 金キン文紗銀ギンざく仕撮シトメの事

更紗番譜附言

一天明四年甲辰江戸に於て華希便覽を梓行シラカドし其書シラカドをめ蓬萊山人ホウライサンジンが著シラカドするの著シラカドを久須美孫クスミスネ丸マ束スつといふが増補ゾウホせしむ其序ジヨを記す

本邦ホノクニ近世キンセイ盛サカシる更紗シラカドを賞シヤウするにつく巧タカシなる事コトを描カキ人ヒト少オホかゞど但タレ其描法カキヨウ乃傳デニなる事コトがある洗アラハバコトをシラカドを彩イロ流ナガるのシラカドなる事コト終ワツカるぬきして臨具エノク教チリて漸ヤウク葉キ抽フツとシラカドなる事コト二子の書シラカドを描法カキヨウの傳デニを著シラカド事コト甚シバシバご精シバシバしく其秘ヒを遺ノコる事コト今イマくして四方シバシバ文紗シラカドを好コトむ人ヒト船貢ハクゴウを待マタむ高價カウカを費ツヒさして奇キ

品を鑑よ改人事二子の賜よあはらむべけんや  
余向よ装劔奇賞若干巻を著し巻末唐革の  
圖を彙し其後更紗乃圖をそ後に附せん事  
を志し志しし便覽の書出さしよして其事終止  
今茲はししはよ板を求むるよしを志し發  
せし志しれども装劔奇賞の己よ數千部刷行  
て諸君子乃雲願を辱ししよしよ圖譜を附せよ  
於し向よ求むる所時冊のしよしよ命を  
必しし別よ更紗圖譜と改題して新よ命を  
一板関東より上り時ものよ磨てや板を損たり

即ち更紗を修治ししし彩は棒よよ事二子の  
善を鑑よて余の作のしよせんよあはらむる  
装釘よしよして装劔奇賞と同様なる事或欲  
しよかろし余の嘗て志しし所なる事幸よ事と  
ぬしよしよし  
一余素更紗をぬしししを描とありしよカ  
端よしよしを取扱ふ事數十年の間奇品を見し  
事しよしよし當て此圖をあつるんと志しし  
品をらんよ必し求めしよししし  
蔵よ今便覽の圖よしよの奇品たるよしありし

いさゝ前板の圖を増補し、とて校訂精く  
 且其描法絵具拵等此傳を全く前板の意に  
 随ひ或は重出又ハ言のいさゝとて其解  
 刪潤  
 ともこのりて、二子の功を奪ふあり

一 前板唐土朝鮮及諸蠻の名姓舉て其產地誌  
 する凡そ更紗ハ多く蠻船の貢とて其出  
 所を詳しせん事ハ固あらずとされども古板の如く  
 ハ今ハその産地を考ふべしとて尤功老の人  
 ハよりこれを考ふべしとて是推考の事にして書  
 して併し其を考ふべしとて故今其を考ふべしとて書  
 して併し其を考ふべしとて故今其を考ふべしとて書

一 前板及此書更紗の名目を考ふとて何れに  
 たり。商賈の呼ぶ不を考ふとて何れに  
 らぞ式と蘭東と上り呼ぶ同ドかざれば必しも  
 彼非しとて是なりとてあり

一 けりこととて文字通同ハ華布と書又俗簡  
 更紗とせり。此書ハ俗字或用事ハけりこと  
 ハ本蠻語とて正字なり。尤二の雅稱あれど  
 も正名よありとて更紗ハ假字とて俗字ハ  
 本邦上古の遺風なり。今そを遺風を尚んで  
 用るるありとて只俗字とて見馴て即ち  
 用るる事

を志しめんがためなり

天明五年乙巳六月

芝翠三人稻葉通龍識



更紗圖譜

浪華

稻葉通龍

新右衛門補正

更紗を描下地よりなす事

描文紗カキガサは下地ハ西洋布カキキに用ふべし。但し曲尺カキサシを尺幅  
 四尺四寸とせし線一尺一幅としよ。是より黄豆シロメの寸を糸  
 と漬て夏ハ一夜冬ハ一日一夜許つけおさ。摺拵スリバチをしてよく  
 そり。水二合許入を本線ホトメに糸を入る。其滓カスの堅くかるはよく  
 よく志ほりしる。其汁シユをゴとしよ。よくゴ成西洋布カキキに表より一  
 ひを乾カカシく裏より二遍引ヒを各よく乾カカし。その地合チアヒを試コトめ  
 指ユビよ糸を付て。よく志ほりしる。一滴西洋布カキキに表より一

更紗圖譜

二 露乃玉成なり。地へ志こころむ成よきかざんとも。又その  
ちちれがくれをうごるなり。そまよハ今一過ゴ成引べし。其  
後此西洋布成猪牙にて表よりよく搦て描之。又一法  
一更紗を描んとおまよ地へ極上真の生法成。ラニビキにて  
ぬすけ其に露成を描んとおまよ地へ刷毛よくぬすき  
を漆塗此板は仮張して。二三度も引べし。尤度海より  
乾して引なら。ラニビキハ花よても何よても。蒸く露成取  
具なる。銅にて製して。雜貨舗よきまき。今生法成を取  
よハラニビキ中へ入るほどの蒸へ生法成を入れて蒸ば。露外へ  
志こころぬすき。しこころラニビキなき時を大さ同ドサうなる

茶碗二を以て。一は生法成を入。一を蒸して。蓋とて。又火  
よかけて。こま成煮ま。其湯氣上の茶碗の内へうはるなり  
それをきこびく。別の器よ取き。即一合許ハ取き。ぬす  
右に取し。露成を引よ。其搦んとおまよ日。快晴の天氣を  
定て早朝より引べし。

更紗描法を得の事

凡更紗成。描地合ハ極上の西洋布成用れよか。さるべし。  
尤油よ搦事し。そのまよ。油ハ終奥よ光彩なく。又質拙なる  
即足ぬく。凡更紗成。終具ハ。餘慶よとこおくべし。其故ハ。おと  
より。こころぬすき。終具ハ。其色取合ぬ。そのなれ。おまよ。其





糸を煮て洗ひしは生地の色を引くは地を描くは  
 漬直して洗ひしは生地の色を引くは地を描くは  
 或ハ茶碗にて取も煩くおきよハ又一法あり糸を  
 黄豆を水よふやかしたる水グー入きてよく揉み  
 毛綿切は後出し描き地を扱れ上は展て晴  
 天右の黄豆汁を引く干て描様お前よ  
 して出来上りしは時明礬水二個へてこそ洗者て火  
 上安を描し上を明礬水を草して丁寧描べし但し  
 生臘脂が散やきものなればきか得ぬ  
 又明礬水を一かきこれ敷度洗ハ換別たやき

ハ脱がはなり右更紗の描法前條より大旨述べ  
 どもとてかやわらうこと事ハ筆紙は  
 を描んとおりし人各を工夫あらう

古色付様の事

古渡の更紗と見えんとおきよハ古色を施の法あり  
 紙より更紗を煮ひて焼火の上貼置自然とふまらう  
 て古くえゆるわらう又急な古色付んとわらうハ竈の上れ  
 を取布切よつみ水よ入てよく洗りかき水よ  
 更紗を二三度と洗干上りし時よく洗ハ古渡の古  
 色えゆるわらう程よ上りし古かんし欲せハ更紗の



け色出るといふ。志うれども得るさきものよあらむ。極上  
といふ。蠟アサをよくアクを去る。塩コシを細スに搗きバ光彩クワ  
出るなり

雌メ黄ワウ用ヨひ様れ事

雌黄をほつふよ。其品ヒンを擇ユラぶを第一とす。展ソ品ヒン其  
色のあきけなると。土砂ツチ交マりて用ヨひ様れ事。珊瑚コハクの  
透徹スキトホやうなる。紙エラと用ヨひ様れ事。とと搗ベツおシはシし  
更紗シラはつふよ。ハぶク。生燕脂シヤウを加クへ用ヨひ様れ事。画ガク紙  
も雌黄メワウハ多く合アせテ具グととらなり

草の汁合アせテやりれ事

雌黄メワウはよくとらて。蠟アサを加クまシバ。萌黄モウ色シロとけり。是を  
子コ汁シといふ。草クサの多タくは合アせテ用ヨひ様れ事。又マけ内ウチへグト炭  
のゼウクワを加クまシて。又マ古コ液エキをいハす。子の汁シ  
かク。墨スミ紙シ加クへ。或ナハ生燕脂シヤウを加クへ。とと色イロあり。好コトと  
ほシて考カウへ用ヨひ様れ事

紫ムラサキ合アせテ搗ウりれ事

むシとシハ藍アヲ蠟ラウは生燕脂シヤウを合アせテ。尤モト藍アヲのカツキ  
とを。鹽シホを濃ノクしテきムべシ。淡ウスくハ洗アラひシて後ノチ色イロやうクに  
薄ウスくハなる。又マ藍アヲ少シく赤アカのイり紫ムラサキもあリ。二ニ色イロ  
も各オノ各オノ處トコロをエてイりテ彩イロを互互施シまシべシなり

茶色くらく様の事

よき茶をせんとつゝ急て煎置時<sup>タタヘオキトキ</sup>に陰<sup>カミ</sup>ておづ別<sup>ビツ</sup>の皿<sup>サラ</sup>へ取<sup>ト</sup>り出し。或<sup>アルニ</sup>は水<sup>ミヅ</sup>を和<sup>ア</sup>ひなぐしてはかよたり。但<sup>ニ</sup>し明礬<sup>メイラン</sup>を忌<sup>イム</sup>たり。明凡<sup>メイラン</sup>の水<sup>ミヅ</sup>か色<sup>イロ</sup>を黄<sup>キ</sup>むらなるなり。イニチニなほうふ時<sup>トキ</sup>ハ明凡<sup>メイラン</sup>を除<sup>ゾク</sup>き用<sup>ヨウ</sup>ふ

紺くらく様の事

下<sup>シタ</sup>を濃<sup>コキ</sup>蒸<sup>ア</sup>してぬりかきこし。時<sup>トキ</sup>又<sup>マタ</sup>うすく蒸<sup>ア</sup>してぬりかきこし。かきこしたる時<sup>トキ</sup>のき合<sup>アヒ</sup>れらるる時<sup>トキ</sup>とおきこし。再び蒸<sup>ア</sup>してぬりかけらるる

黒合セ様の事

檳榔子<sup>ビンラウジ</sup> 壹<sup>イチ</sup>分<sup>ブン</sup> 石榴皮<sup>ザクワカ</sup> 壹<sup>イチ</sup>分<sup>ブン</sup> 五倍子<sup>ゴパイジ</sup> 四<sup>シ</sup>分<sup>ブン</sup> 比<sup>ヒ</sup>三<sup>サン</sup>味<sup>ミ</sup>を

ぶつと蒸<sup>セシ</sup>じさうし置<sup>オキ</sup>其<sup>ソノ</sup>深<sup>フカ</sup>人と思<sup>オモ</sup>ふ地<sup>チ</sup>を蒸<sup>ア</sup>して燥<sup>ソメカハ</sup>乾<sup>カ</sup>て後<sup>ノチ</sup>べせんと汁<sup>ジユ</sup>を二<sup>ニ</sup>遍<sup>ヘン</sup>かけらるる。尤<sup>モトモト</sup>一<sup>イチ</sup>遍<sup>ヘン</sup>くよく干<sup>ホシ</sup>て。上<sup>ウヘ</sup>て後<sup>ノチ</sup>鉄漿<sup>テツカウ</sup>汁<sup>ジユ</sup>を一<sup>イチ</sup>遍<sup>ヘン</sup>かると。即<sup>スナハチ</sup>好<sup>ヨキ</sup>色<sup>イロ</sup>となる。此<sup>コノ</sup>鉄漿<sup>テツカウ</sup>汁<sup>ジユ</sup>ハ

但<sup>ニ</sup>し鉄漿<sup>テツカウ</sup>汁<sup>ジユ</sup>ハ温<sup>ユル</sup>むら及<sup>ヨリ</sup>びざを模<sup>ウラ</sup>様の<sup>オモテ</sup>裏<sup>ウラ</sup>表<sup>オモテ</sup>より下<sup>シタ</sup>寧<sup>ニギ</sup>よぬ。干<sup>ホシ</sup>上<sup>ウヘ</sup>て後<sup>ノチ</sup>又<sup>マタ</sup>地<sup>チ</sup>を燥<sup>ソム</sup>びこし。是<sup>コノ</sup>ハ磁<sup>チ</sup>具<sup>キ</sup>五<sup>イ</sup>あり。生<sup>ナマ</sup>磁<sup>チ</sup>胎<sup>タイ</sup>の上<sup>ウヘ</sup>を蒸<sup>ア</sup>して二<sup>ニ</sup>三<sup>サン</sup>遍<sup>ヘン</sup>梅<sup>ウメ</sup>水<sup>スイ</sup>を

さしてよく乾<sup>カ</sup>し。上<sup>ウヘ</sup>して粘<sup>ネリ</sup>を蒸<sup>ア</sup>べし。梅<sup>ウメ</sup>水<sup>スイ</sup>の画<sup>エ</sup>より外<sup>ソト</sup>へ出<sup>デ</sup>ぬやうに蒸<sup>ア</sup>さすべし。此<sup>コノ</sup>蒸<sup>ア</sup>さす。何<sup>ナニ</sup>色<sup>イロ</sup>も生<sup>ナマ</sup>磁<sup>チ</sup>胎<sup>タイ</sup>を合<sup>ア</sup>へし。此<sup>コノ</sup>磁<sup>チ</sup>具<sup>キ</sup>なるは、蒸<sup>ア</sup>さす。此<sup>コノ</sup>色<sup>イロ</sup>ハ、蒸<sup>ア</sup>さす。及<sup>ヨリ</sup>びざる



白く染ぬとやこれ事

何色にても模様を白く染脱んとおもふは蕎麥の  
散粉散粉とは蕎麥を磨て粉にしてふるふ時。明礬明礬の極細末と  
二味等分を合し。その水少し和し。火にかけて煉く。尤  
和のりもものなれば考てよく個べし。一方は二味は  
水膠を合し用ふもあり。亦可なり。但し二味は合  
せらるるて。きよく脱ぶるを描んとす。甚描ふとす。抄  
たうらば画家より所謂面描筆を用ふべし。その描ふとす  
とらふハ筆尖よかきまりて。下へはきかぬるがゆゑなり。

附又乾きやとす。扱なきは寒中かきハ湯煎うし。傍  
よとす。用ふべし。凡湯煎よとすハ丁よ金にて湯を若明凡が  
き町ハかたきとす。陰臭きとす。鮮白なるとはなり

霜降更紗仕様の事

霜降の仕様をいふ。ありとらふも。糸扱は一法をきりて  
謂らる。たゞ唐花の類を描んとす。その先きかきを  
紙にて切て。その紙を置又細き所ハ右の散粉を以て描て。そ  
とを模様を個へ。その上残あるを飾り。糖をすりかけ。い  
だき。その上思ふ所の陰臭を吹べし。その上かく吹付を  
小糸をすりつけ吹べし。と愚案は糖をすりつけ上を吹

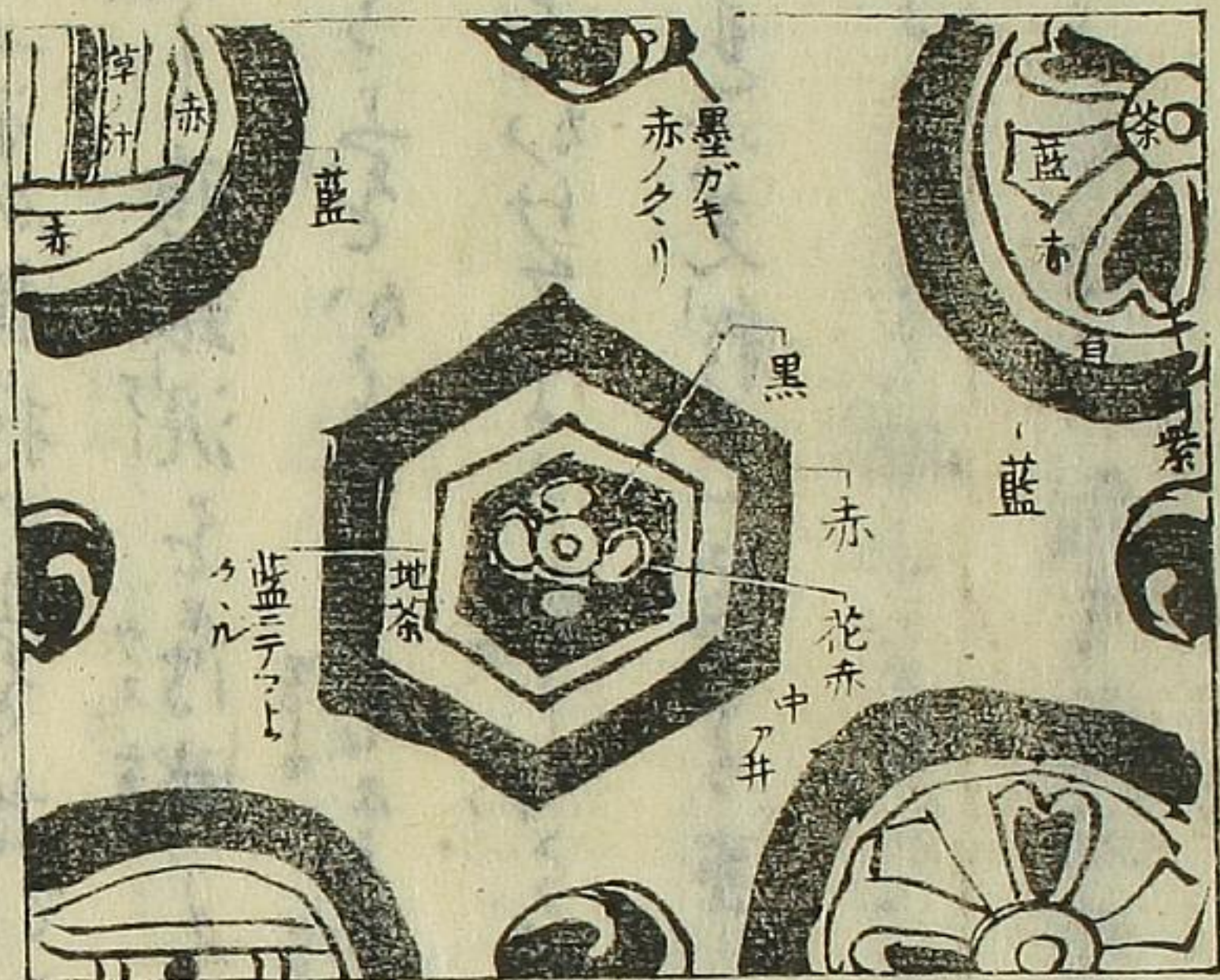


キメて描く上をかきこし。又法よこし模様を描き  
 法のとく洗ひて後金を塗板へ更紗の裏を下して張  
 裏らうらうらと葛糊をぬきりよく乾く時猪  
 牙して丁寧な摺り金を置くとより不を胡粉ゴフン水研水研ヒの  
 上品を水膠ニカハしてときたるを描乾て後上を又膠ウスニカハ  
 て描乾くころちよ金箔を夫おる切置て上を押  
 たり。志すくくして本紙なごころは紙はくハき膠ウスニカハ  
 て描く模様之金箔跡の紙ハましく取きつたり。新液の  
 金更紗と特々光彩あらハ法なり。又銀更紗も同法  
 なる。但し是ハ正平墨正平墨紺屋紺屋はきよりの墨墨にて描くはせんや

おふ所の模様の上を描くは一年墨を水で洗ひよく  
 乾く時銀泥を膠ウスニカハしてときたるを金更紗に描  
 くと上をかきこし。尤も光彩を出さんとよりハ今一画紙  
 泥をかけたよく乾く。それを板の上で展張牙ハキよく  
 摺りバ光彩をぬき事箔を押しこく。勿論金更紗も  
 朱ノキメて描く上を正平墨にて描等紙更紗の  
 くしてよりおる描人の工夫よきなり



大錢オホセニキツカフ 地白

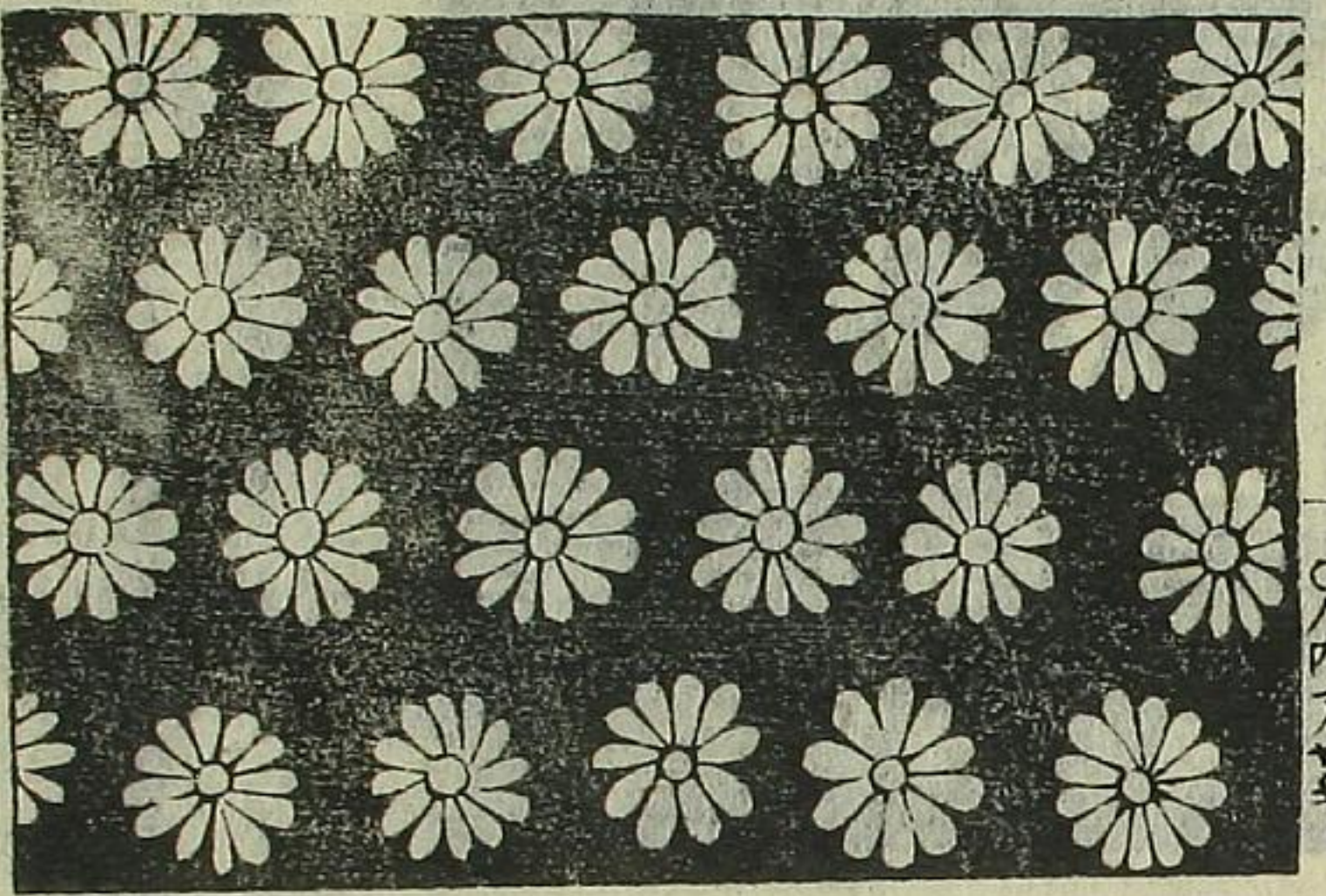


雞頭手ケイトウテ 地白



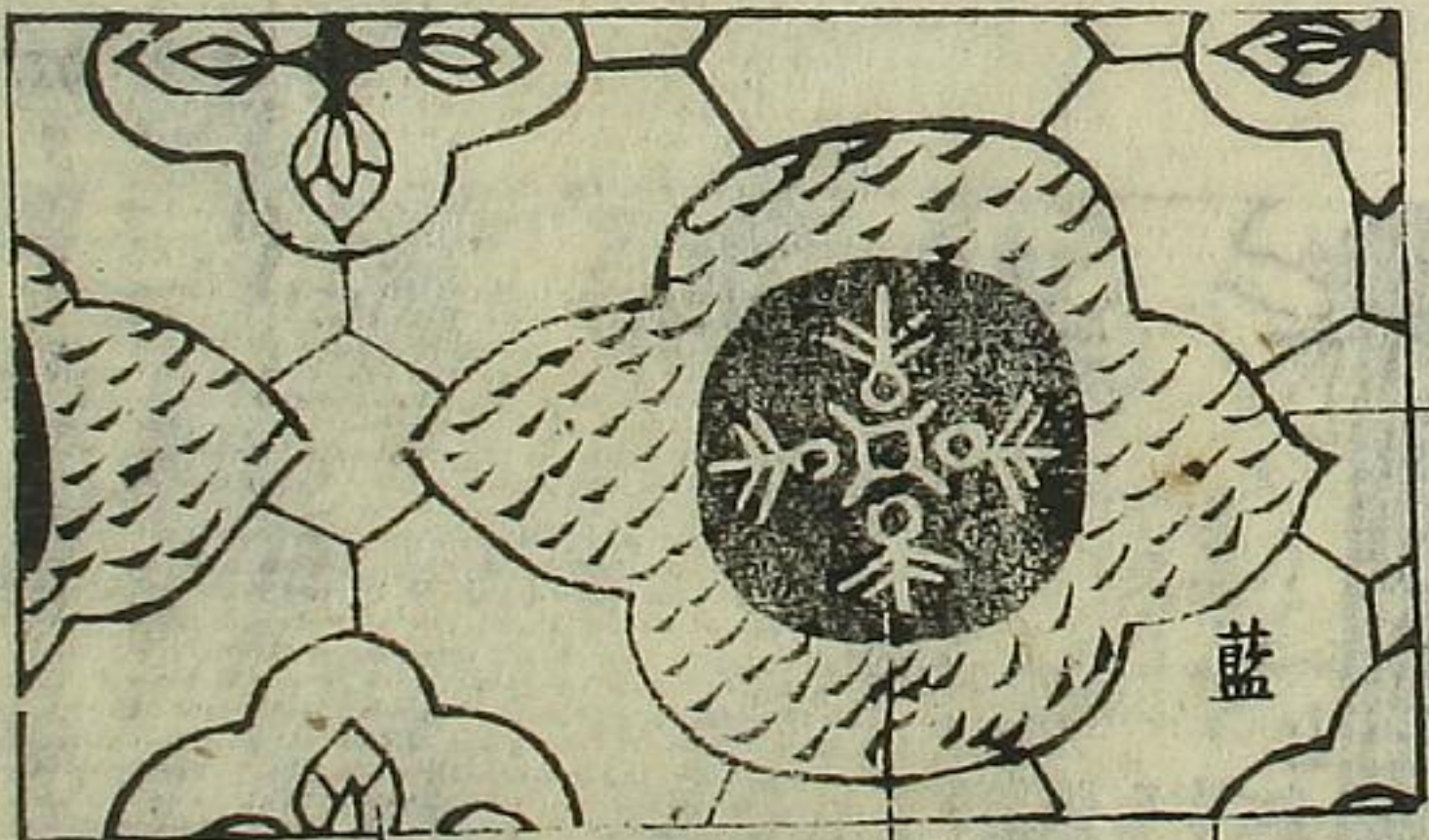
菊キクサラサ

地黒ノツマナレ菊ハ白ト黄ト  
浅黄ノ一ツミセナリ



心ハ生エニシ  
内アサキ

網アミモツカウ

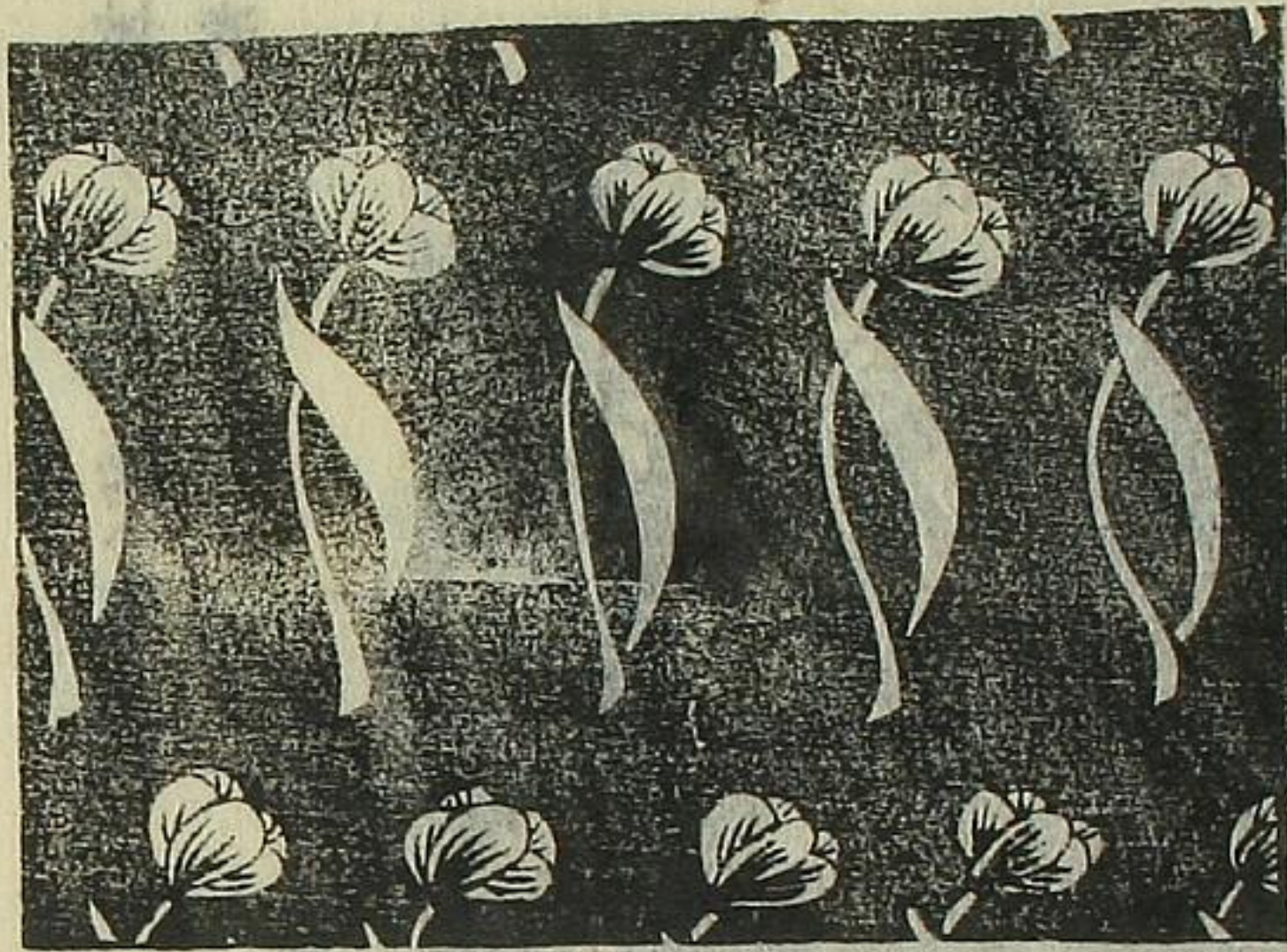


此内白

細ガキ墨  
生エニシ  
内ノ糸ハ白  
染スキニ  
生エニシ

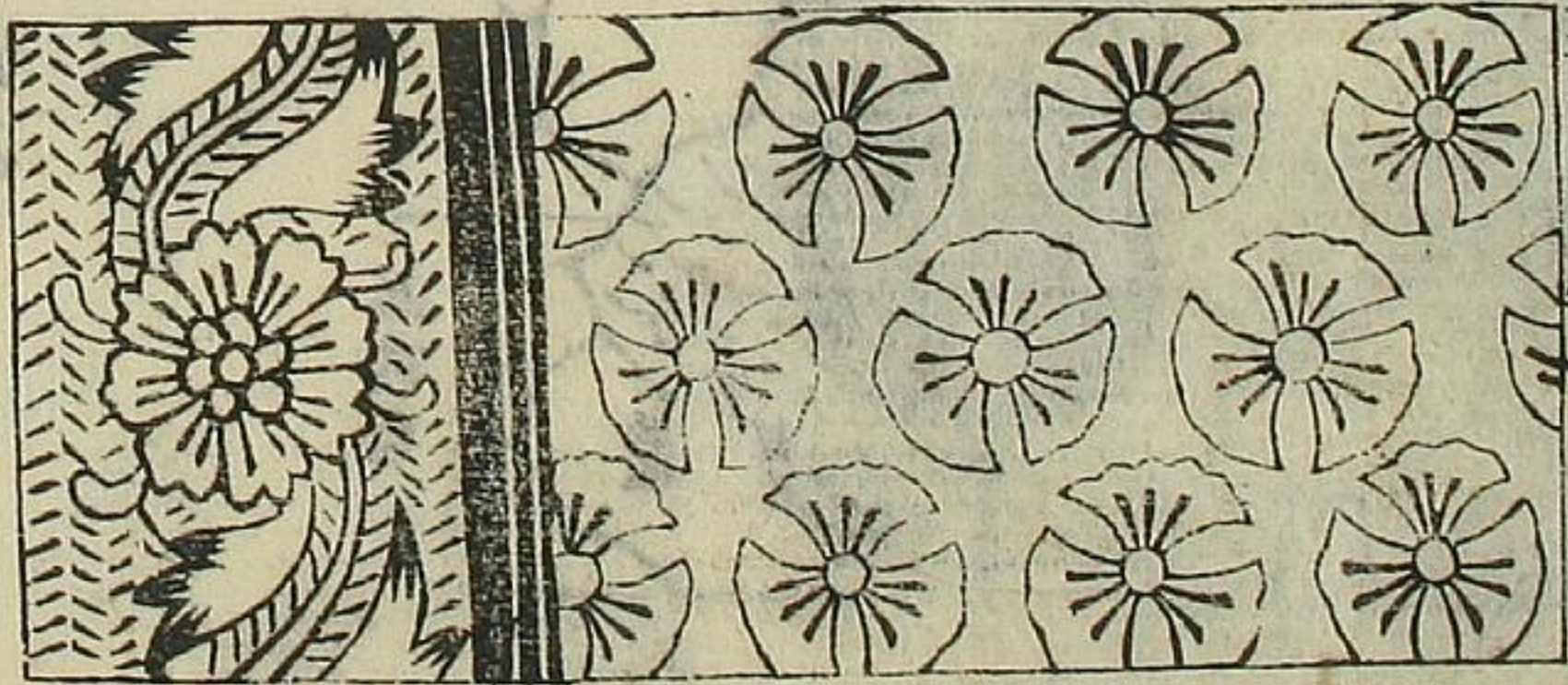
白罌粟サラサ

地生エシ花白レ濃生エシ  
葉ア井、ヂク白



銀杏葉手

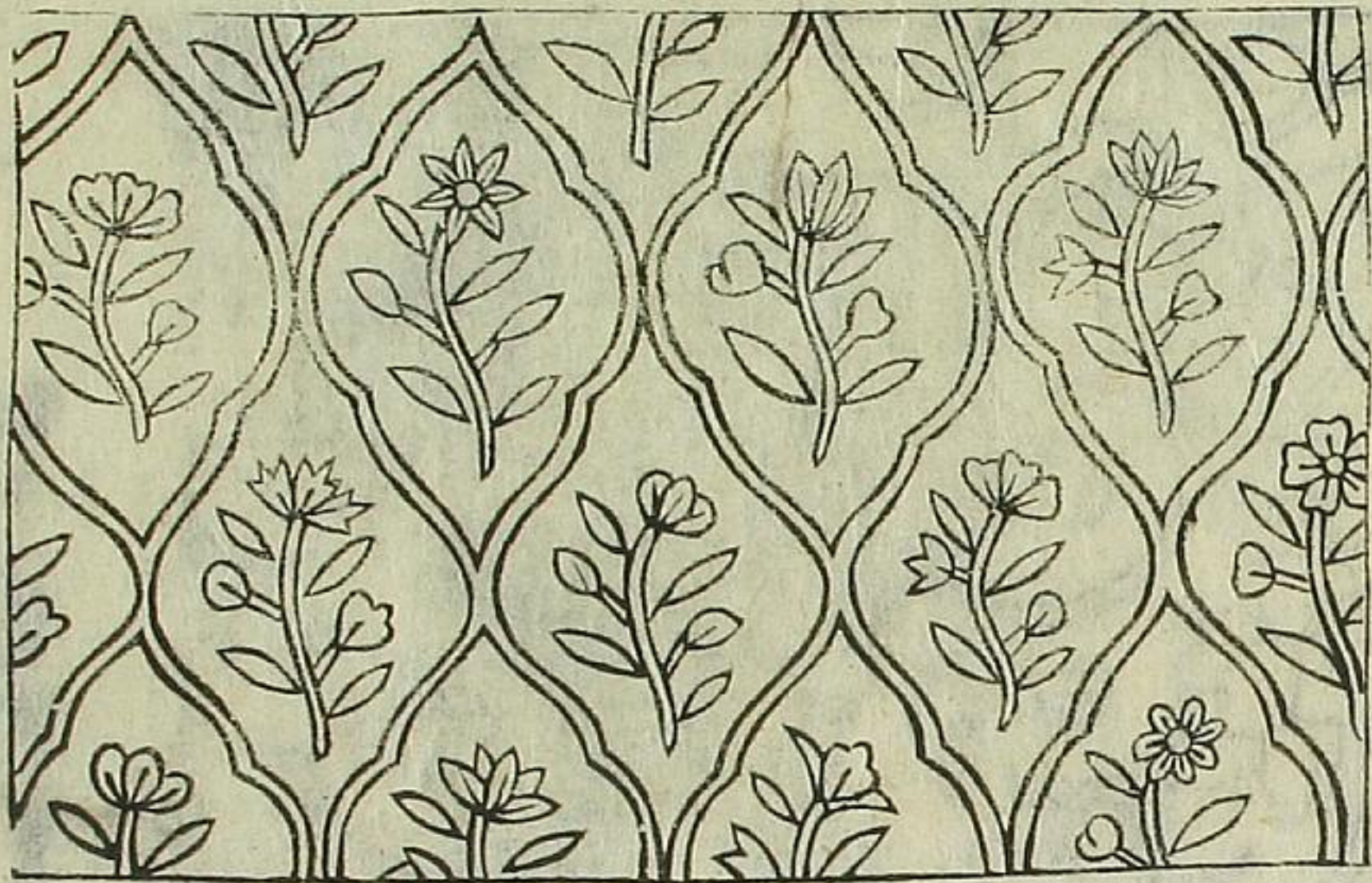
地アサギ又赤モアリ▲イテフ葉ハ  
生エシワハ草ノ汁ハ黄ハ白ニテ  
濃生エシノカキワリ



生エシ  
草ノ汁  
ゴ、藍  
花モ、イロ濃  
生エシカキワ  
リ

アミ手

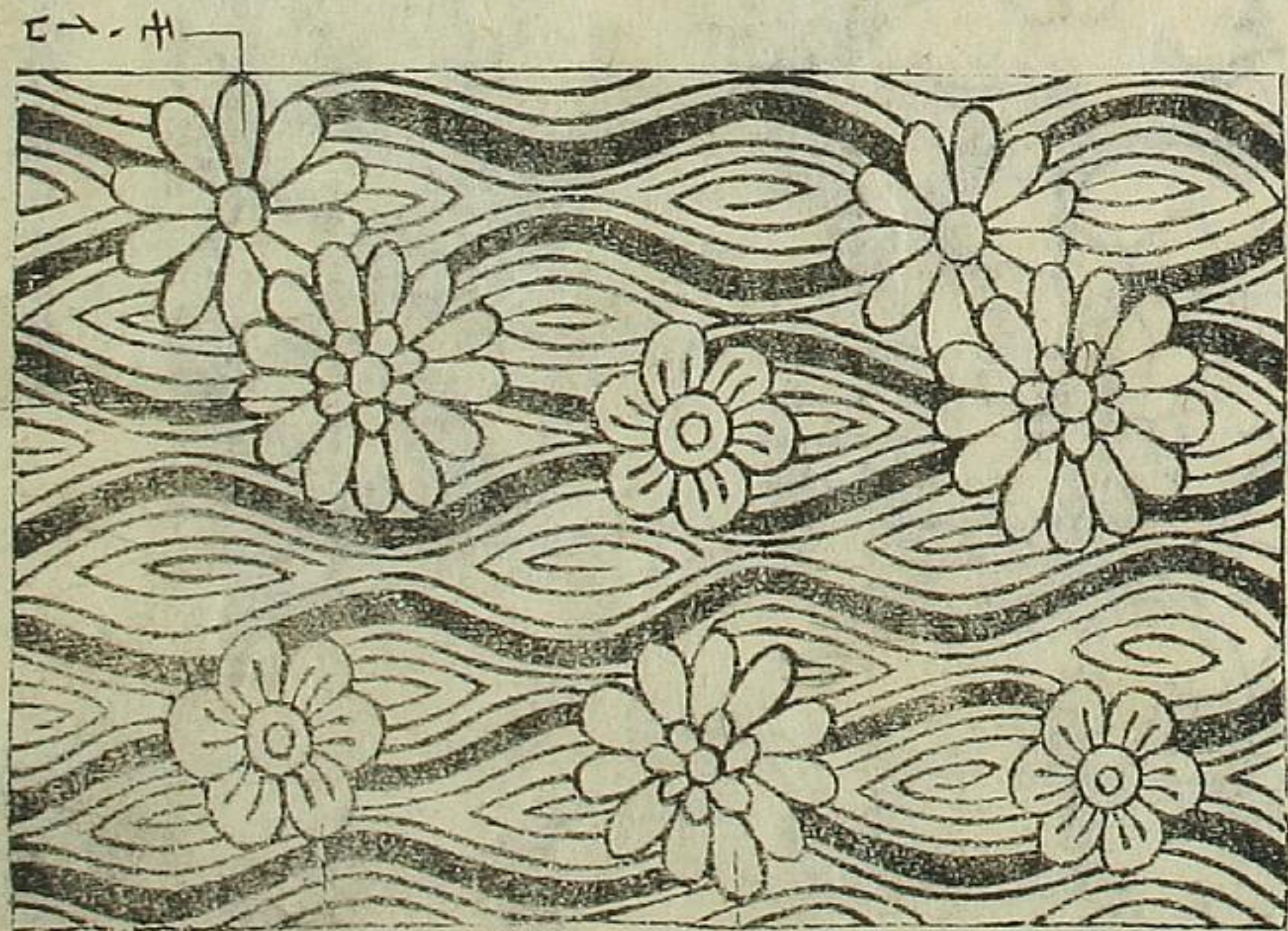
スミカキ、花赤ノカキワリ、ツボミ赤、花ハ  
一リンツ、紫トモ、イロレベ、イシ



赤生エ  
ツボミ  
葉モア  
ミモ蓋  
ナ

立ワク手

地ア井、立ワクノ大キハ墨、細キハインチ  
花ハモ、イロツハ紫、小キハ白、イツレモ

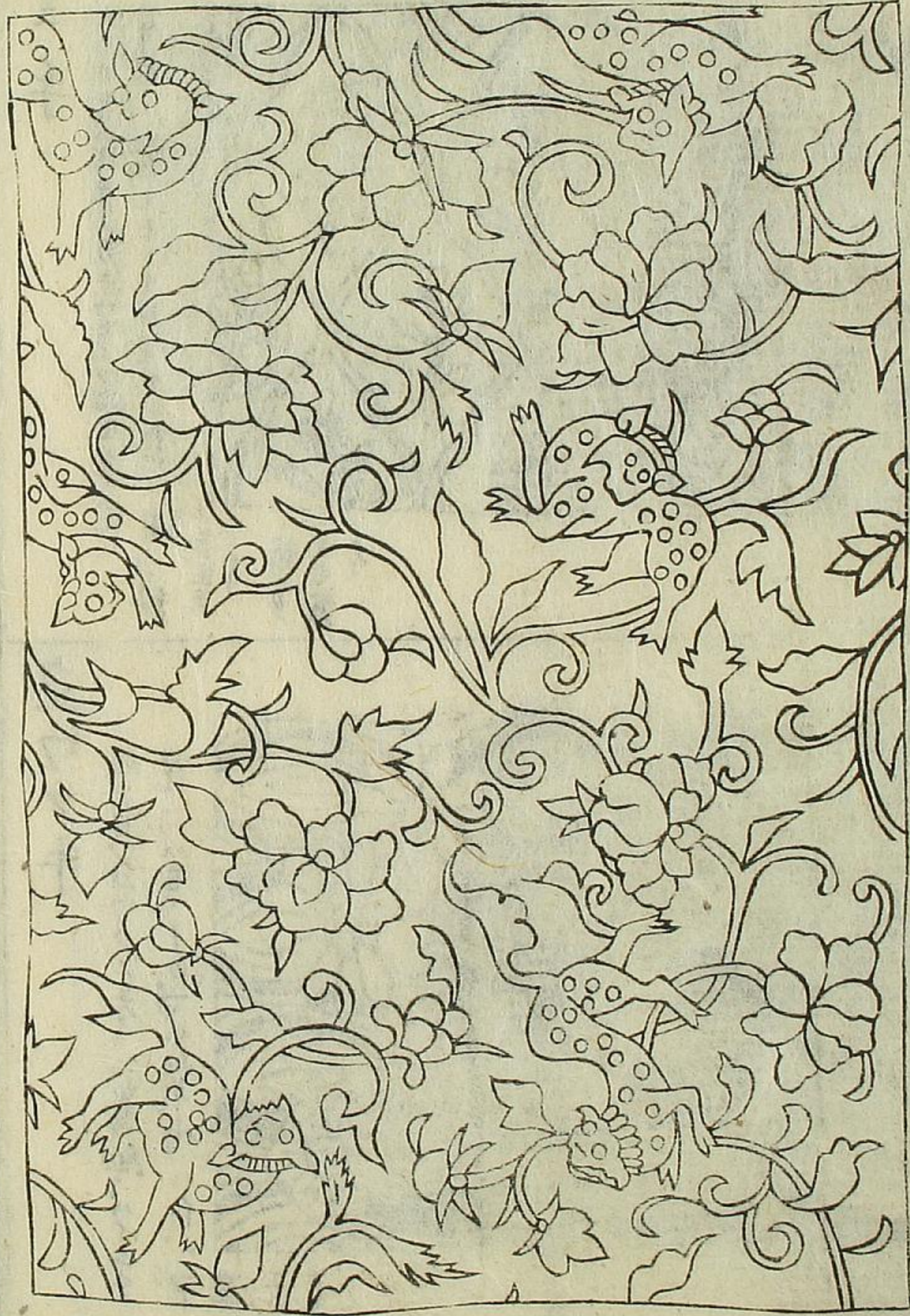


ヤノ内ハ白

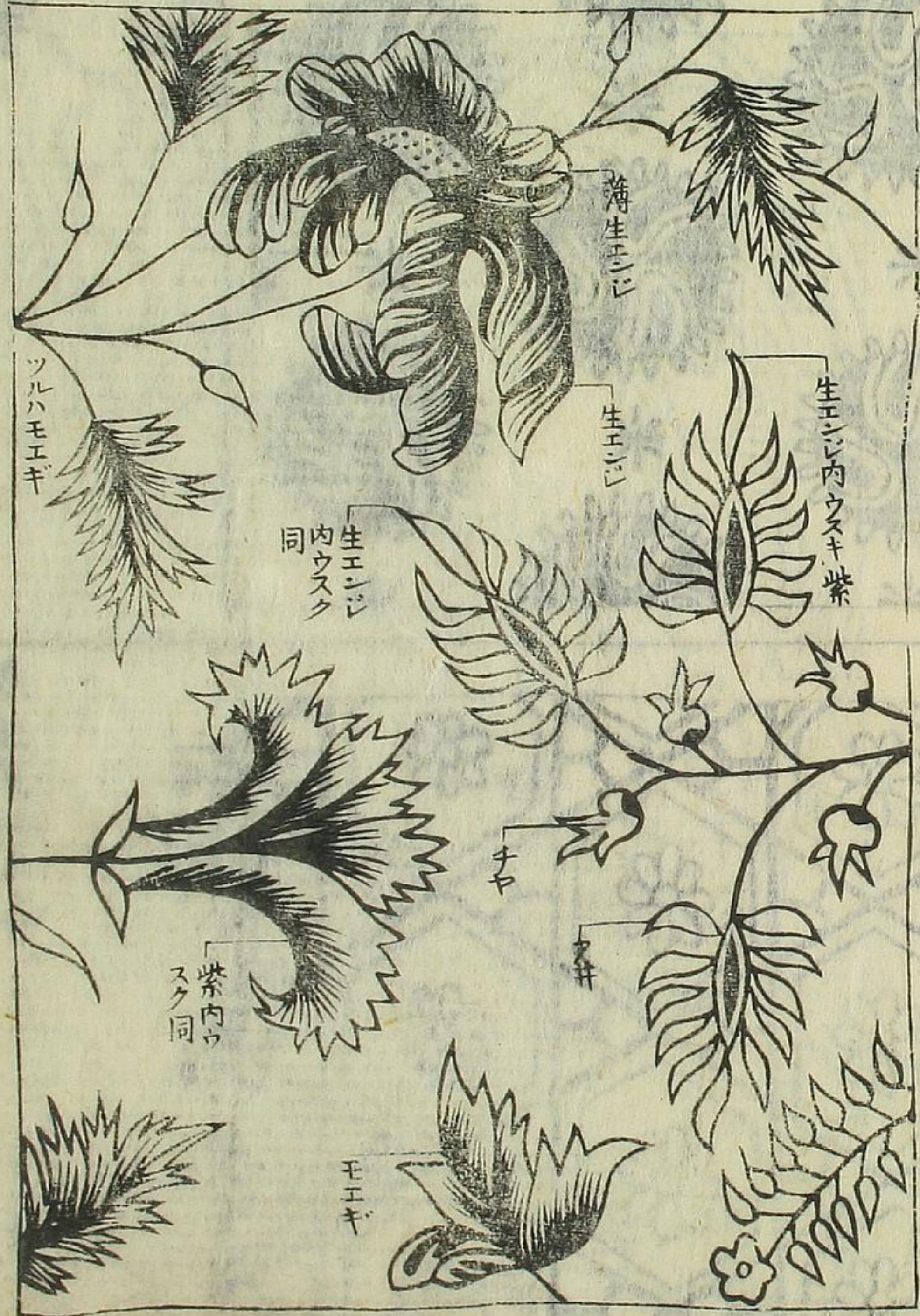
紫  
濃生  
エシ  
カキワ  
リ

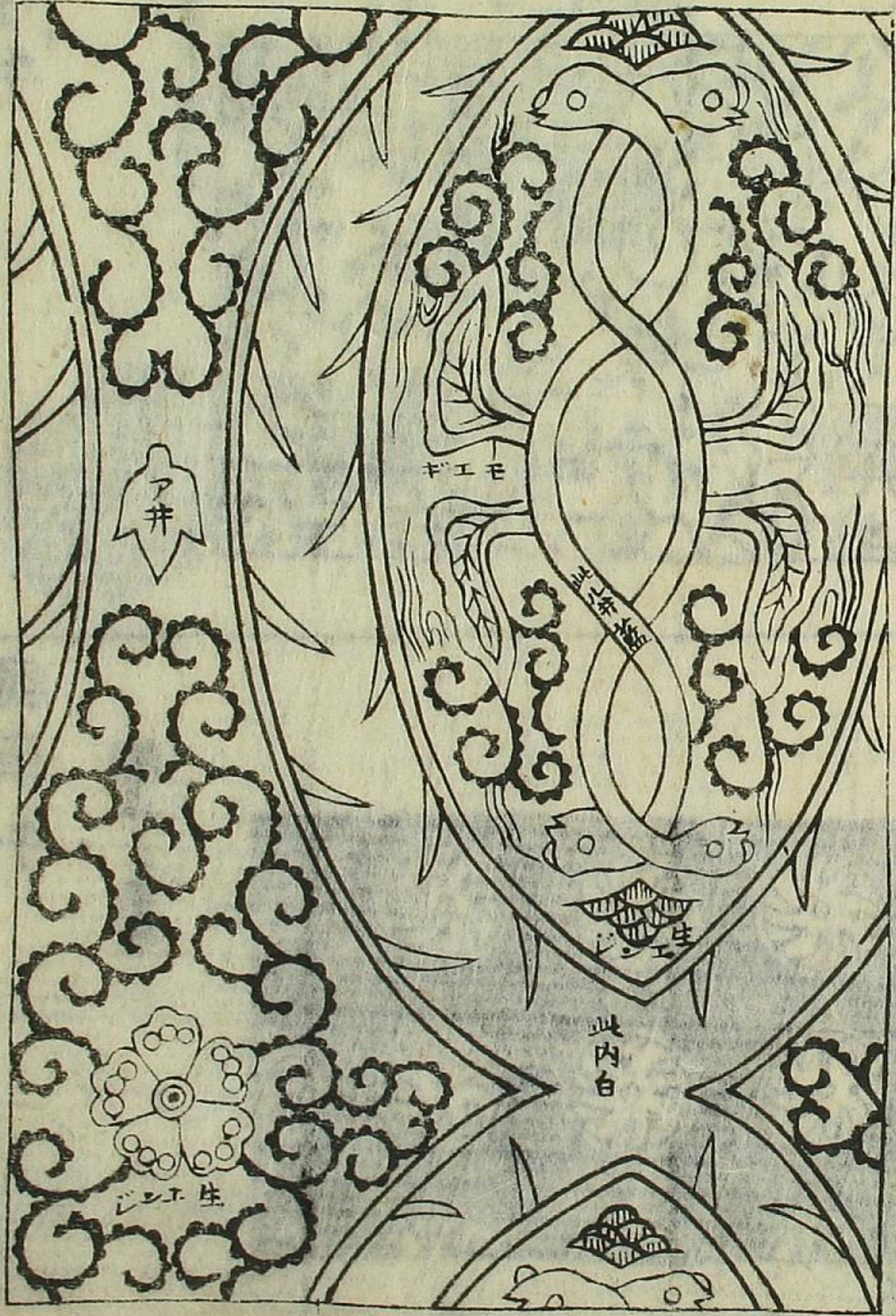
獅子手

地生エンビ花ノ類ウスキ生エンビナリ。チクハ白  
獅子ハ藍。背ノ文ハ白ノ添ヌキ。細カキハ墨



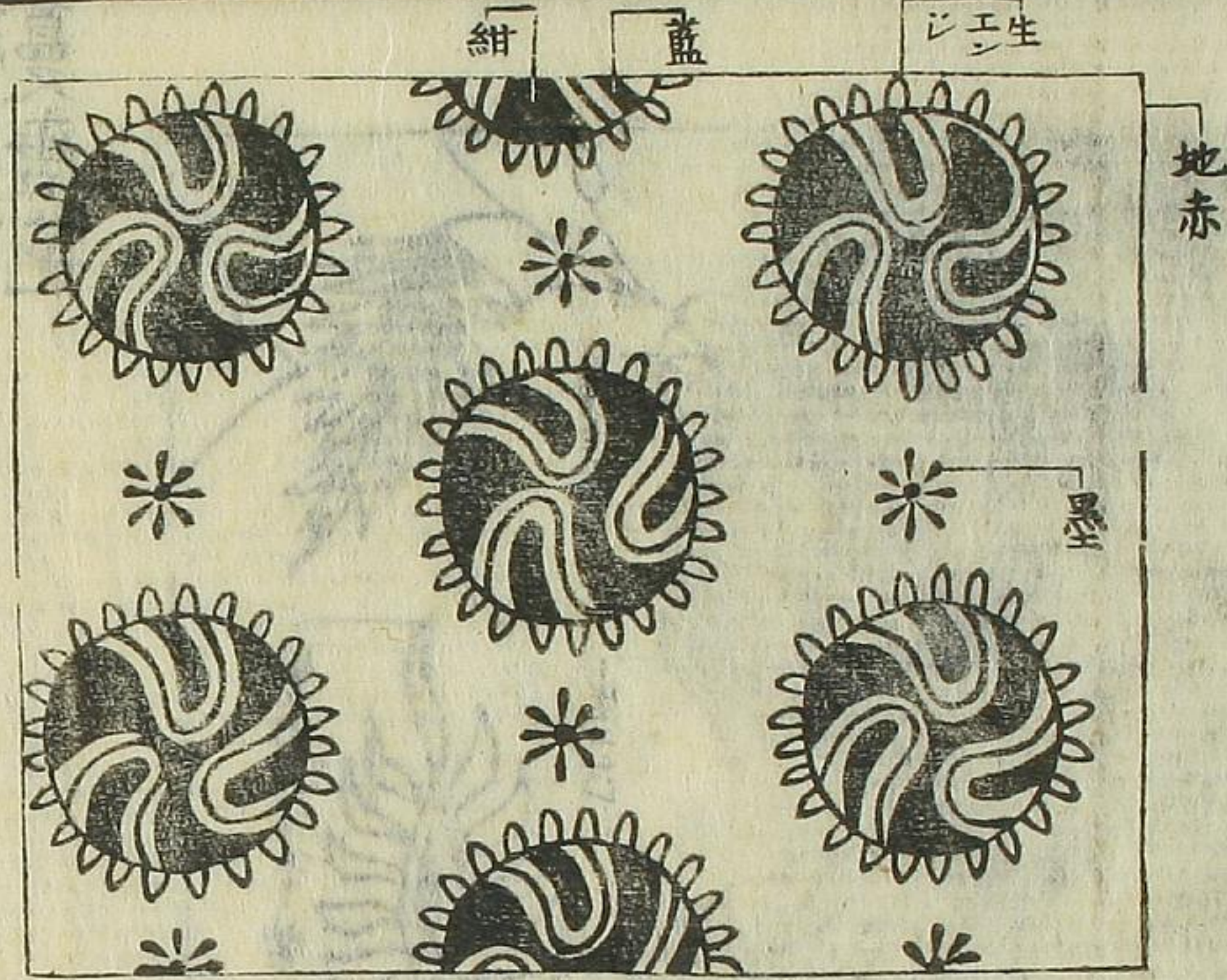
蔓唐花



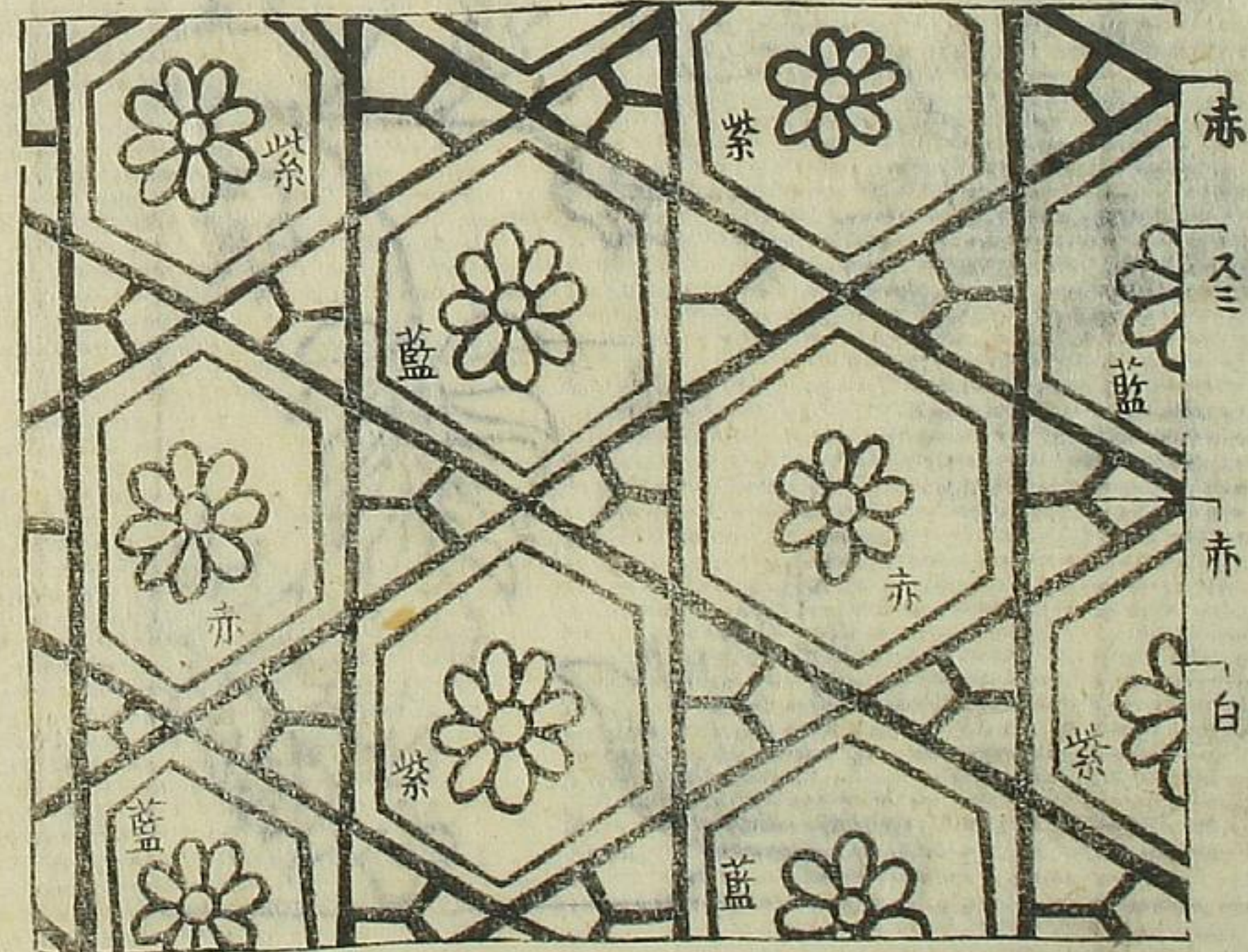


兩頭手

巴手



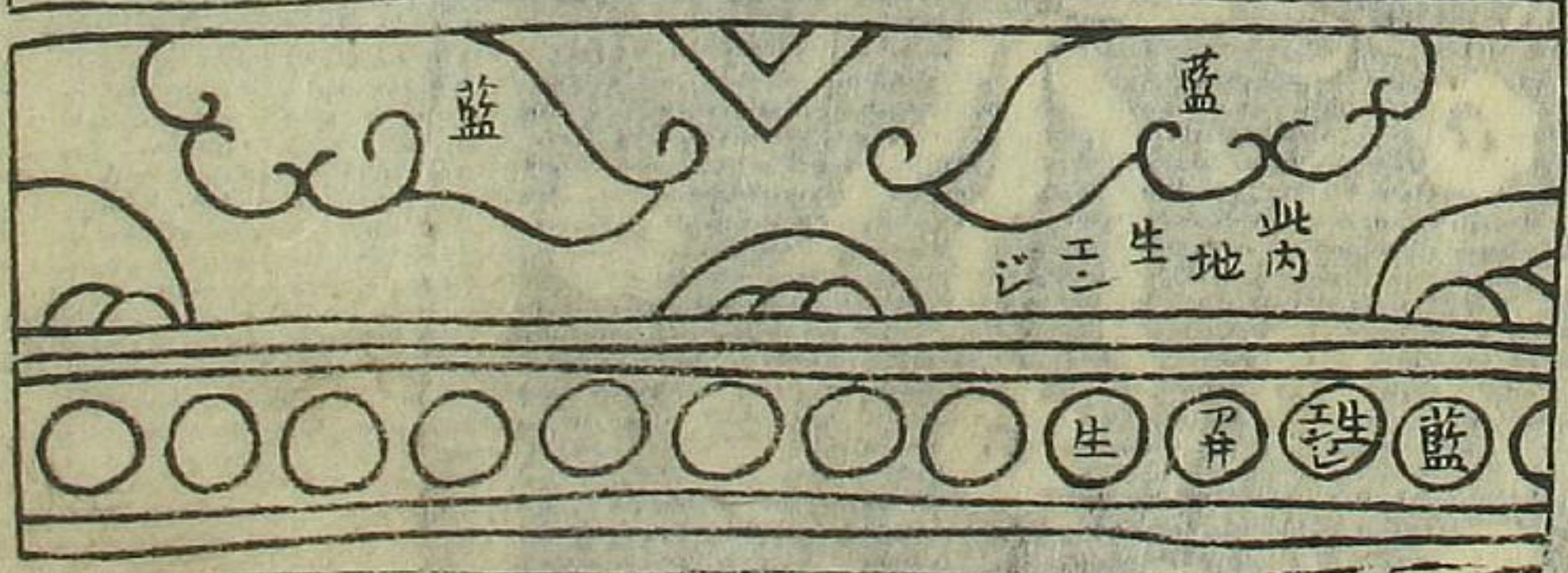
カゴメザラサ



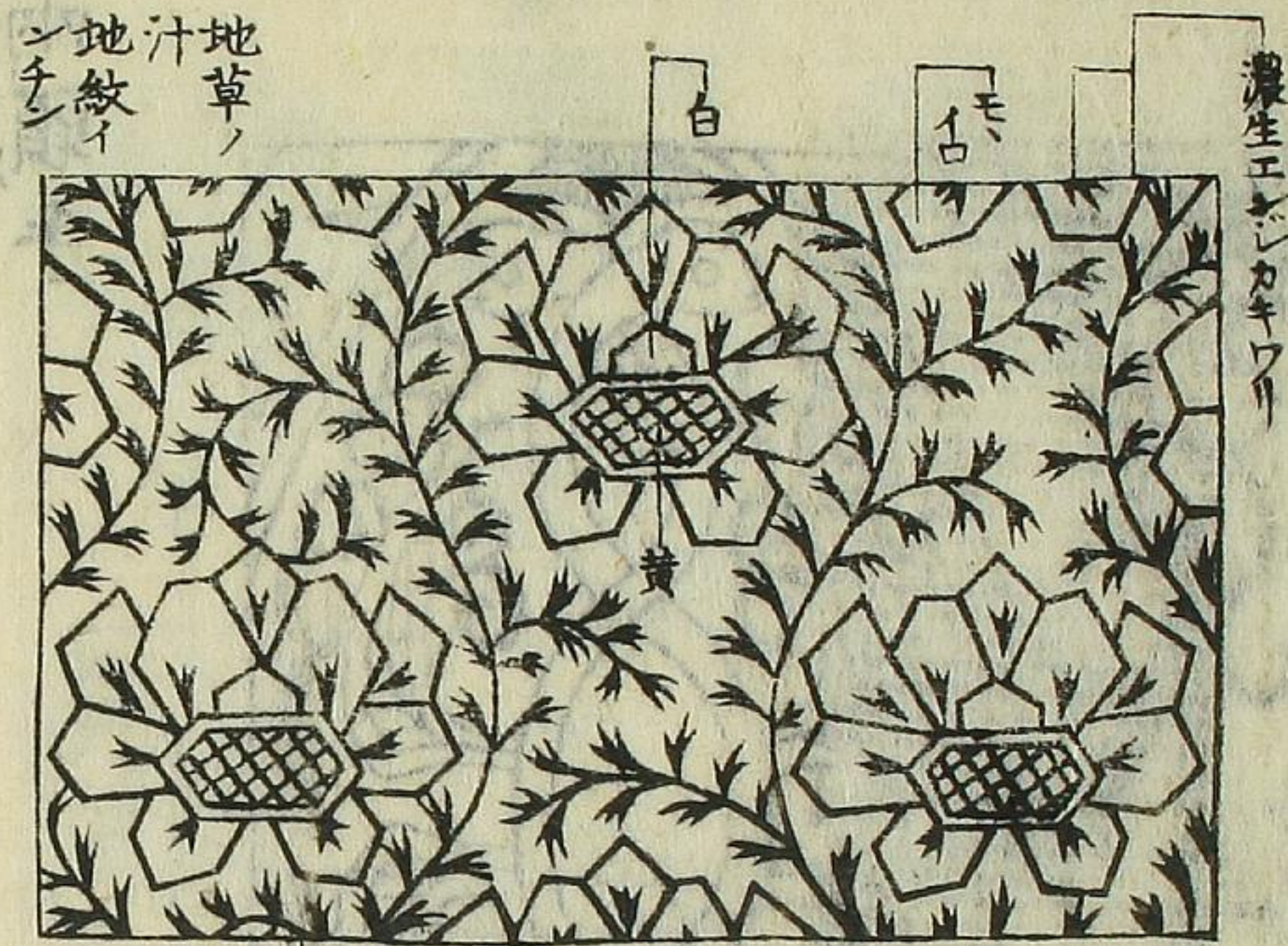


人形手

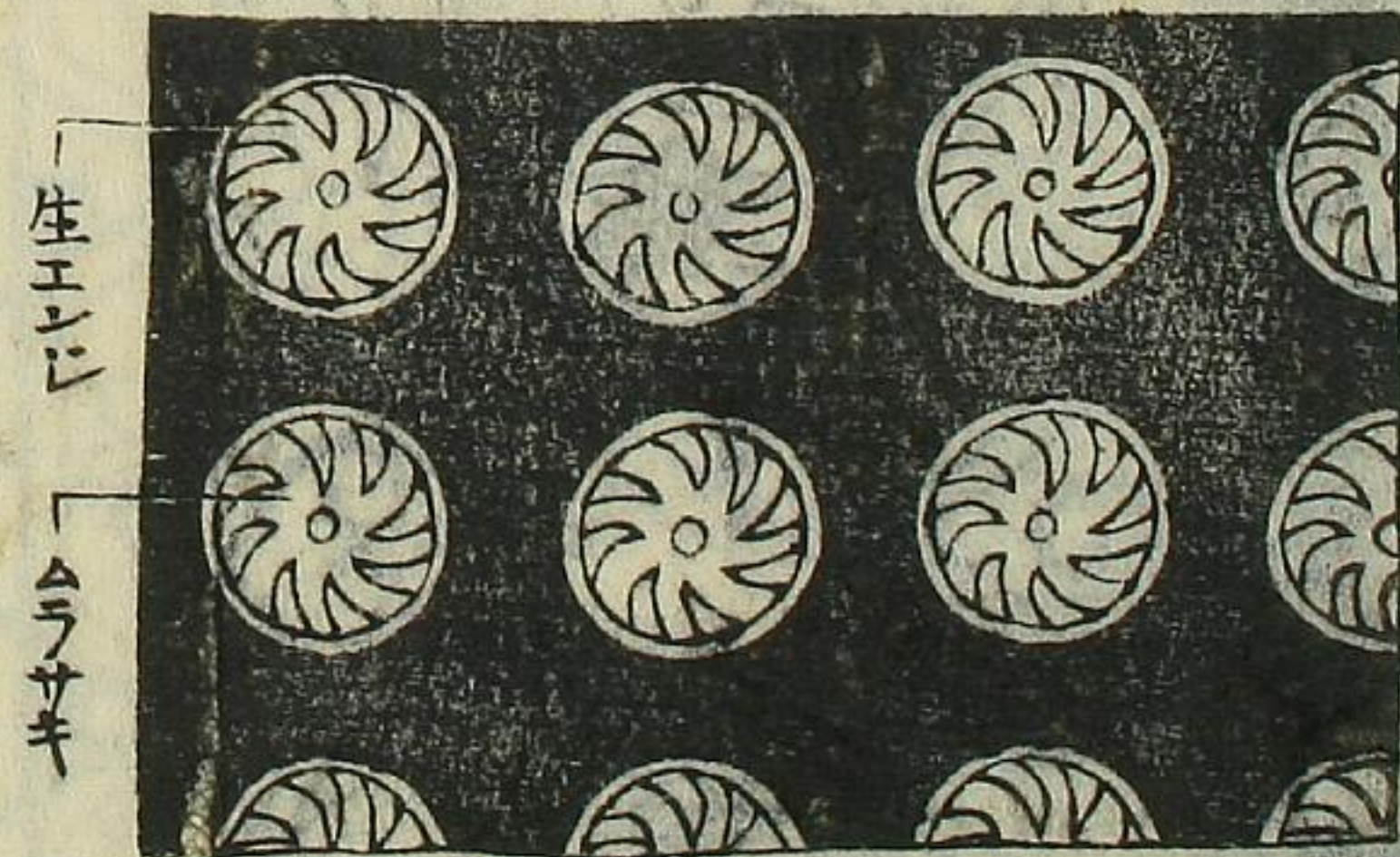
此内生エンビ紋ハコキ生エンビ



牡丹手



風車手



地ツヤノキキ



諫鼓手

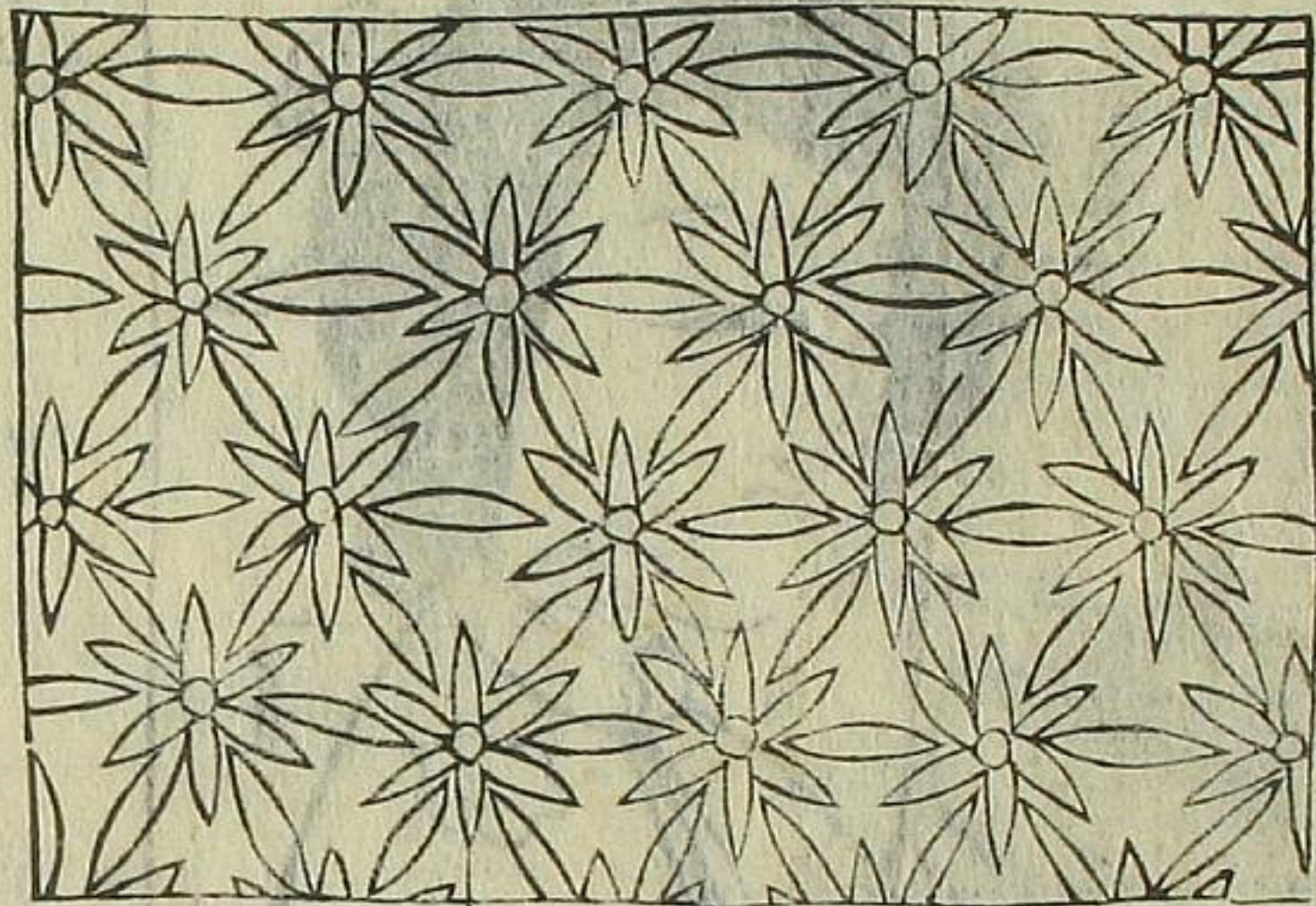
地黒ナリ  
三日月藍

アイ  
赤

八  
下

篠葉手

キヤ色  
總細ガキ紺

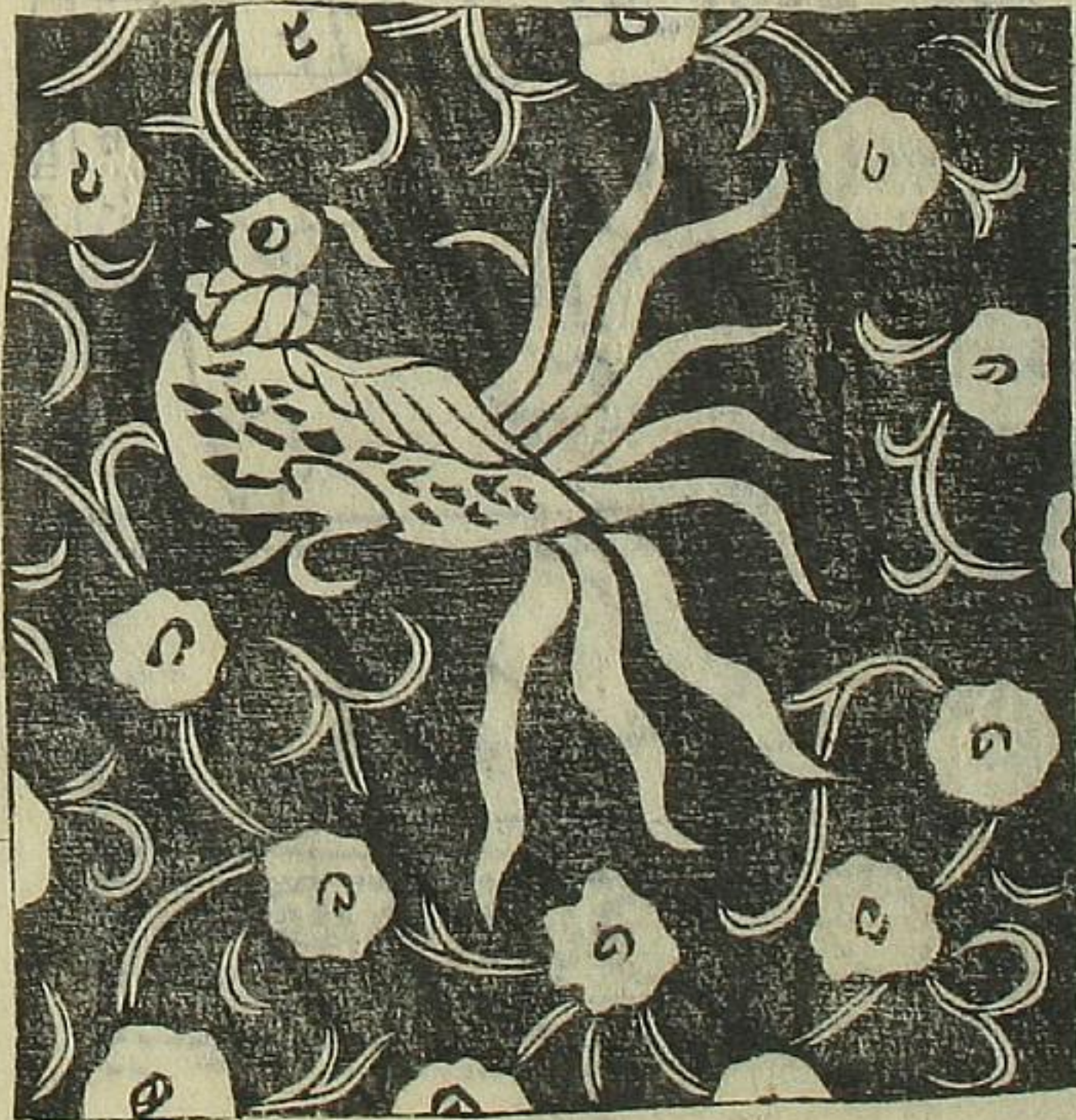


ビエン生

山鵲手

鳥ノ尾紫頭カラ生エンジ

花生エンジ



地ア井

元紫

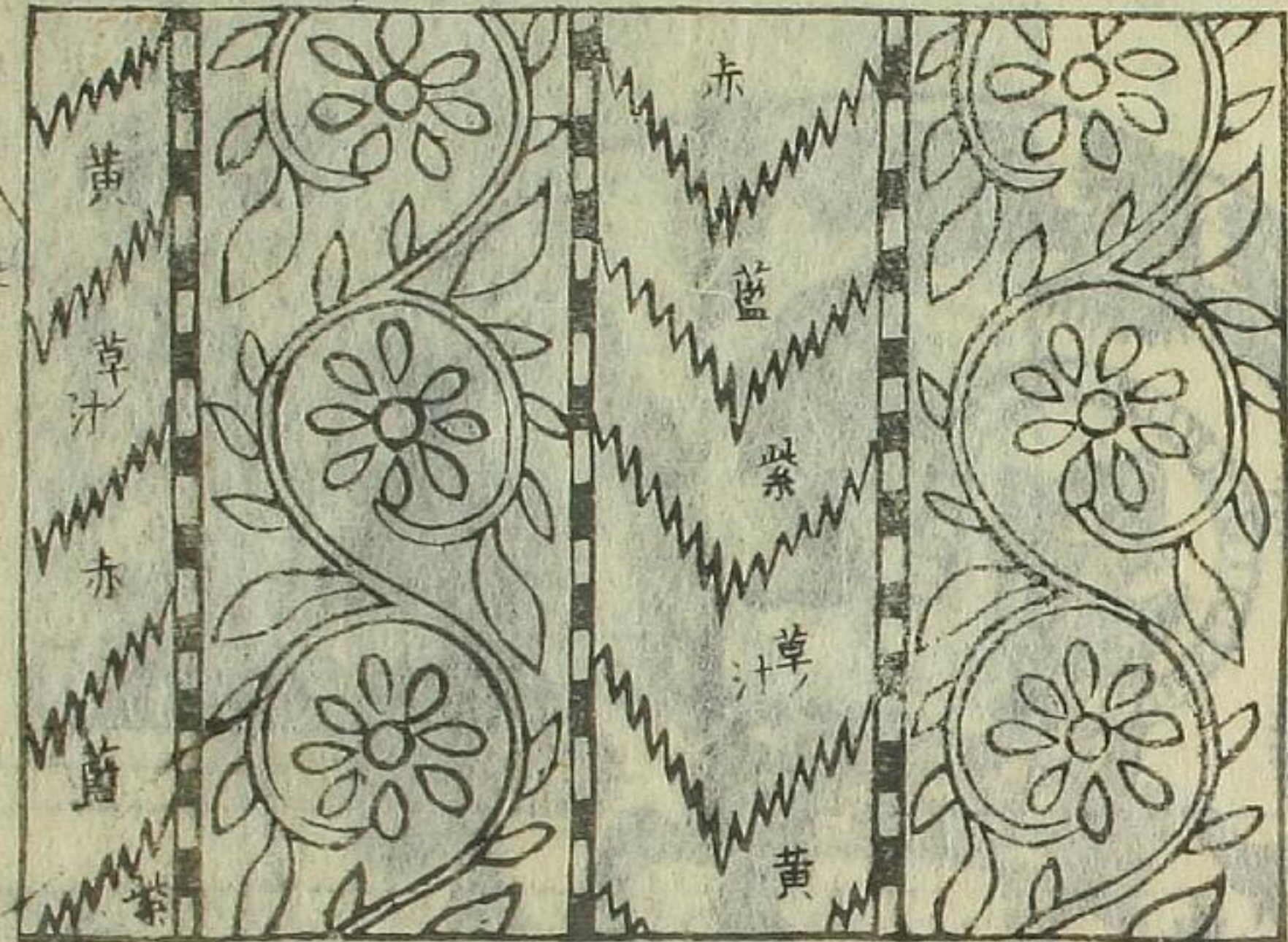
山水手

赤ノ雲相フリモアリ  
スミガキ花トリハ赤リカキワケ



段ガラサ

物心カキワリスミ花一ツハ赤一ツハ紫  
▲ツル葉ハ草汁 ▲ダテマチノ星赤



此ラコク中ホト  
ヨリ未ラホカスニ

龜ザラサ

地ツヤマル黒ナリ



右亀ノ甲ノ上ヲモ紫ノ一ツナラバ  
ヤハリ紫ニテ薄クカケナリ

ア井 生 紫

テニメウ手

地モエキ



此類墨



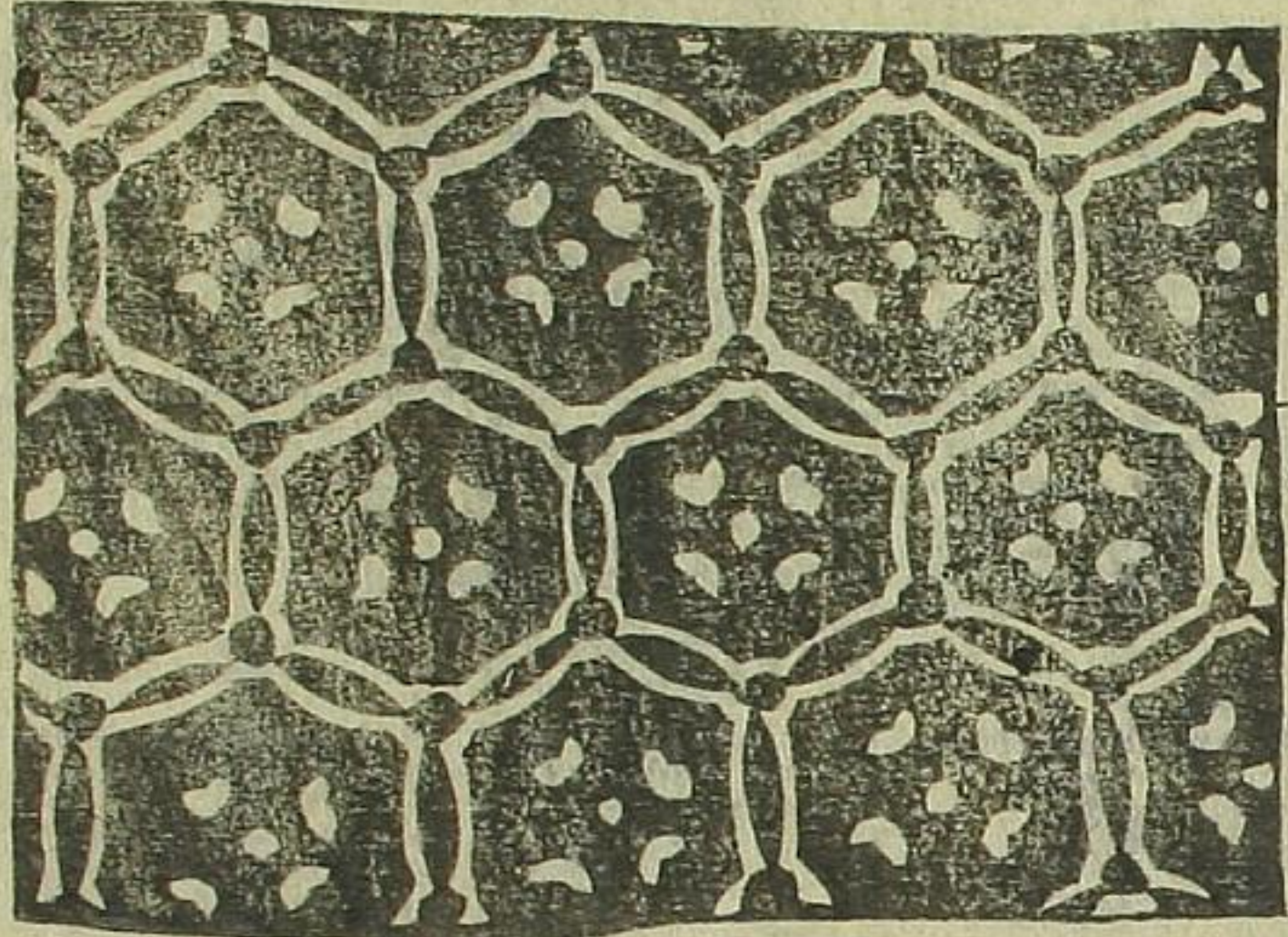
此内ウエキ生エンジ

交趾龜甲

香白手

地生エンジ

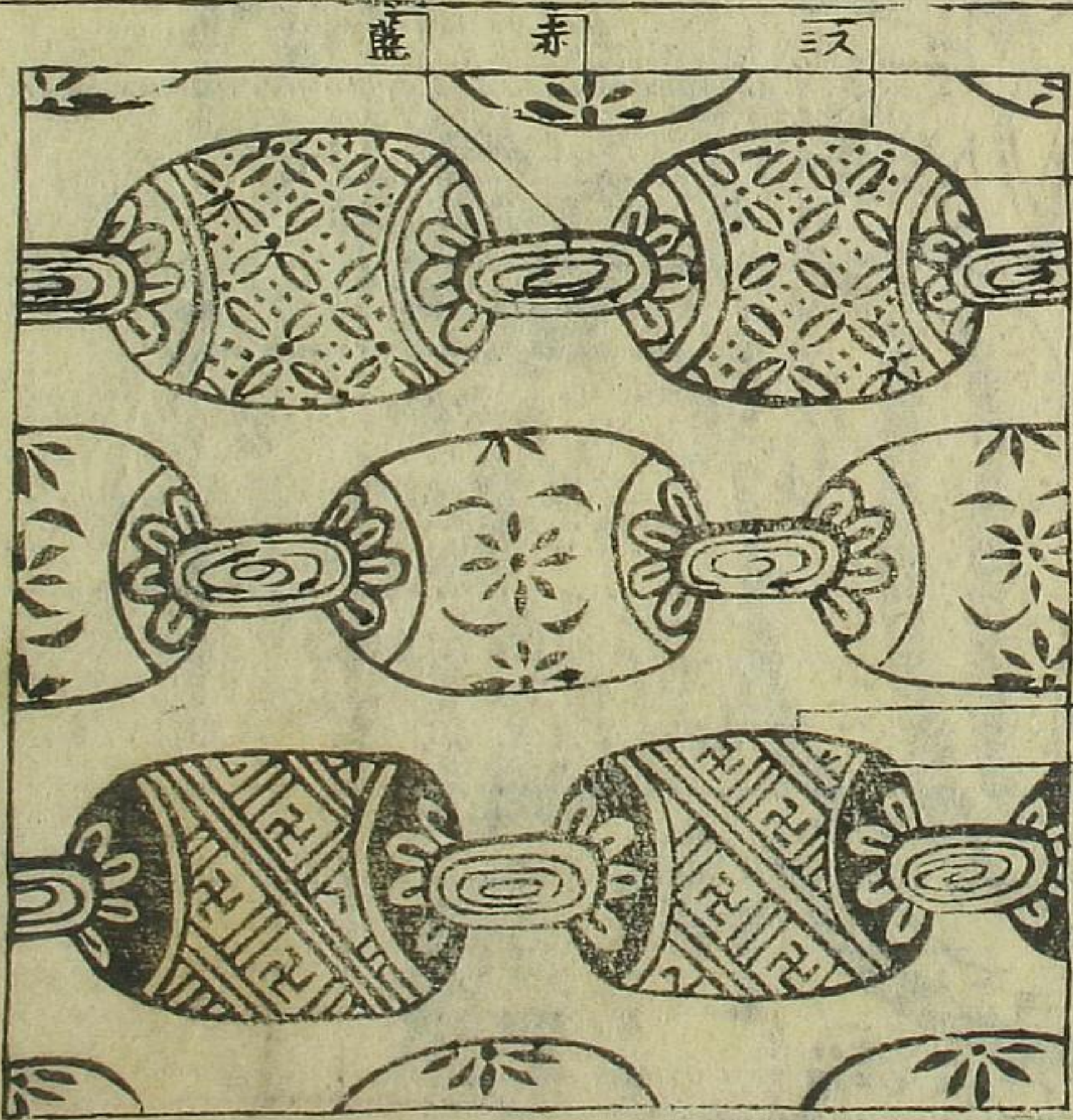
不殘藍



此ヲエンジ

地アイニテ模様墨ガキ  
此スチ赤

赤



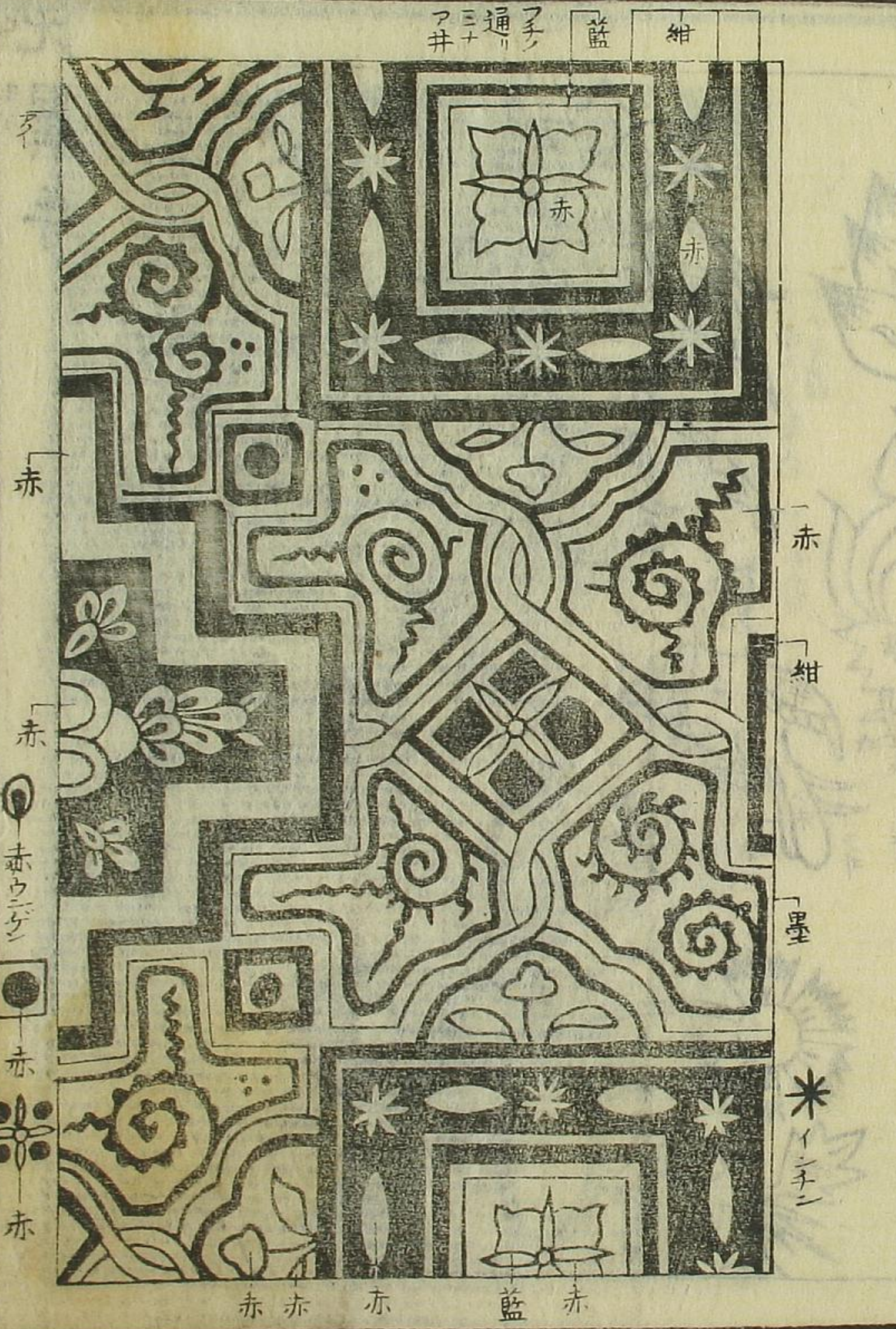
藍 赤 三



大唐花手



蜀紅手





八之字手

スミカキ花ハ赤ノカキワリ薄生エニサナリ  
葉草ノ汁

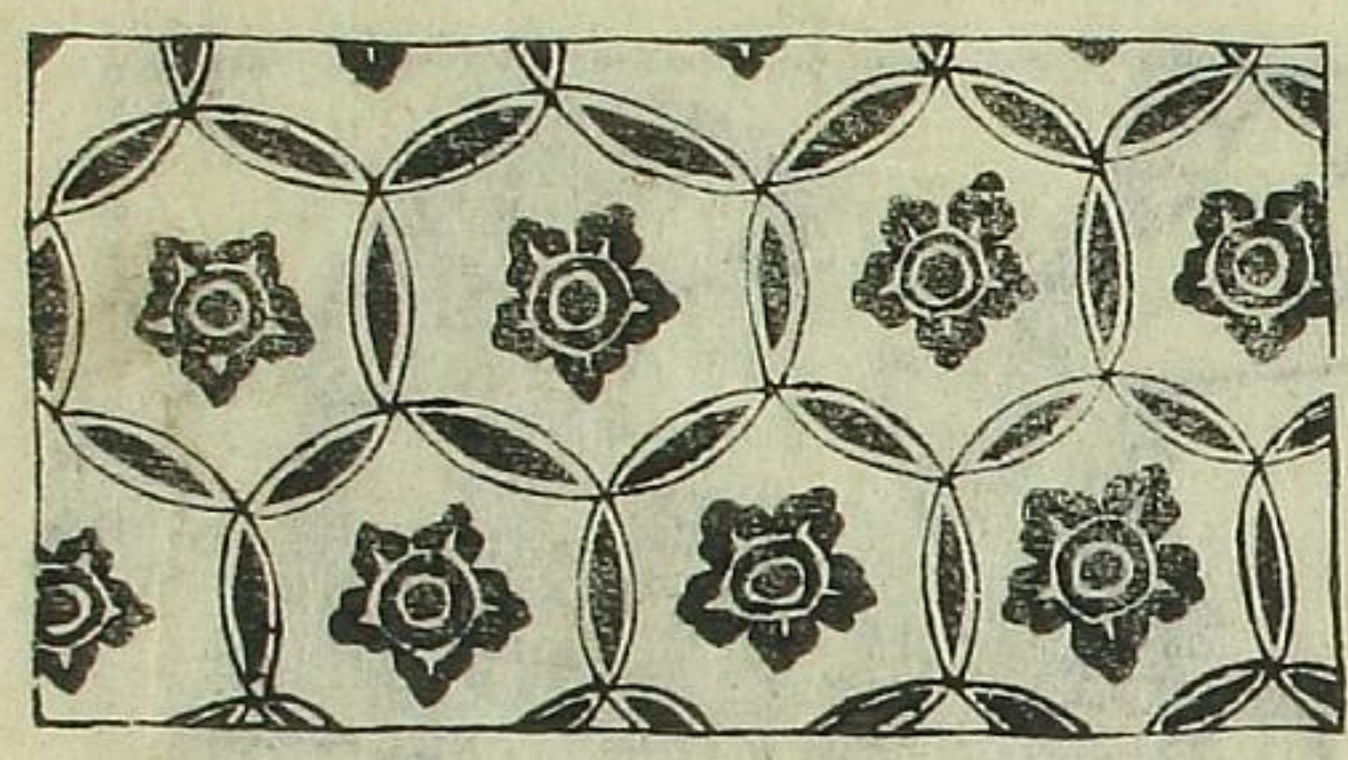


赤カキワリウチ生エニサナリ

赤 墨

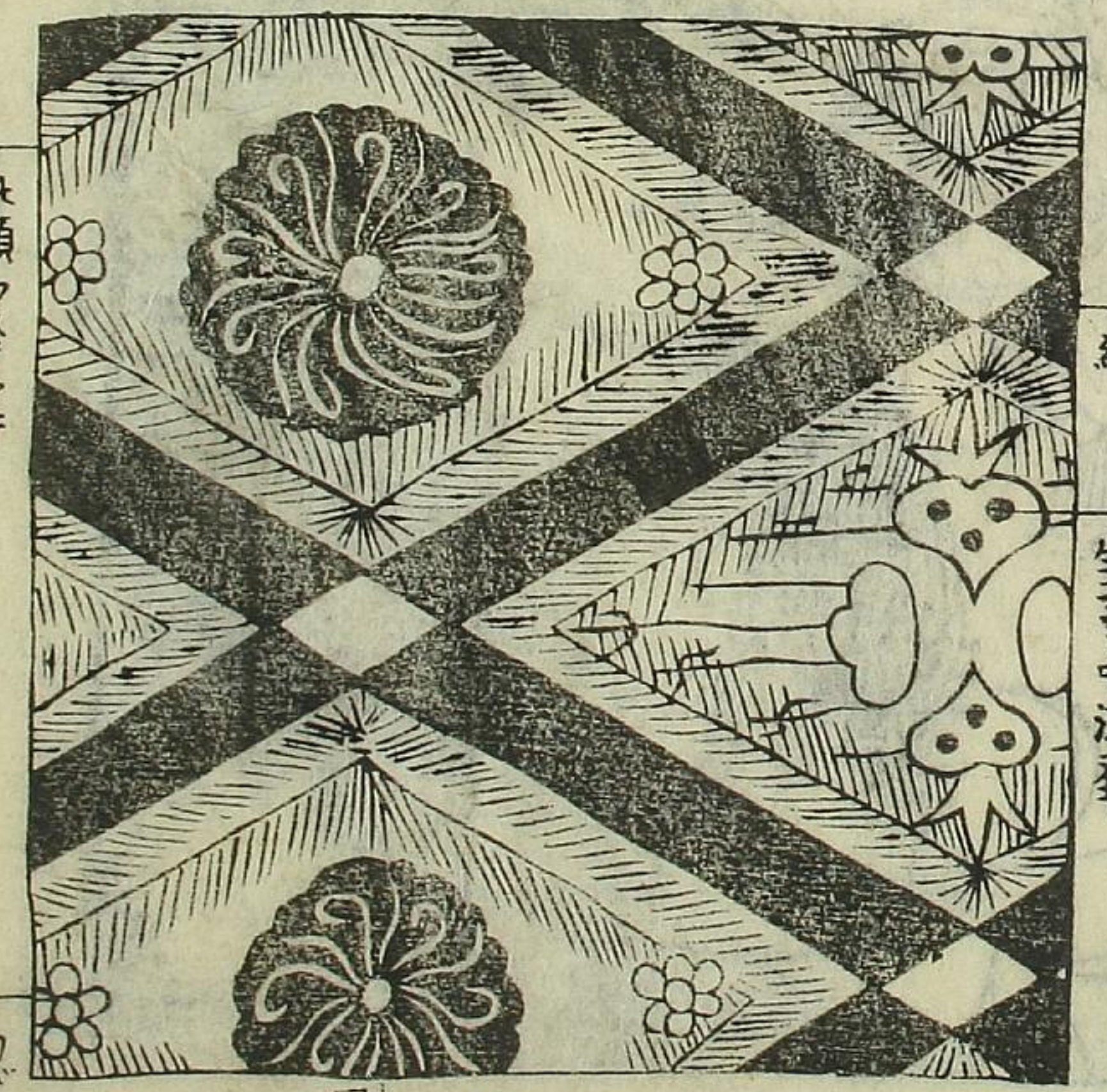
輪違手

白地ニ不残藍



大菱友手

此類ウスキア井

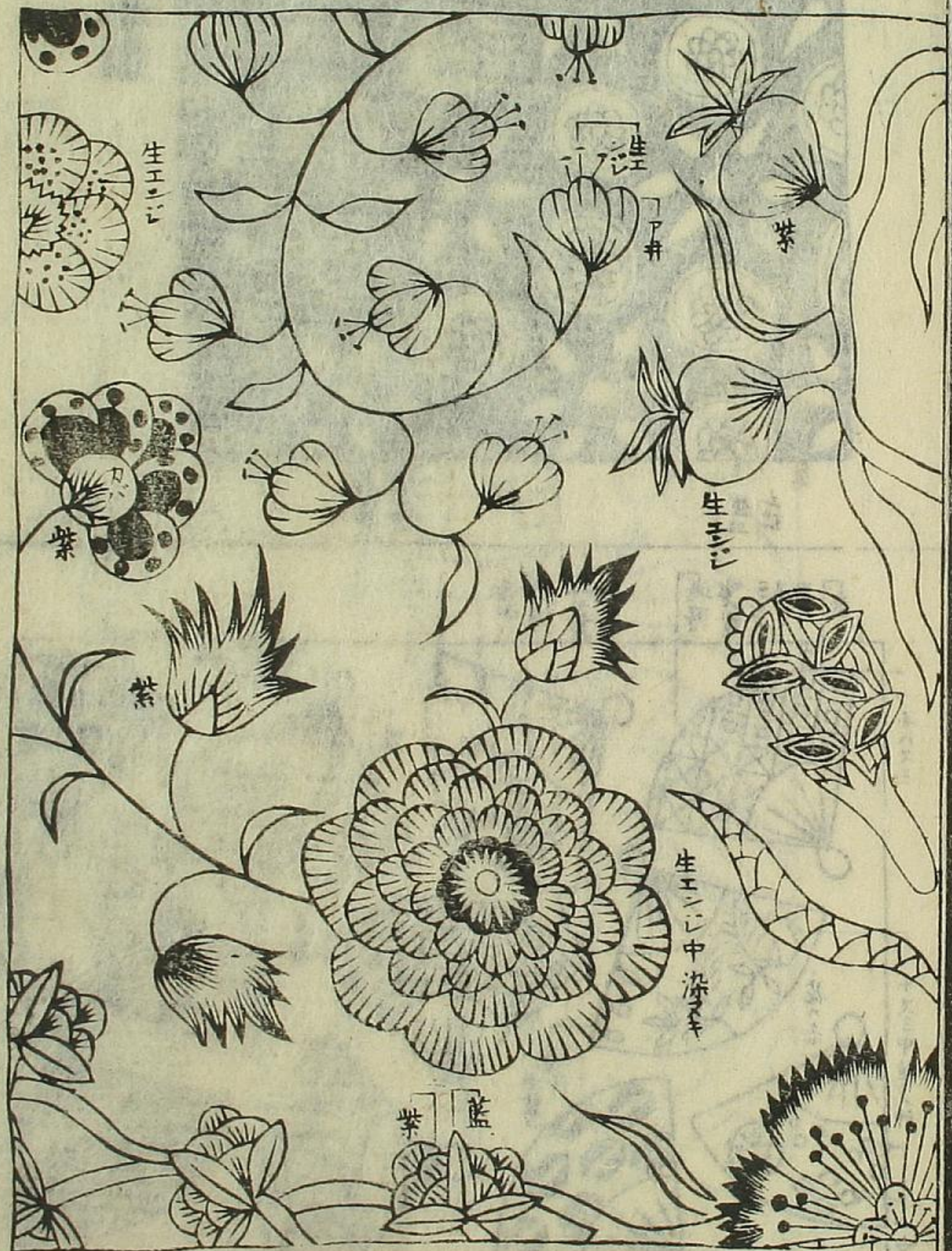


紺

生エニ中添ヌキ

カバ

生エニ

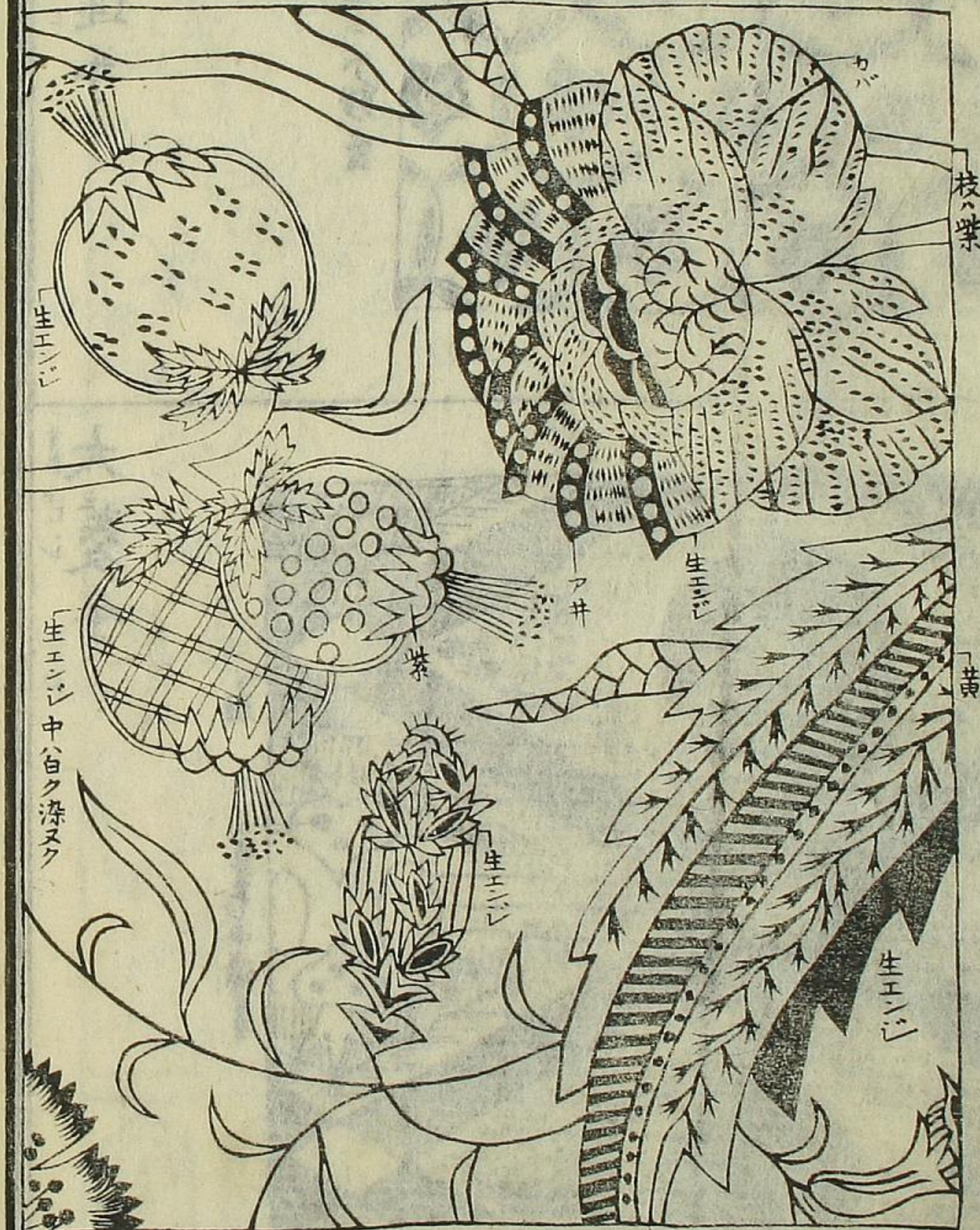


紫ツルノ類草汁

黄 中 紫

石榴手

サクラロ

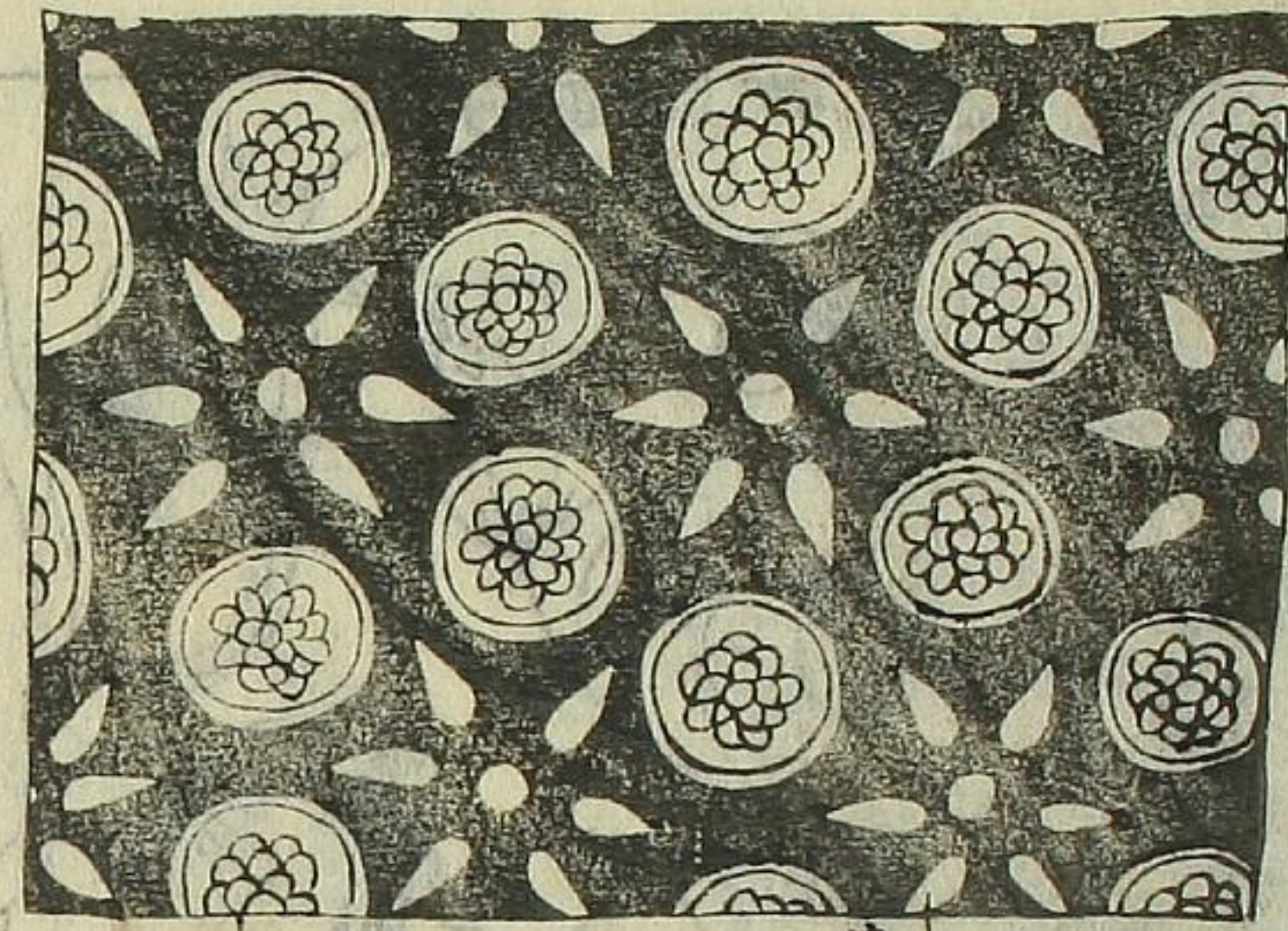


藍 白ク 涼ヌク



人形手

地藍イナゴ手

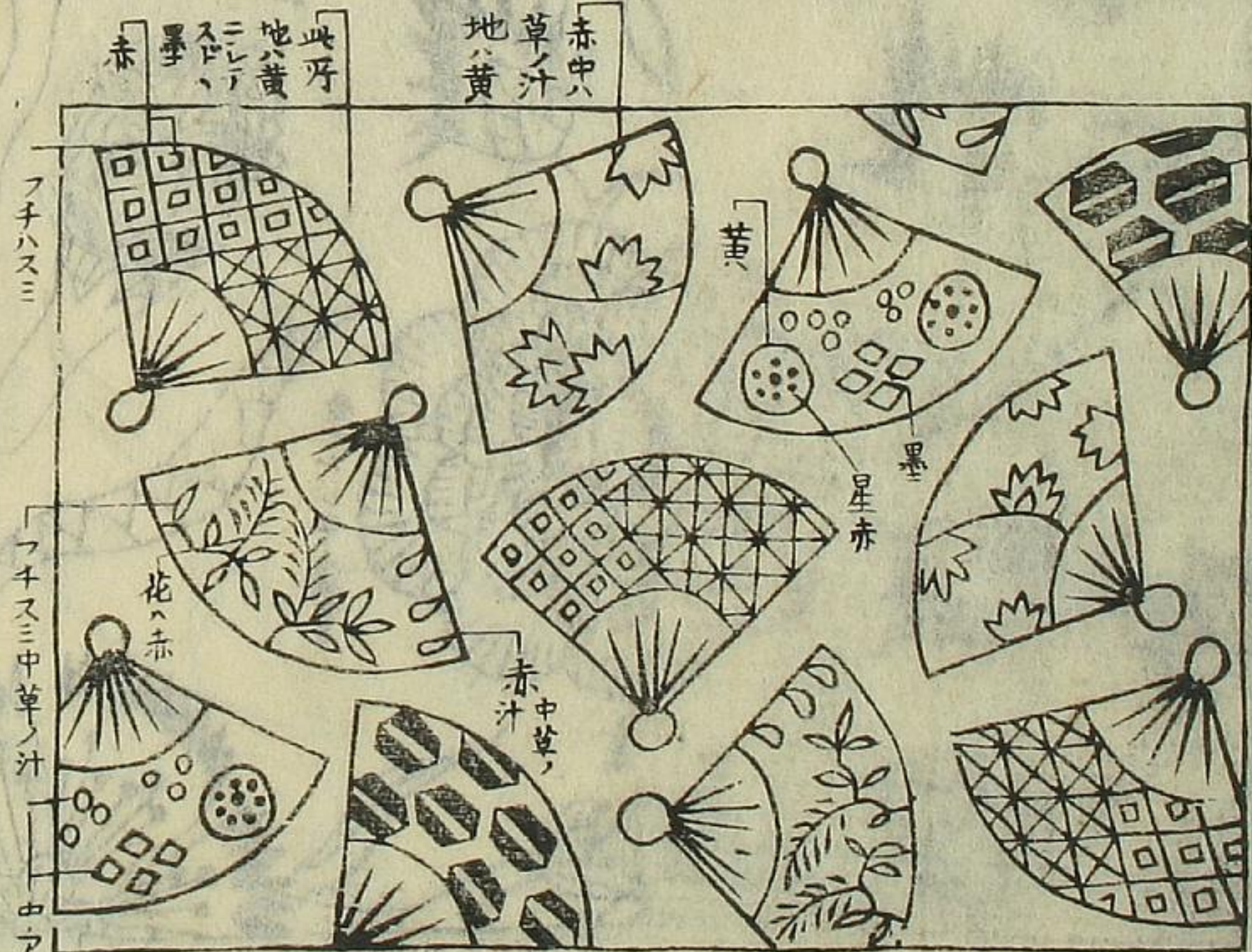


地濃藍

生

白ク

扇手



赤

墨

地

此

牙

地

草

赤

中

黄

汁

赤

中

草

汁

フチハスミ

フチハスミ中草ノ汁

中草

黄

墨

星

赤

赤

中

草

汁

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

黄

赤

藍

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

赤

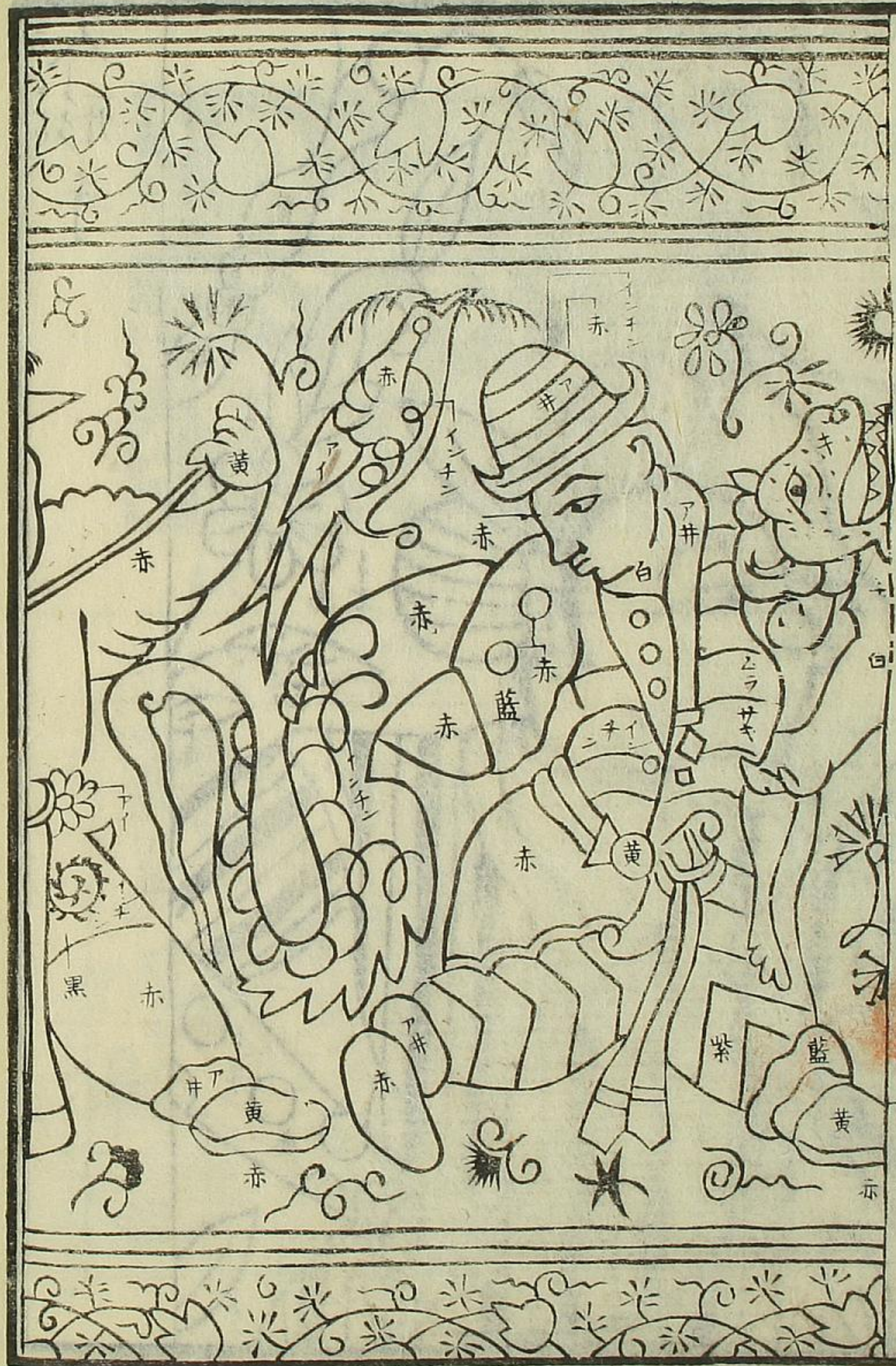
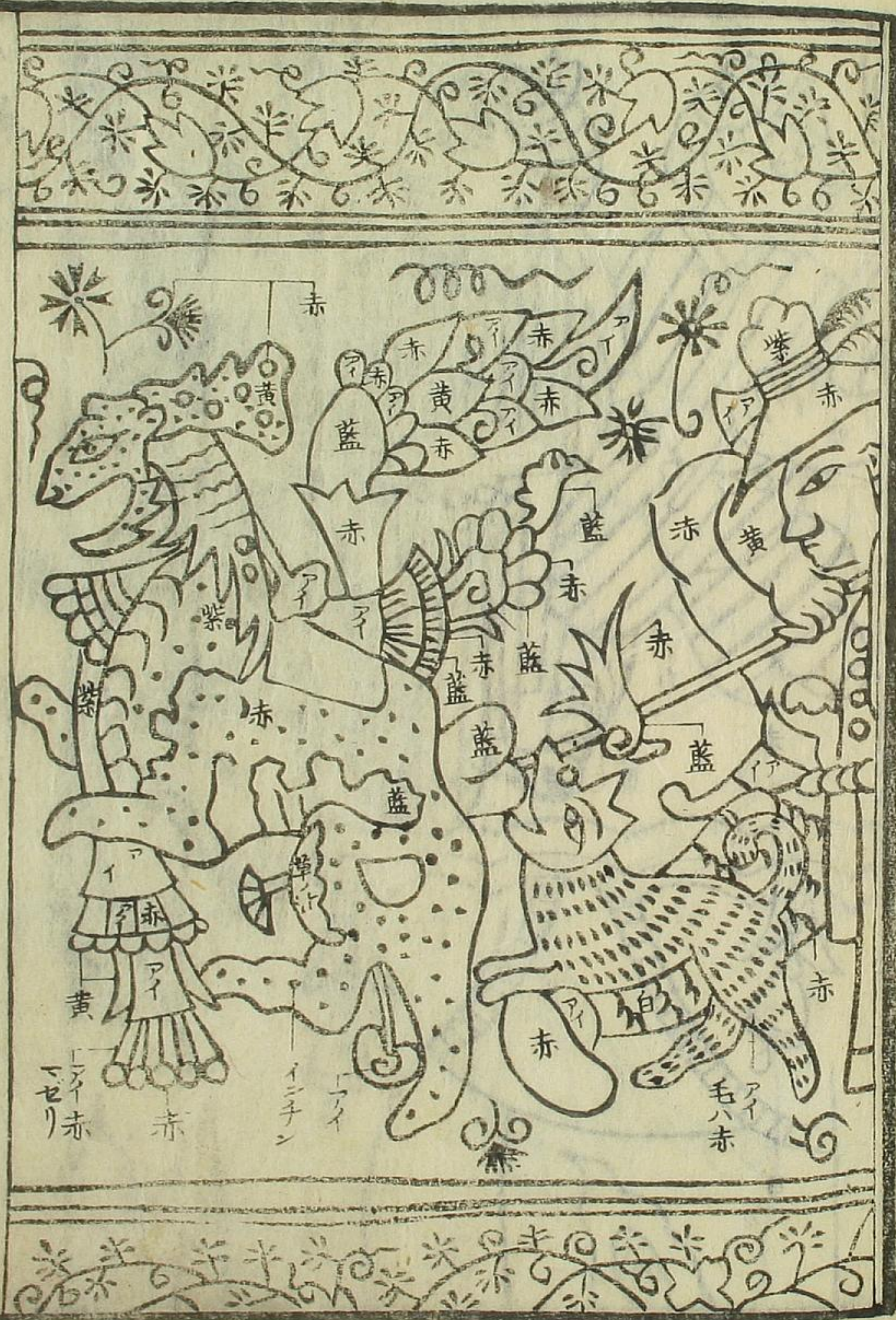
赤

赤

赤

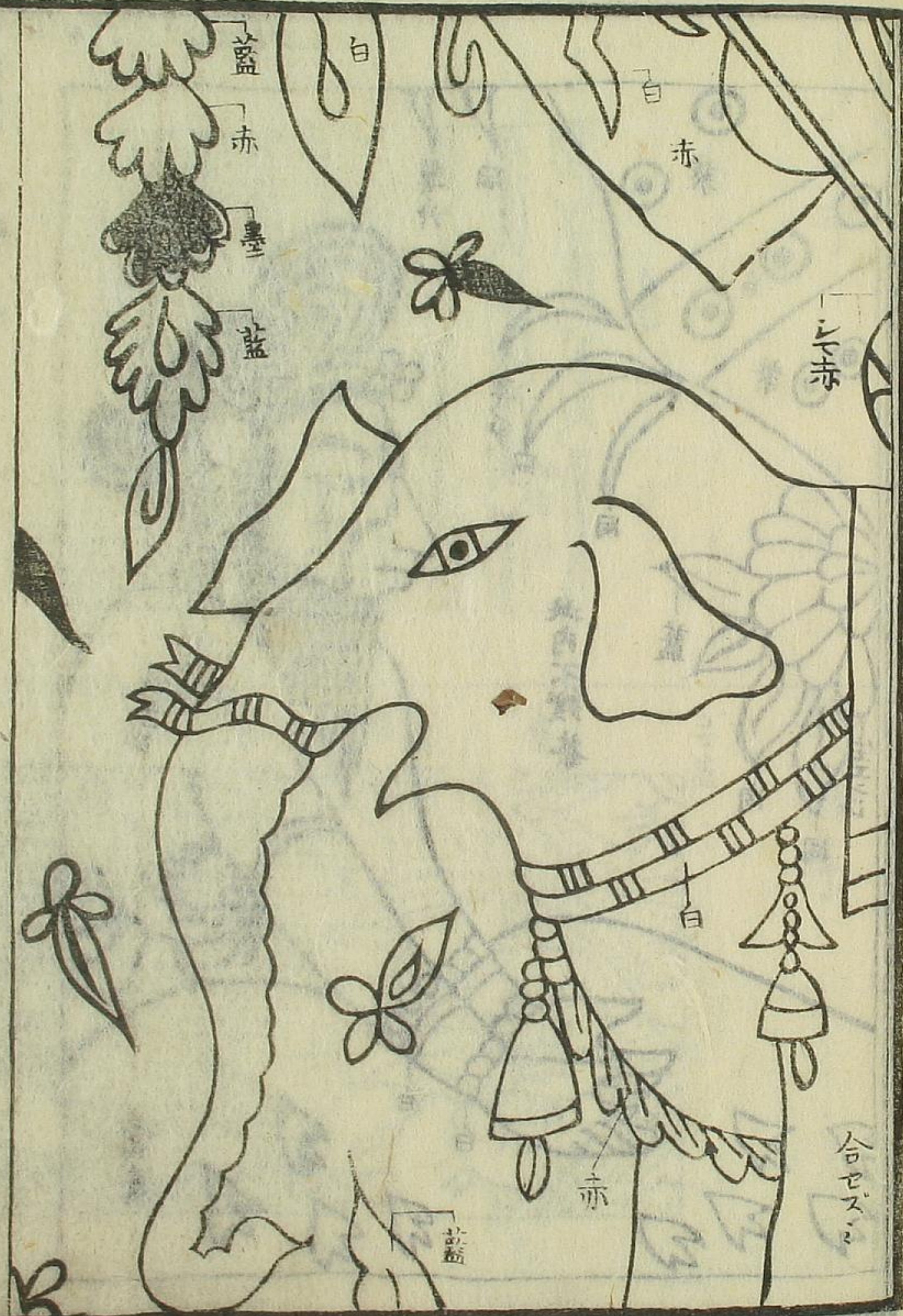
赤

赤

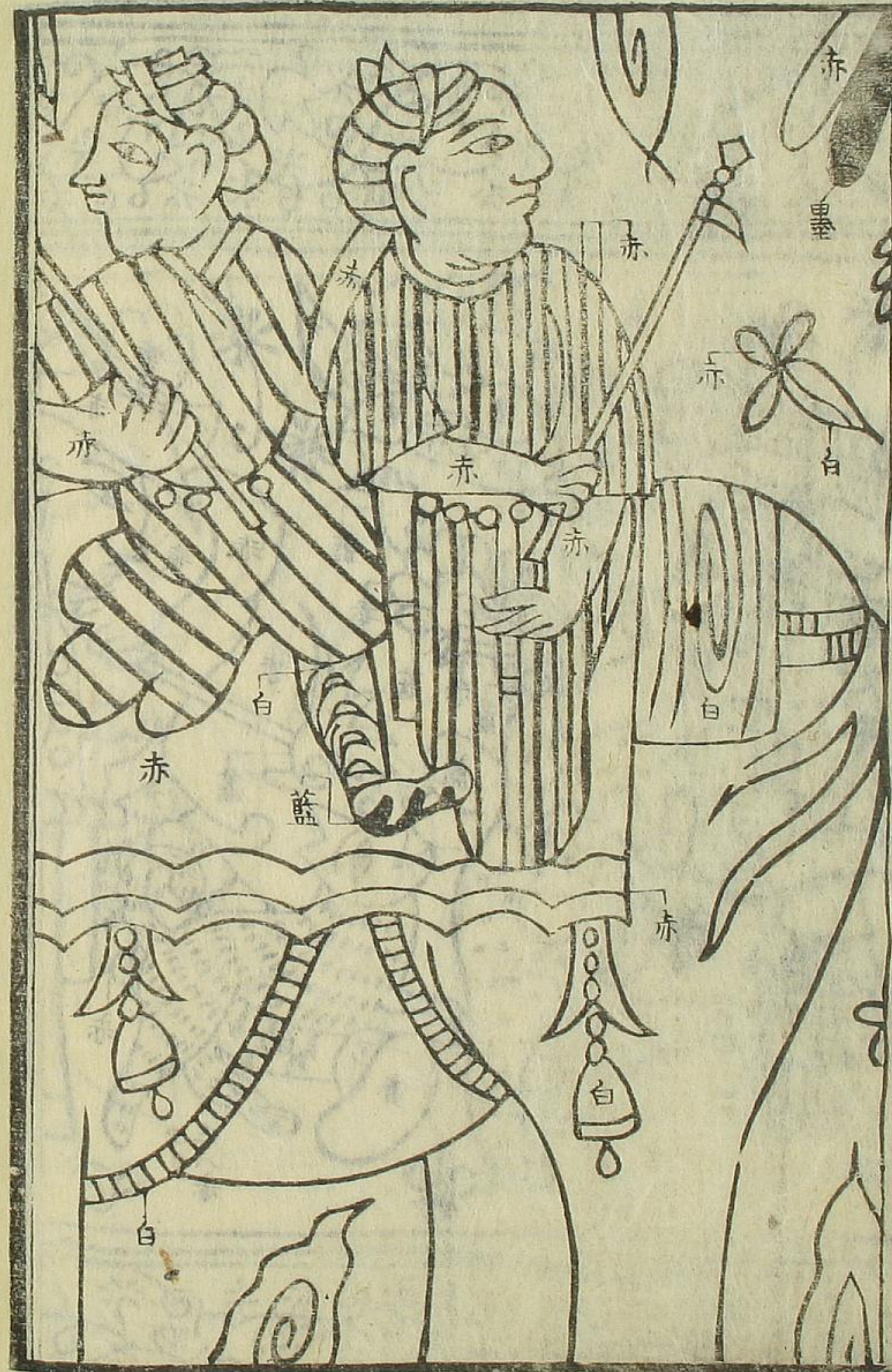


人形手

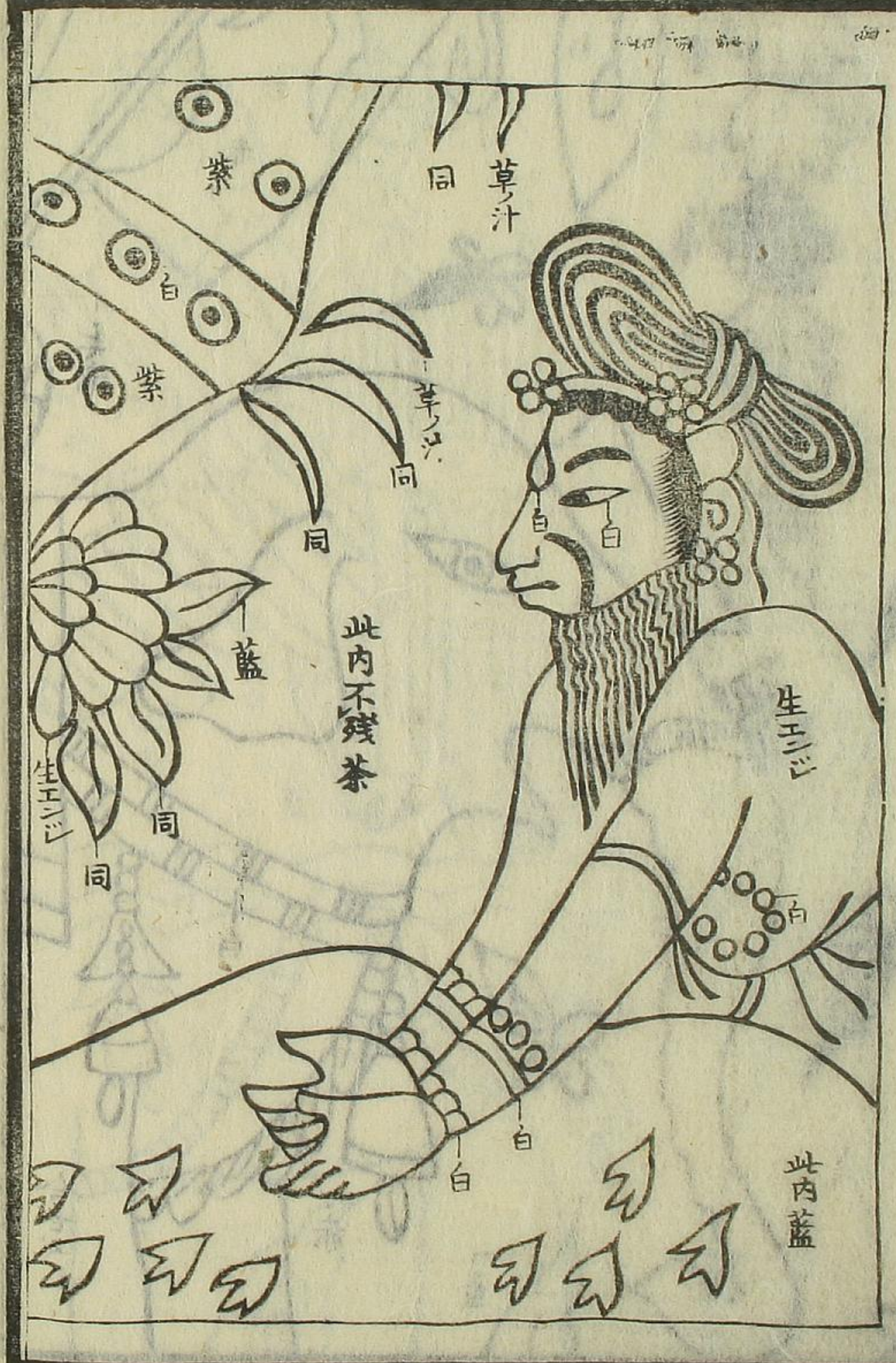
スミガキ上下ノタニノモウ皆イニキニテカキ。  
 生エシラカケルナリ。地ノキラハ皆赤ナリ



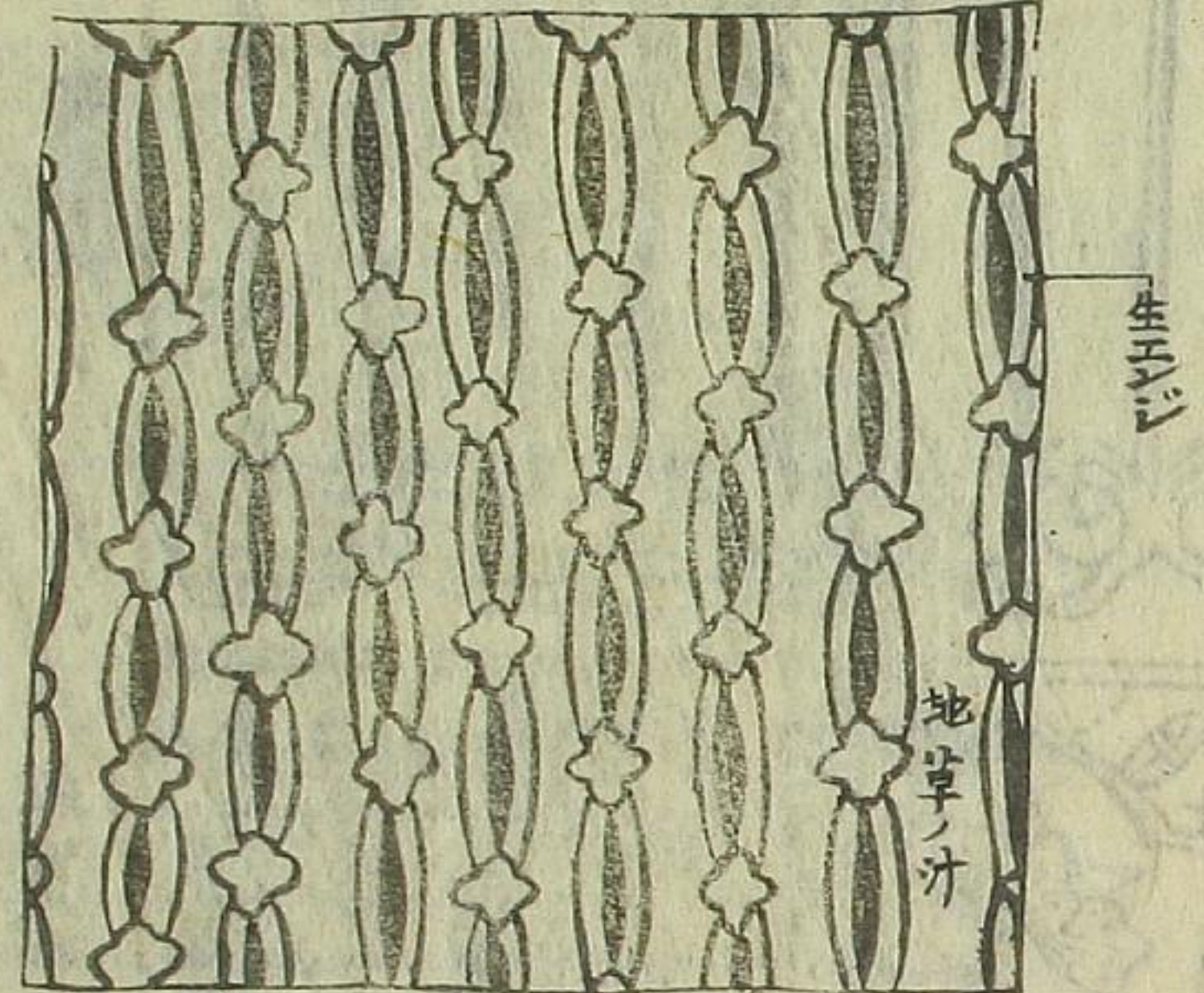
人形手



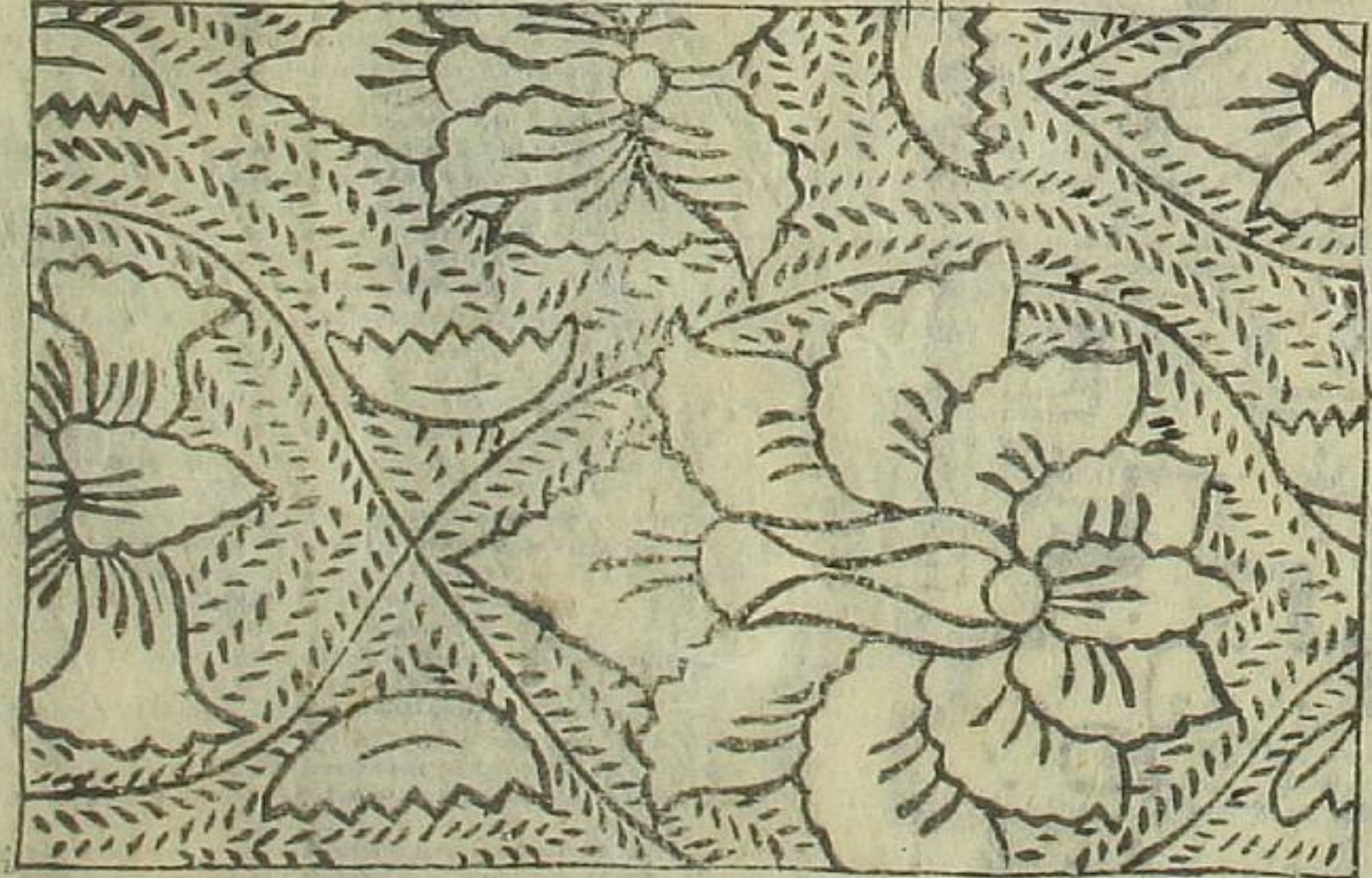
古渡人形ニ



クサ手



胡麻手

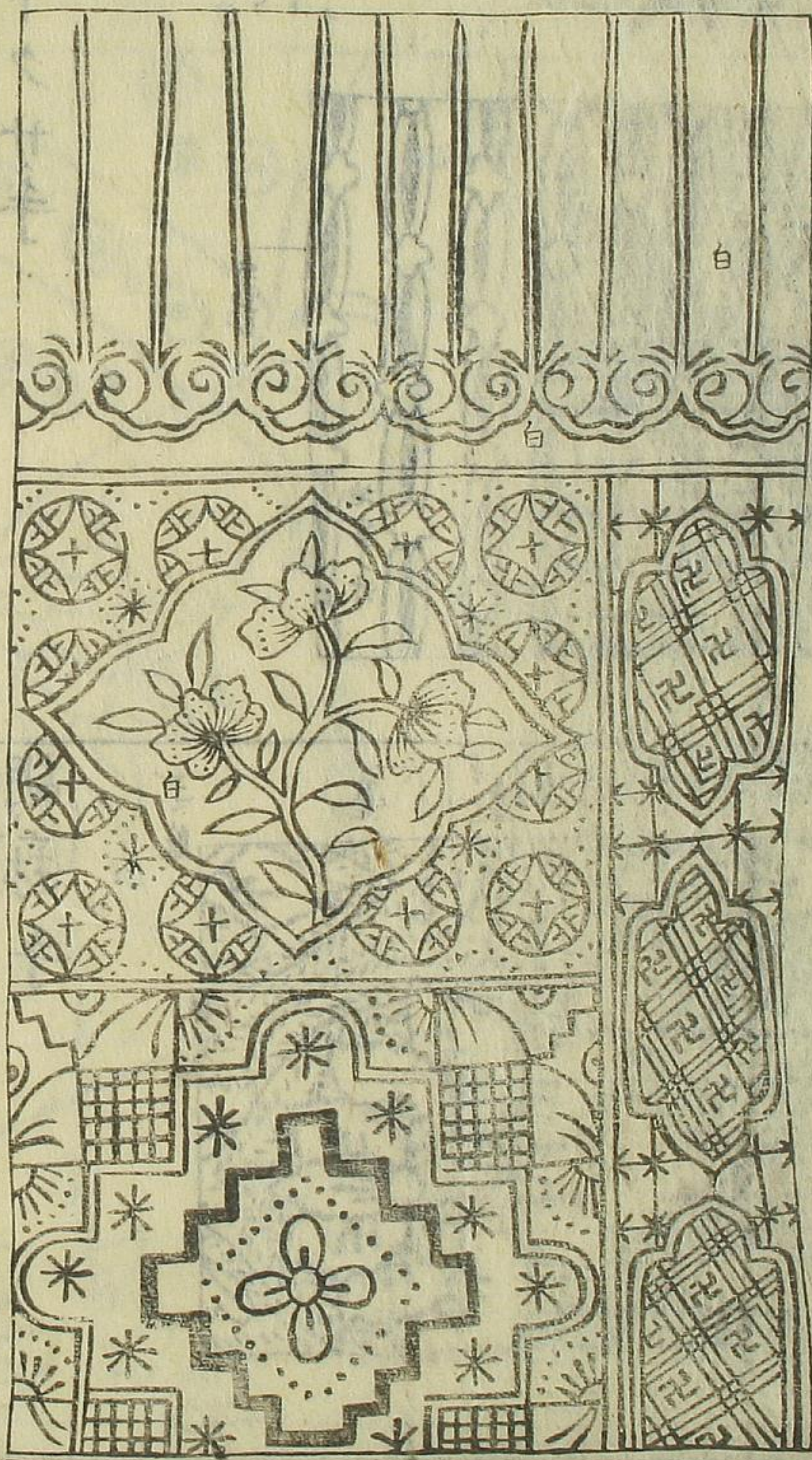


コニ藍  
赤  
生エビ  
同  
同  
フナ  
残  
赤  
ン  
ン



コシロンガラサ

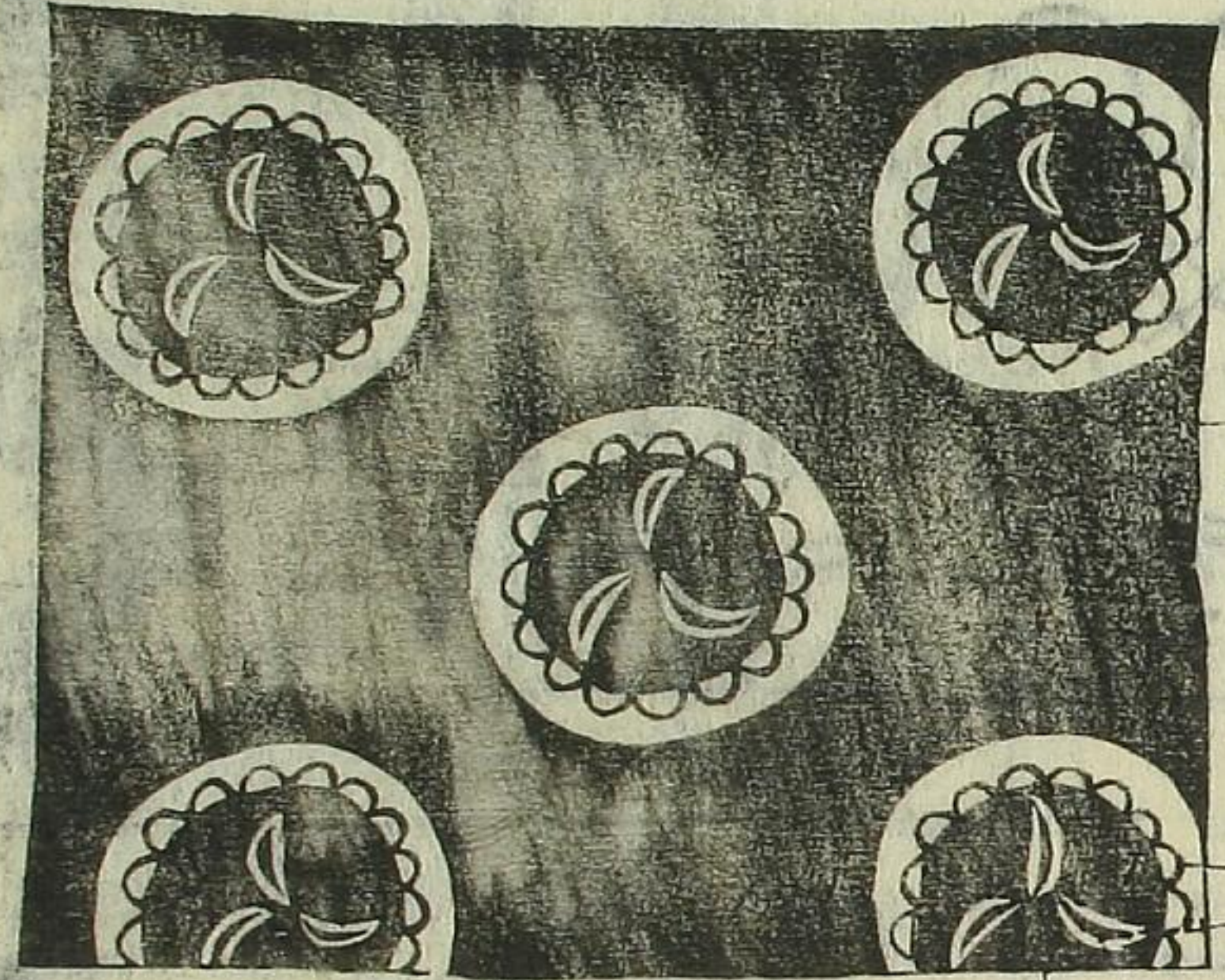
是ハ紅毛船ノクロウト云モノ、頭ニ紫リタル手又クヒノ如キモノナリ。  
 故カブリガラサハ又ハナフキモ云京ミテ廣造ヌルモノヨ南京ザラサ「稱ス然  
 レハ南京ザラサト云モノ、船買ノモノニアルヲ知ラズ  
 總藍地ナリ、イニチニテ此模様ヲカキテ、藍ニテ染、洗ヒオトシテ後茶ヲカケル也



音呼手

スミガキ、面ニ赤モ、イロ、同赤ニテ星ヲ打、羽ノ如シ、赤ニテ筋ヲカク、  
 色ハ羊ノ色ト、間ボカレニテ、甚クカレキ、彩色ナリ、モ、イロ、アイ、紫、黄、赤





地藍

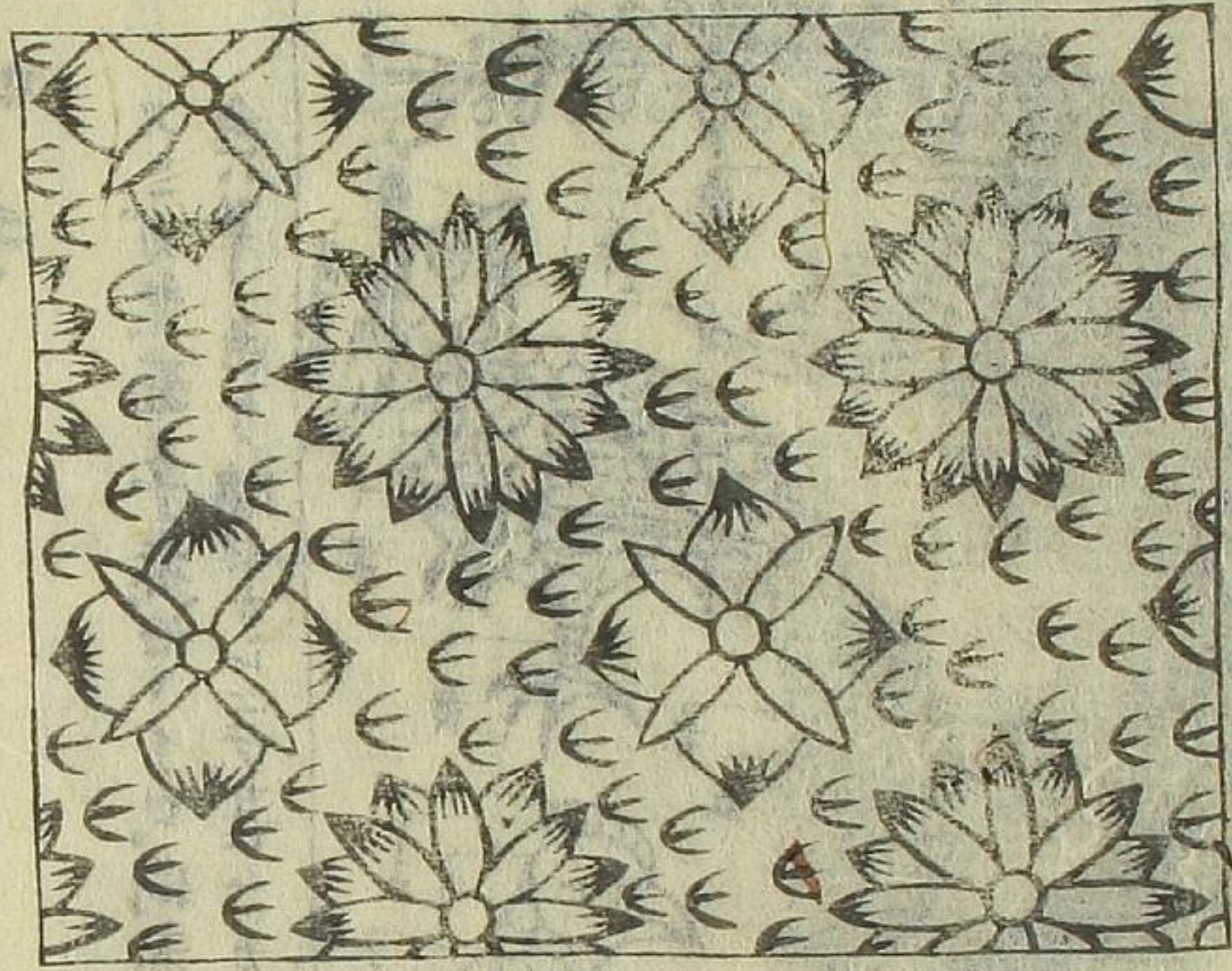
生エビ

墨

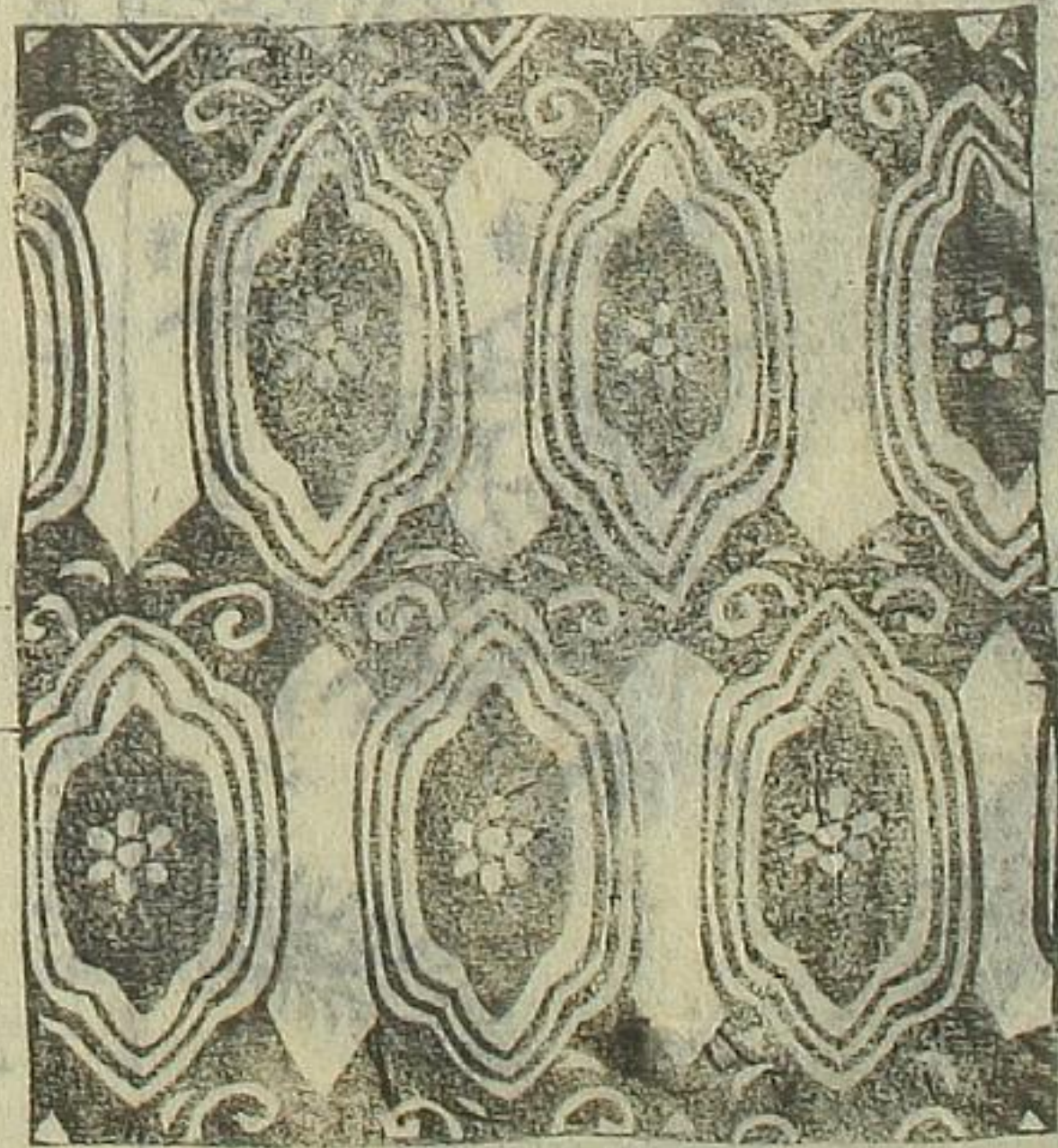
銭サラサ



地白墨にて形ヲ以テスリコムナリ  
ジャガタラサラサ



チモンガラサ



モクカウ  
手

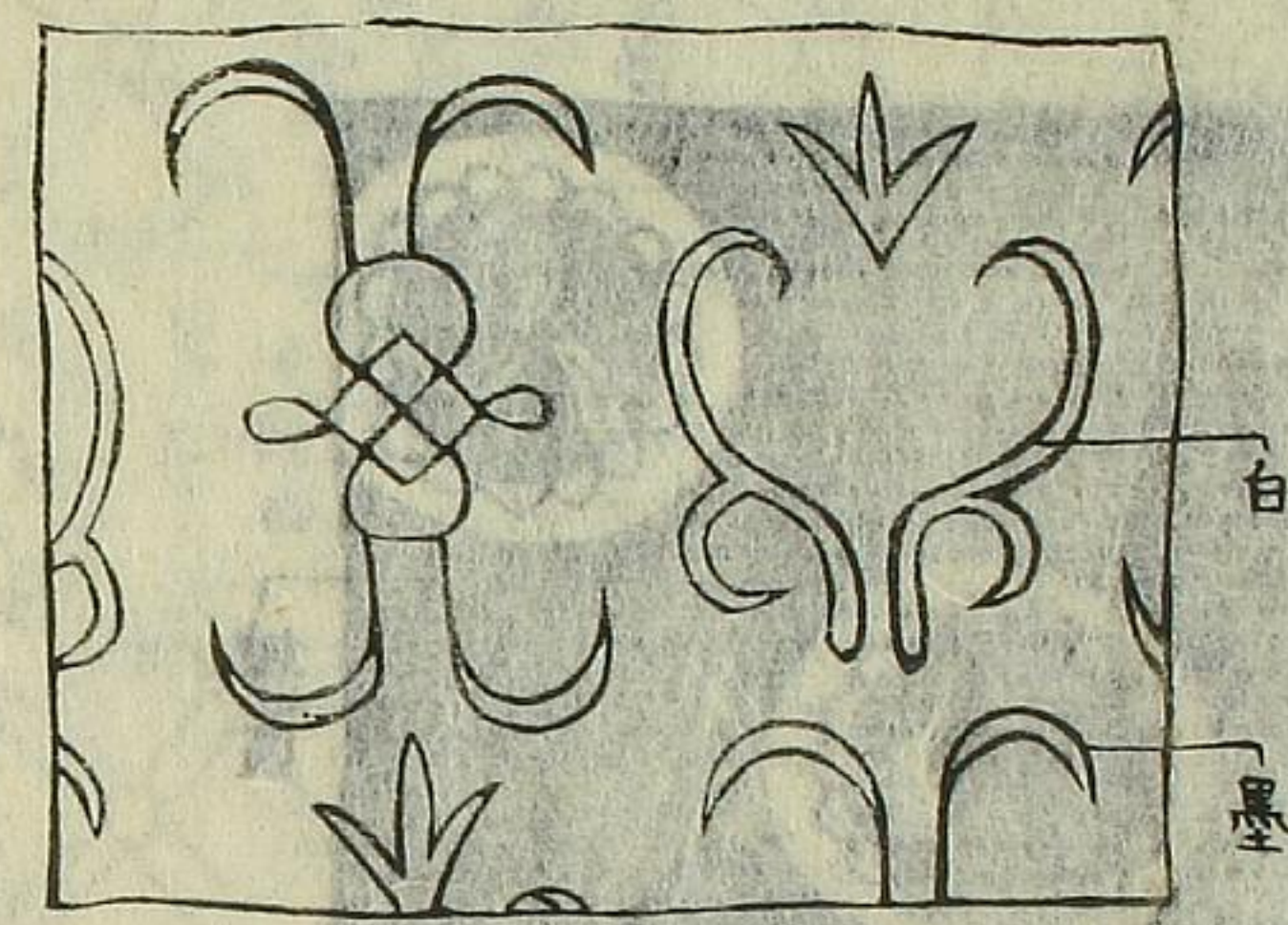
生エビ

アイ  
生エビ

黄  
紫  
スベテ細クカキハ墨

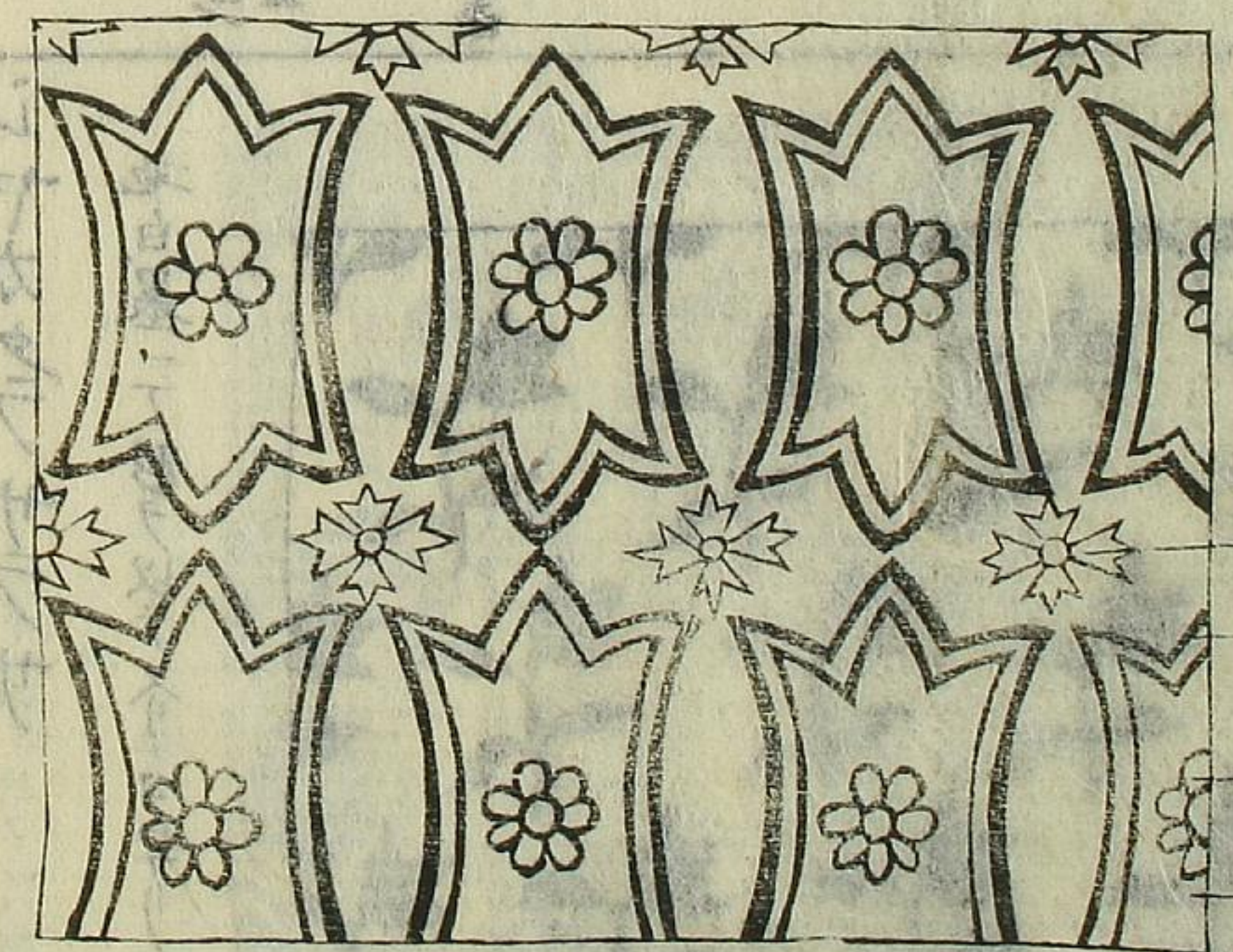
霜フリガラサ

木綿地ニテ奥島ノ如クニ筋ナリ。霜フリノ色ハ赤又紫モアルナリ



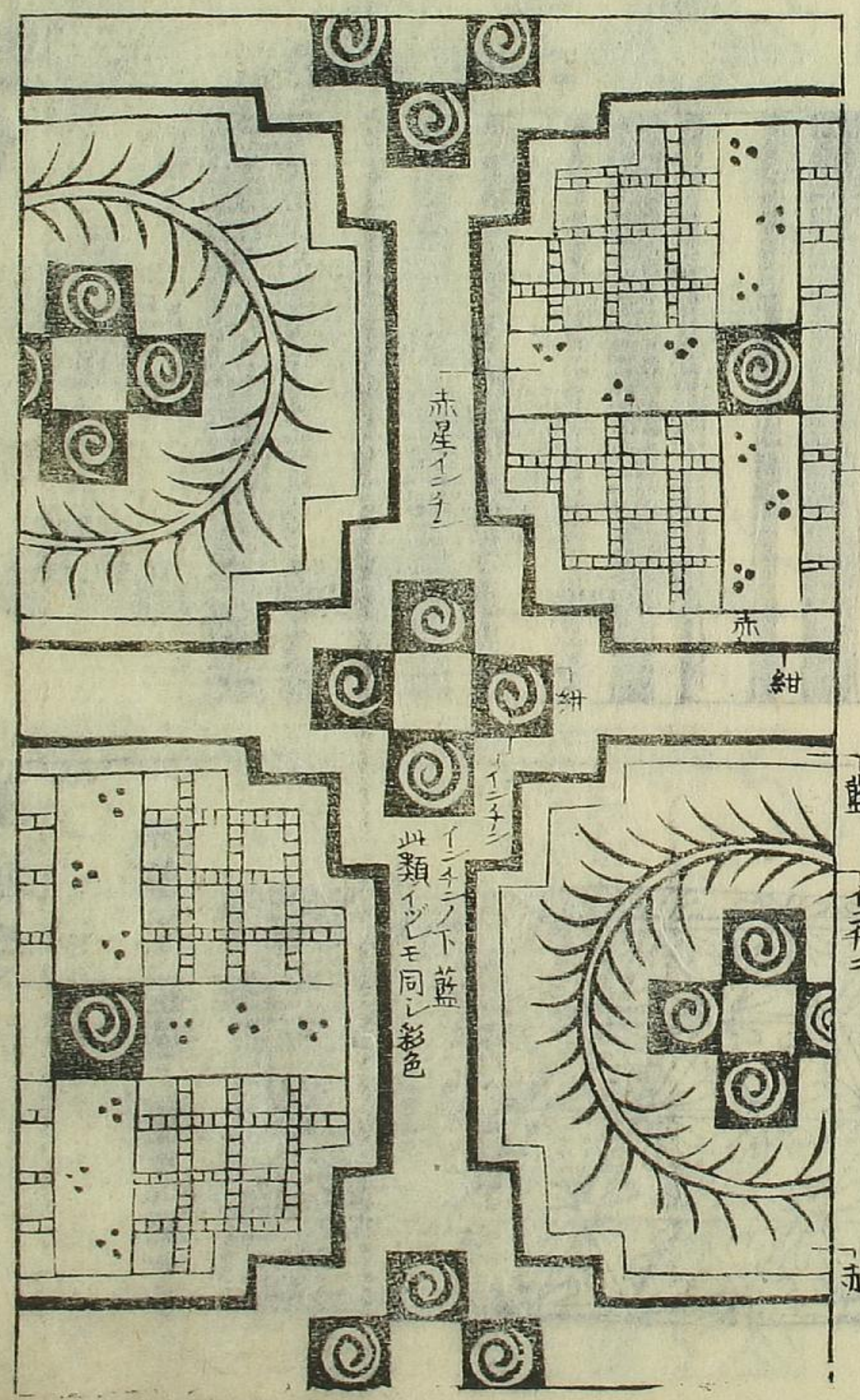
ガク手

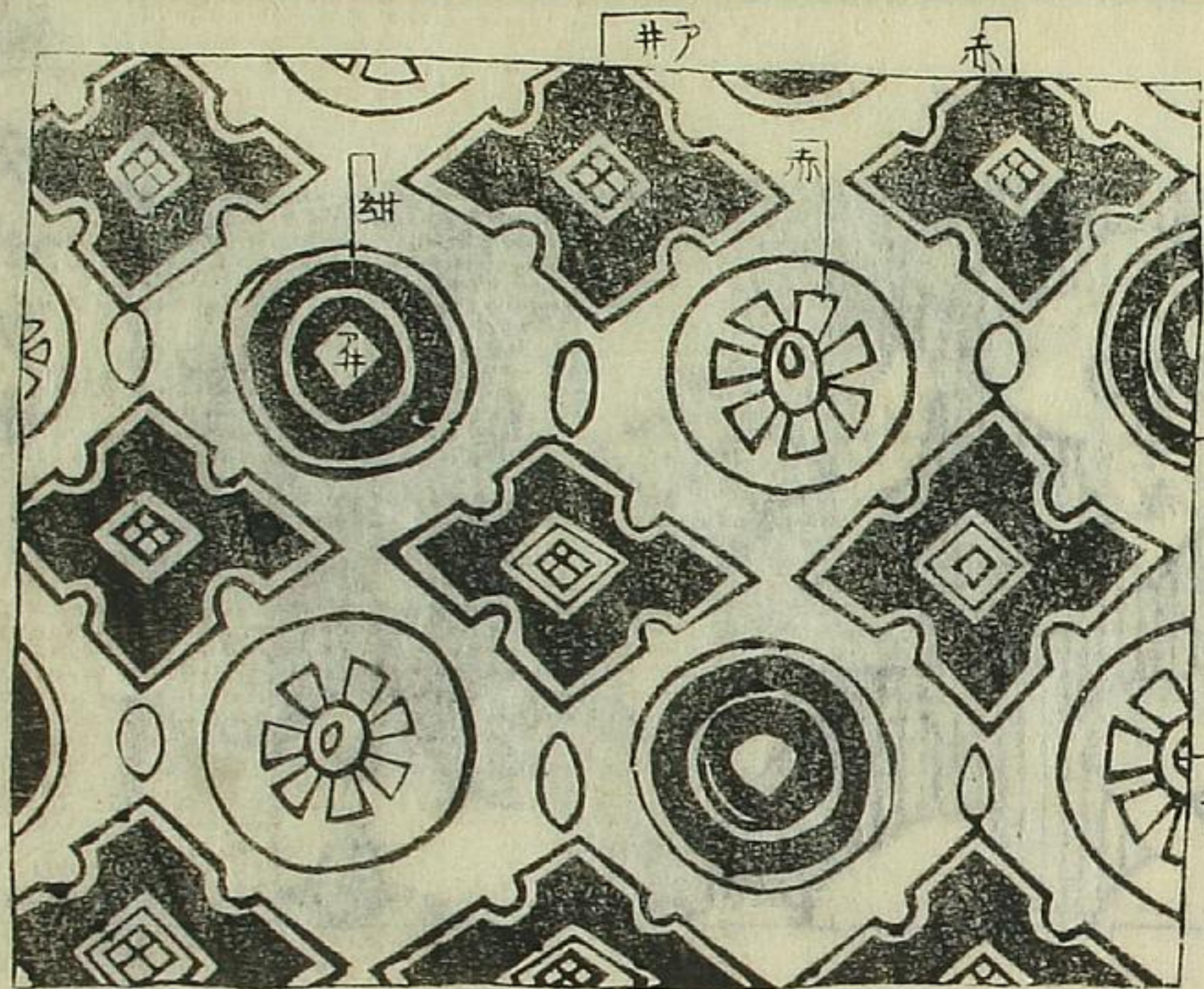
惣地藍又赤モアリ。スミガキ藍ト赤トノ間火レフチラ除テ又ルナリ



ゴウテニジヤウ

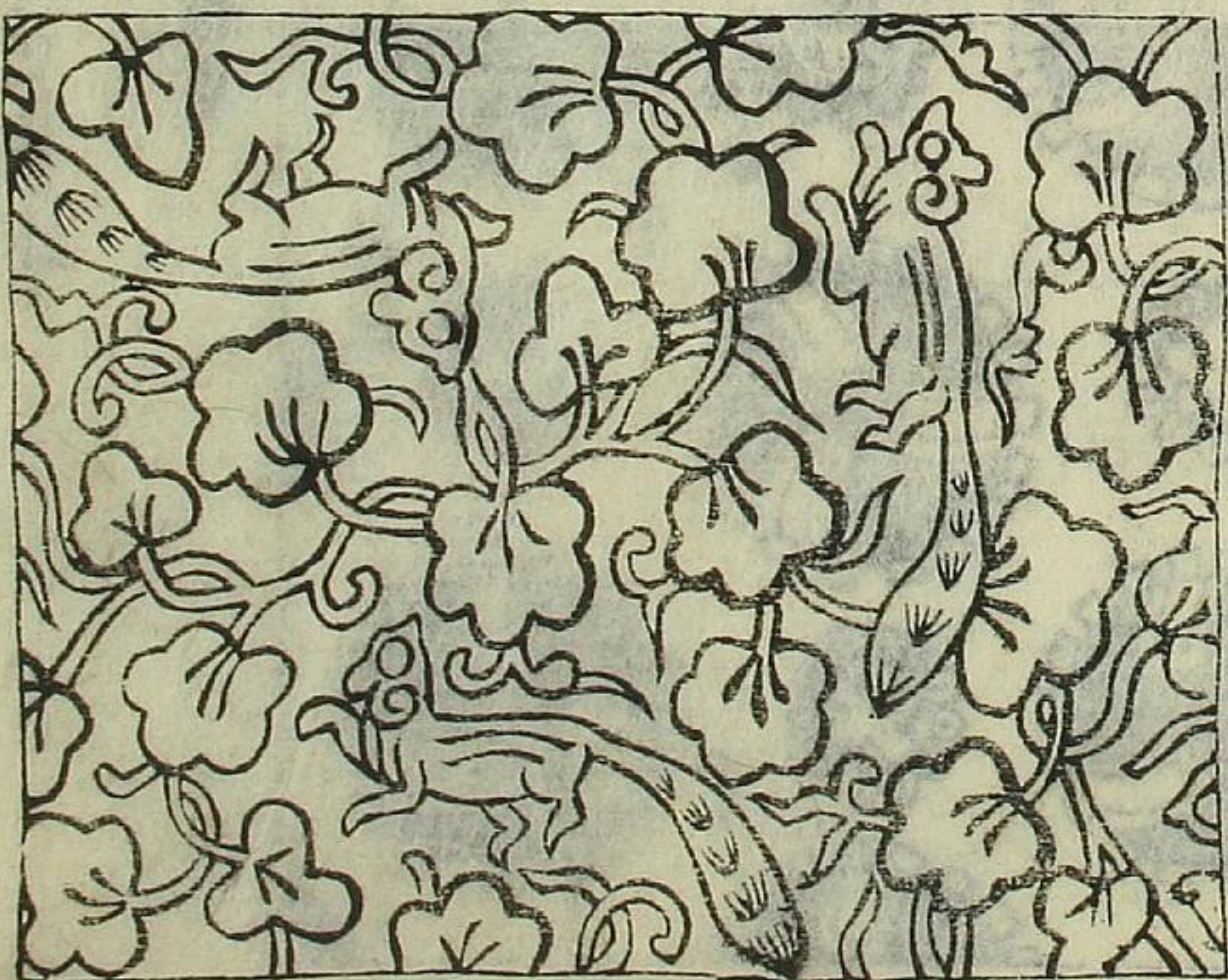
地紅黒





錢菱手

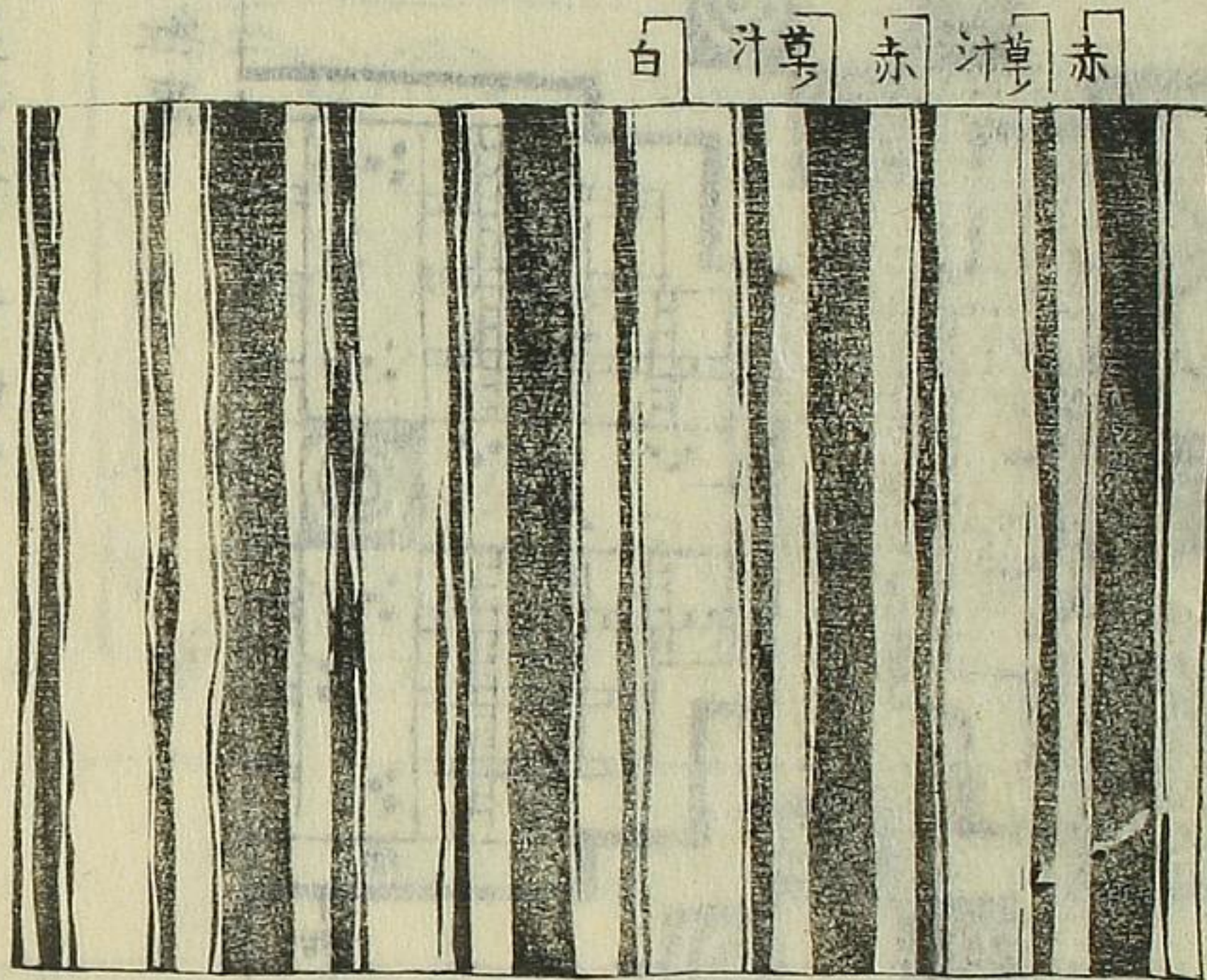
地藍 スミノカキワリ  
赤  
紺  
如斯スミヲハレザル  
菱モアリ  
黄



栗鼠手

スミガキ・リスムラサキ背ヲル  
ハインイ  
葉ハ赤ノホカシ又黄ニ藍ノホカシツルハ赤  
ノ地赤ノ持ツル白葉モイロ

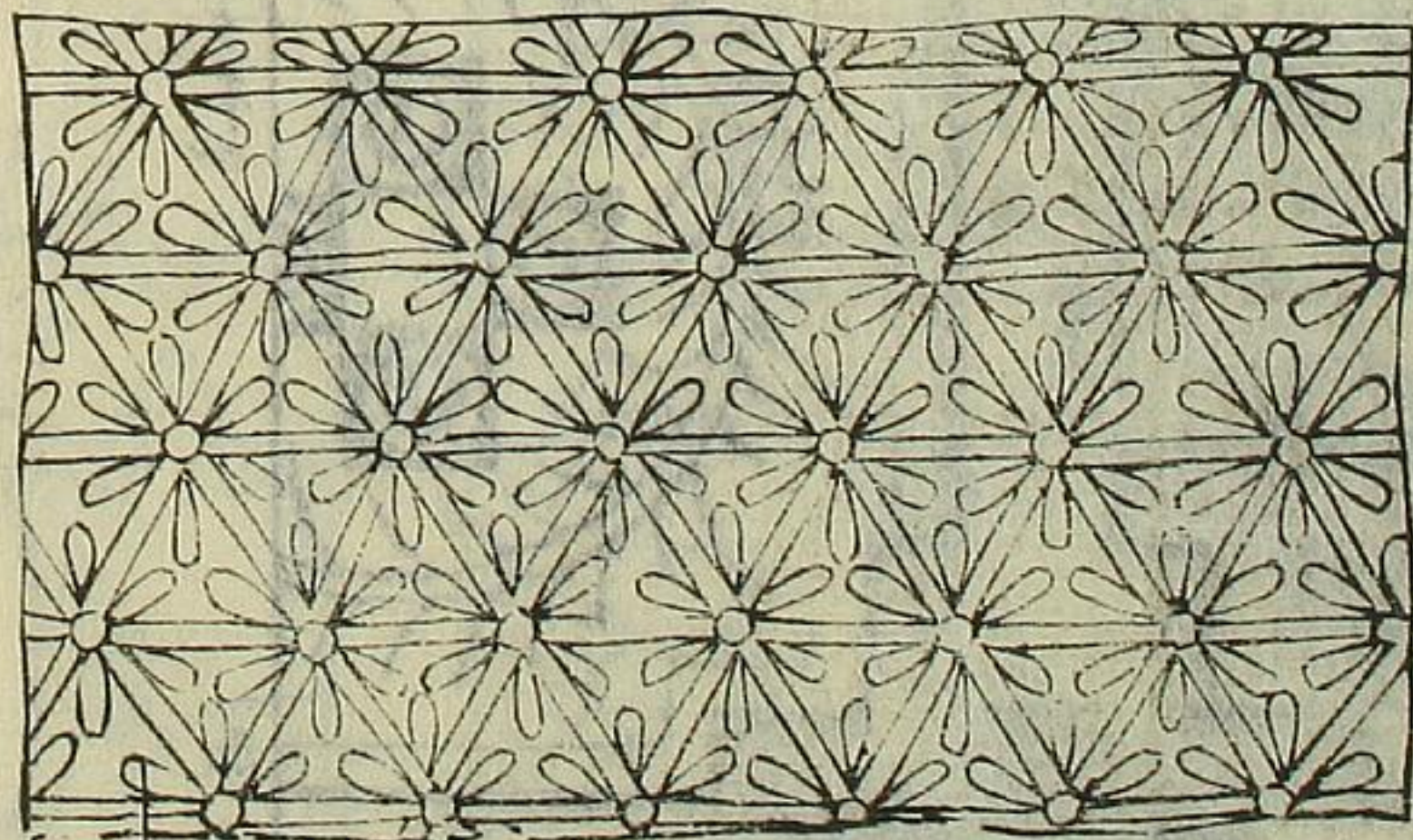
島サラサ  
又アルヘイ多ク云



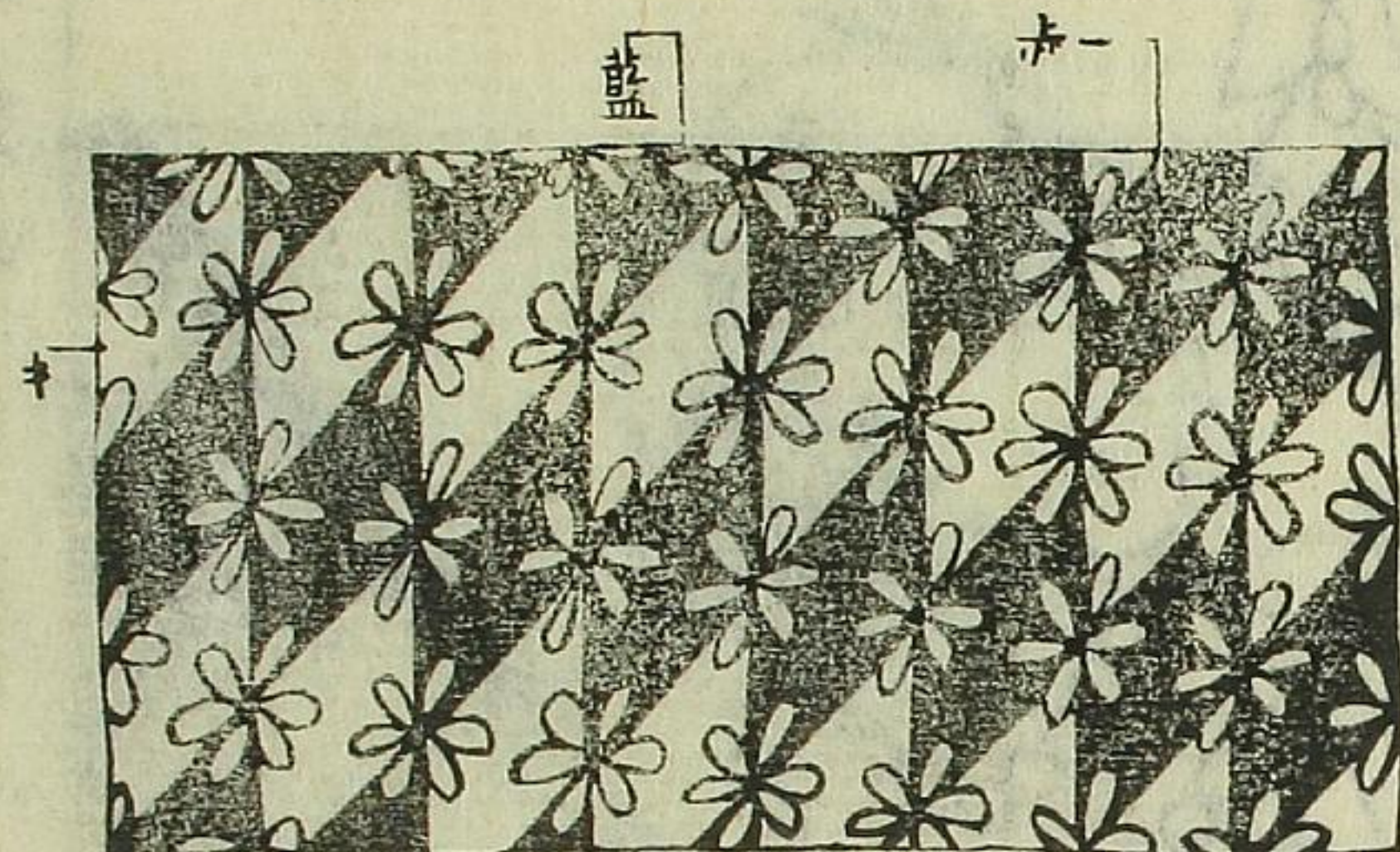
白 汁葛 赤 汁葛 赤

菊垣手

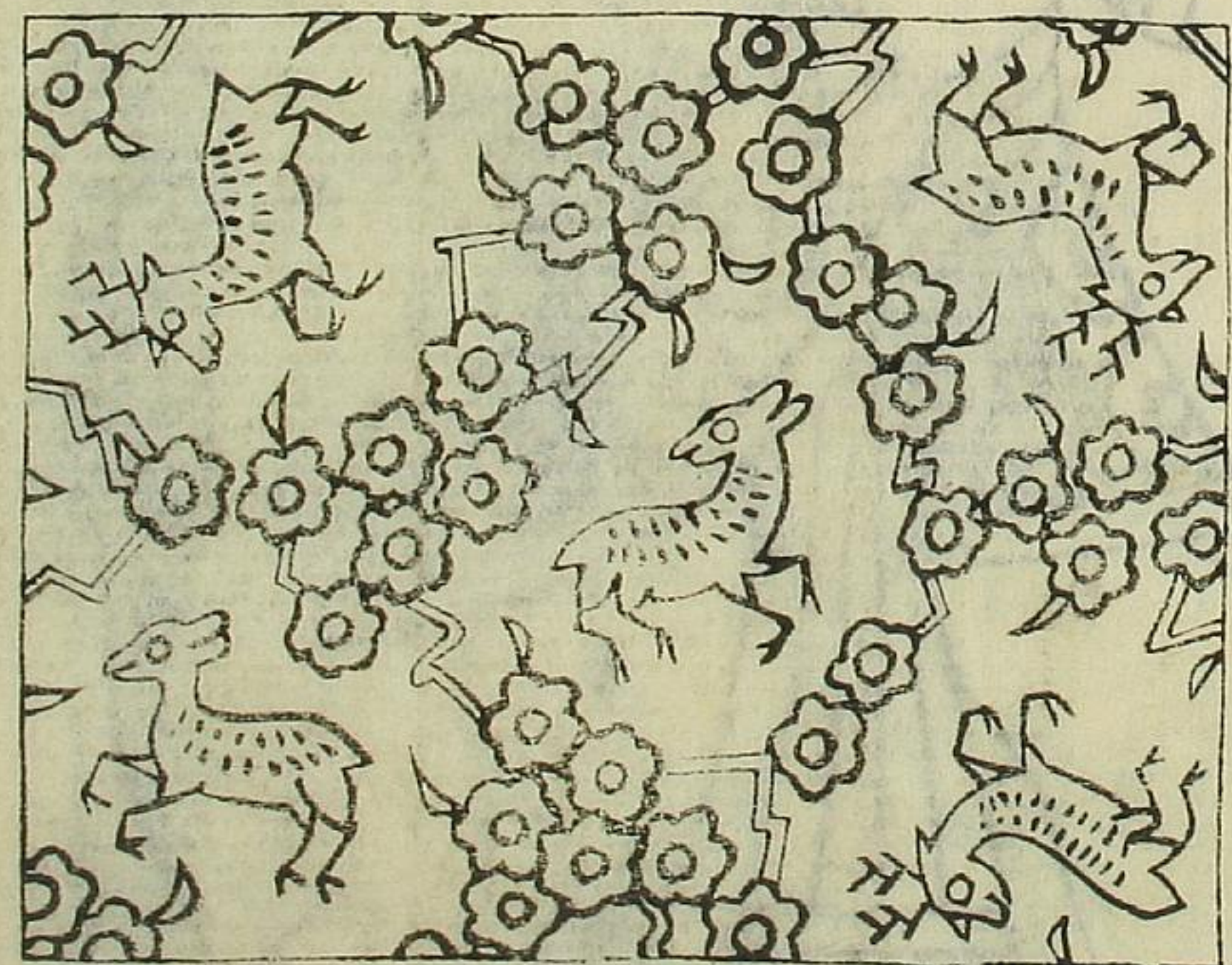
地茶ニテ模様ノ細ガキハ総ナリ



花菱手



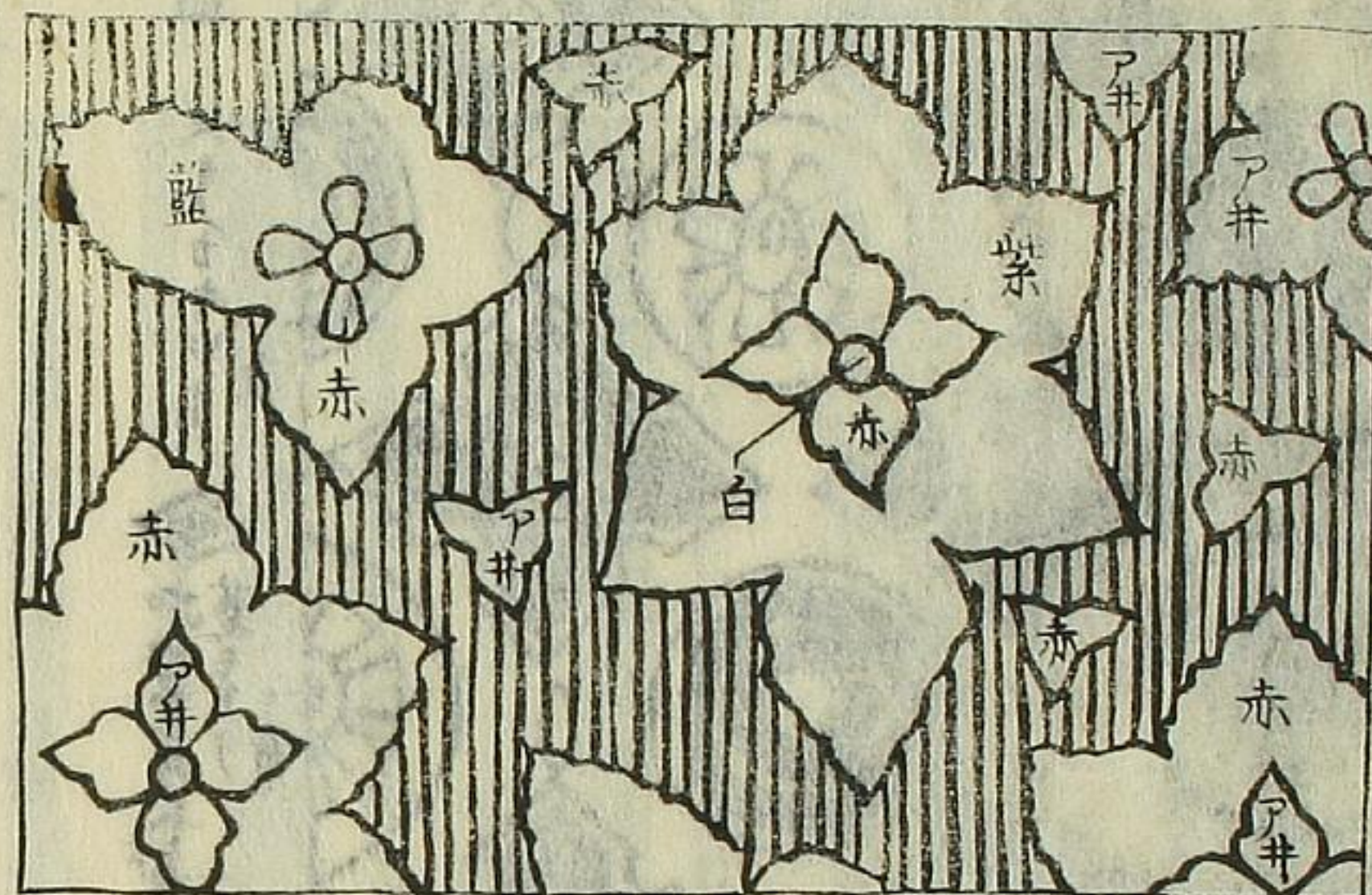
鹿手



葉ト枝ハ藍 スミガキ花ハトクカクナリ

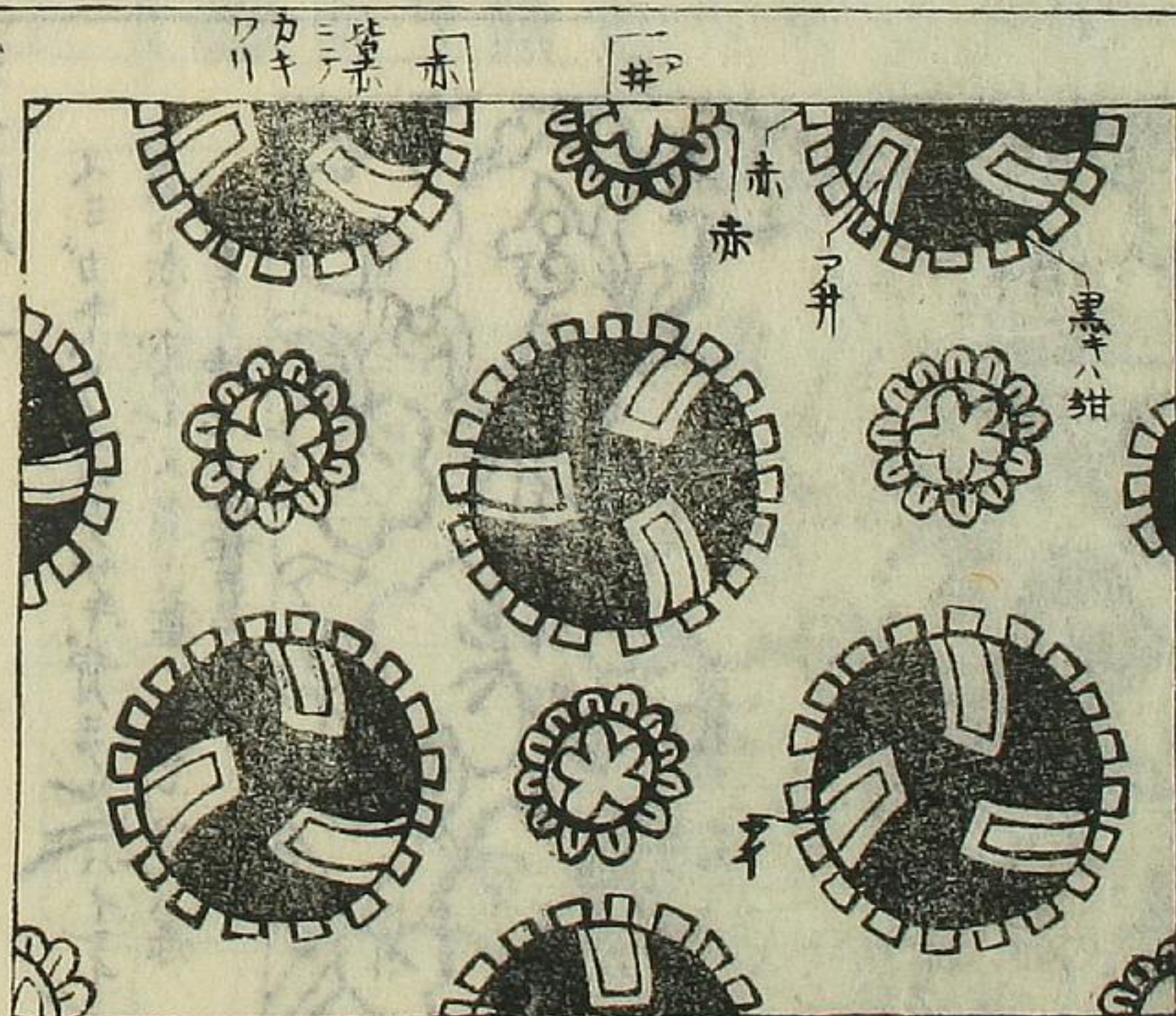
鹿一ツハ赤一ツハ紫ト互ニ彩色ス。梅モ一ツハ赤一ツハ紫一ツハ藍ニ黄ヲサス。花ノ中ノ丸ハニチニ

地紋ガラサ



地雌黄ガチノ草ノ汁ヲキヲトリテ平ル  
ハフチヲ除スニヌルナリ

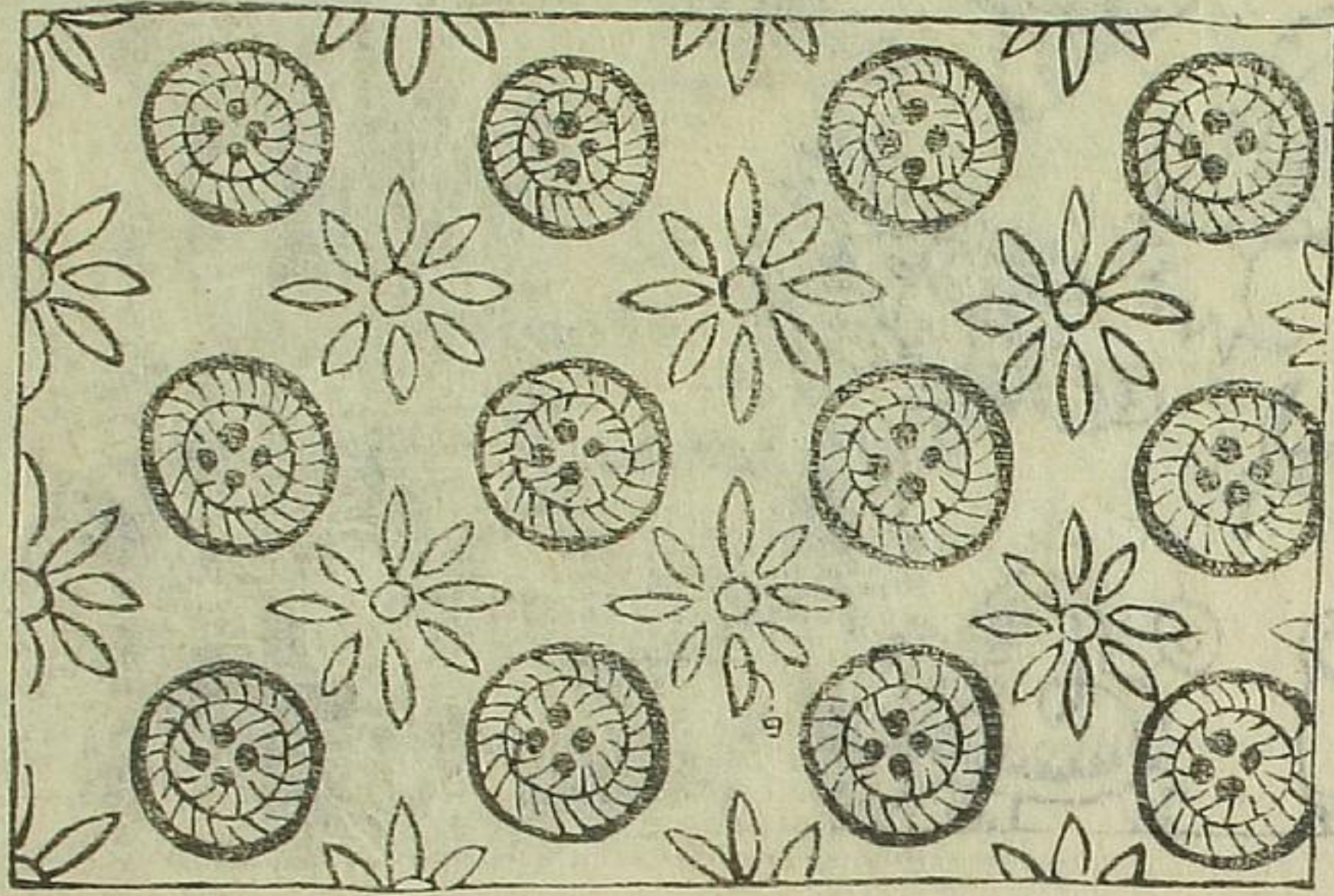
ゴトク手



地藍

覆盆子手

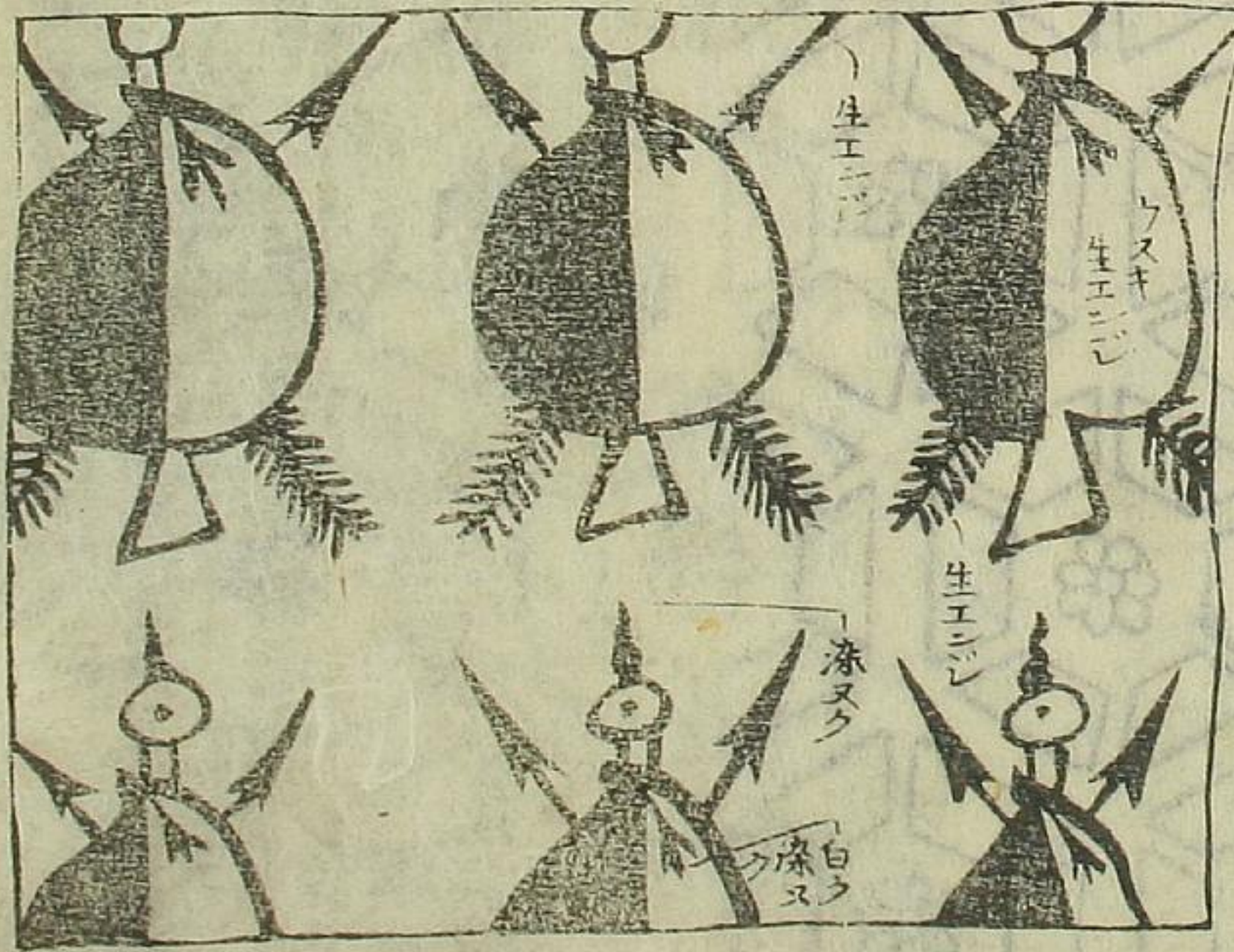
赤地



◎ハ墨ナリハ白赤此ニハリハ蘇

ガニカ手

惣地コヒチヤ

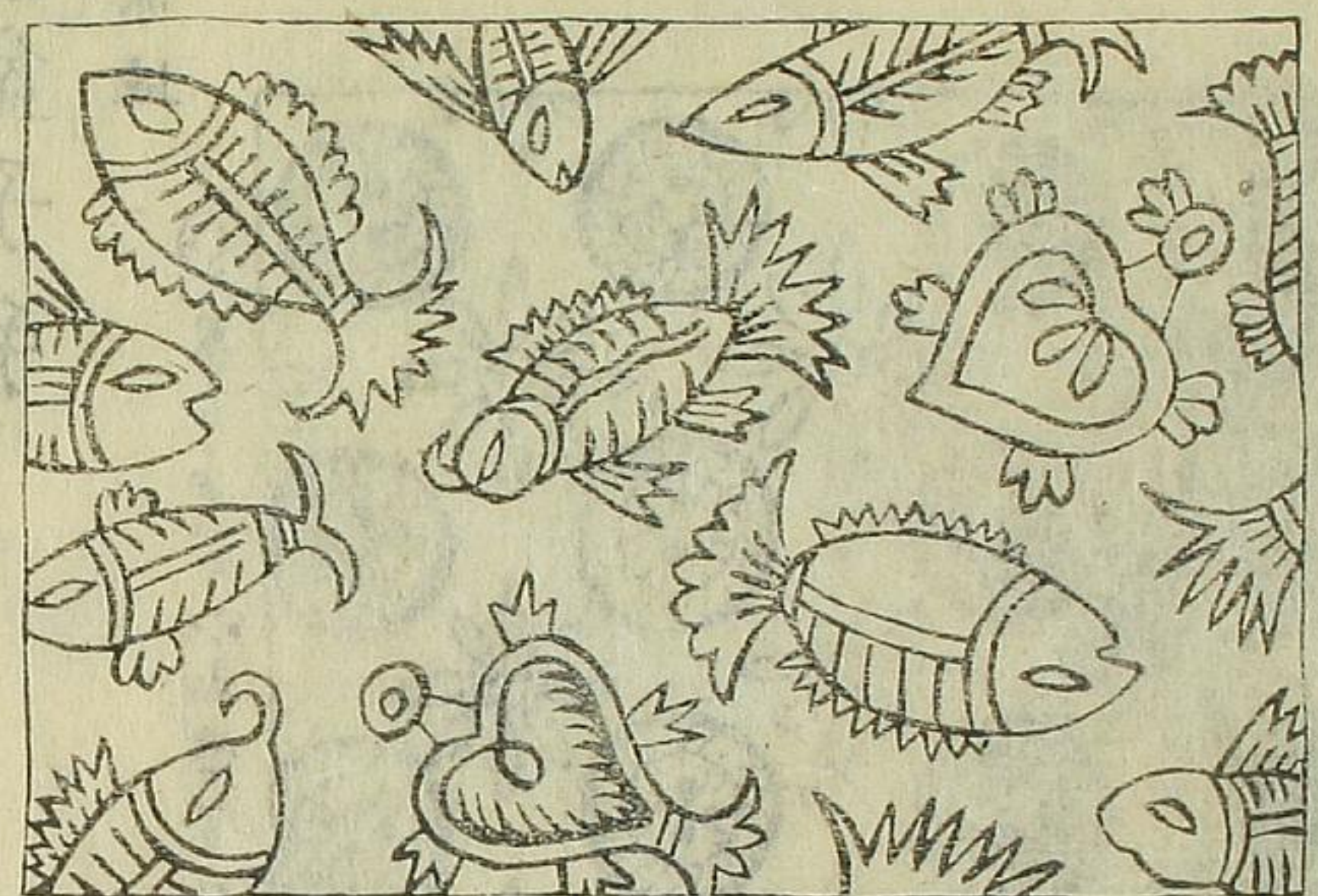


人形手

墨ガキ

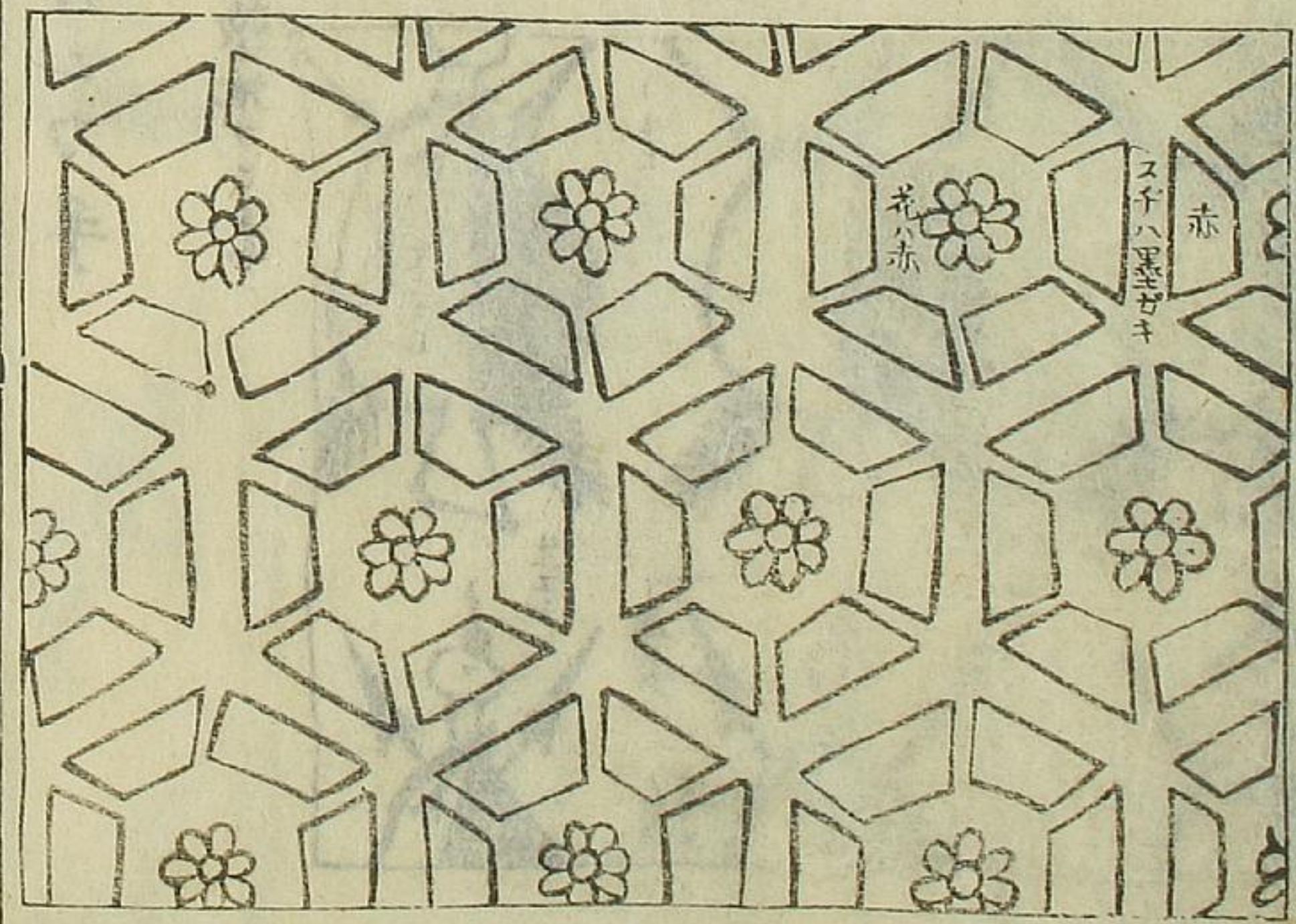


魚手



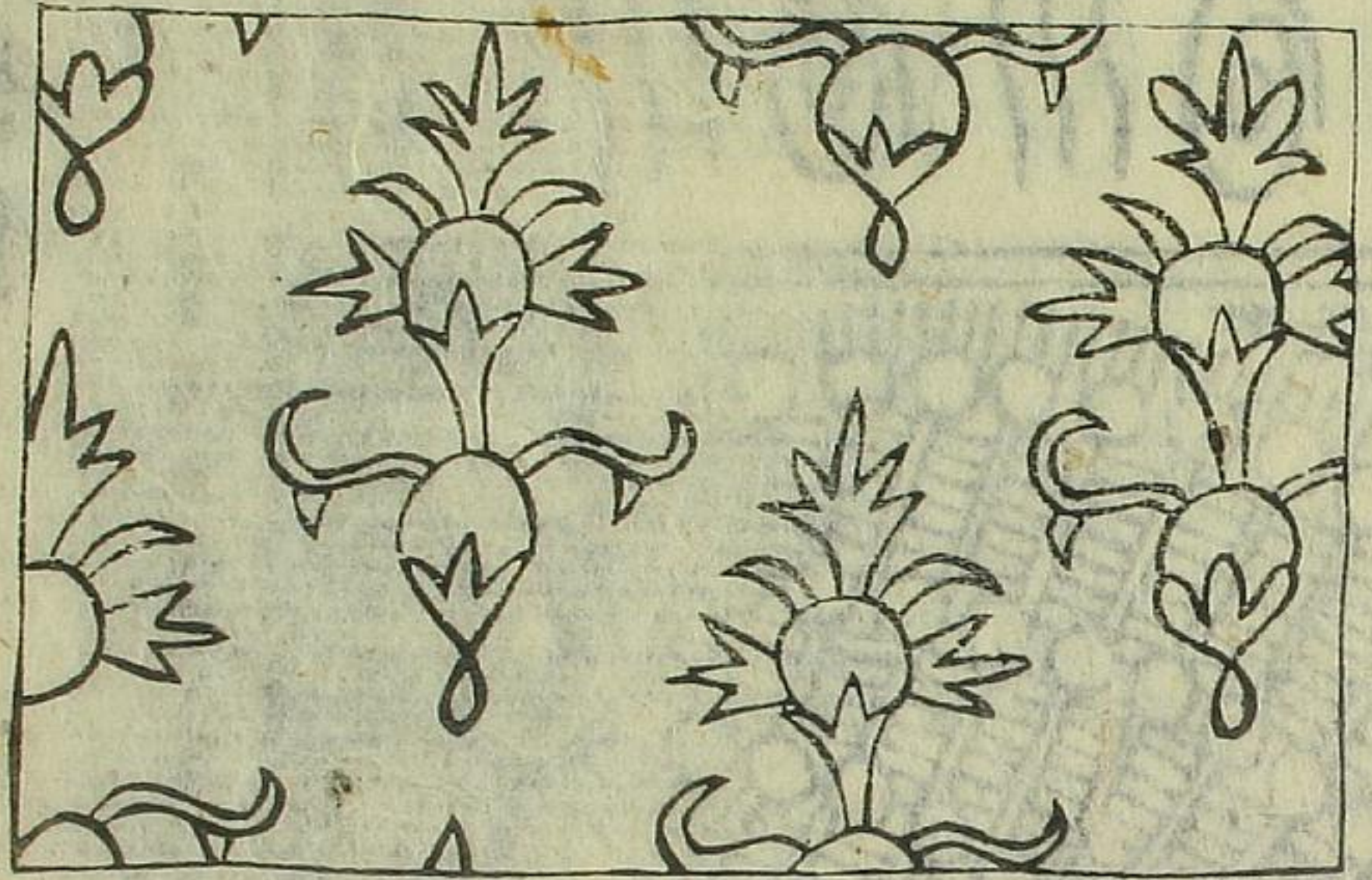
地黒ナリ魚ト地ト際ラツグ除テ  
ヌルナリ魚ハ目ヲ白ク残シ外ハ藍ナリ

ハカゴシ



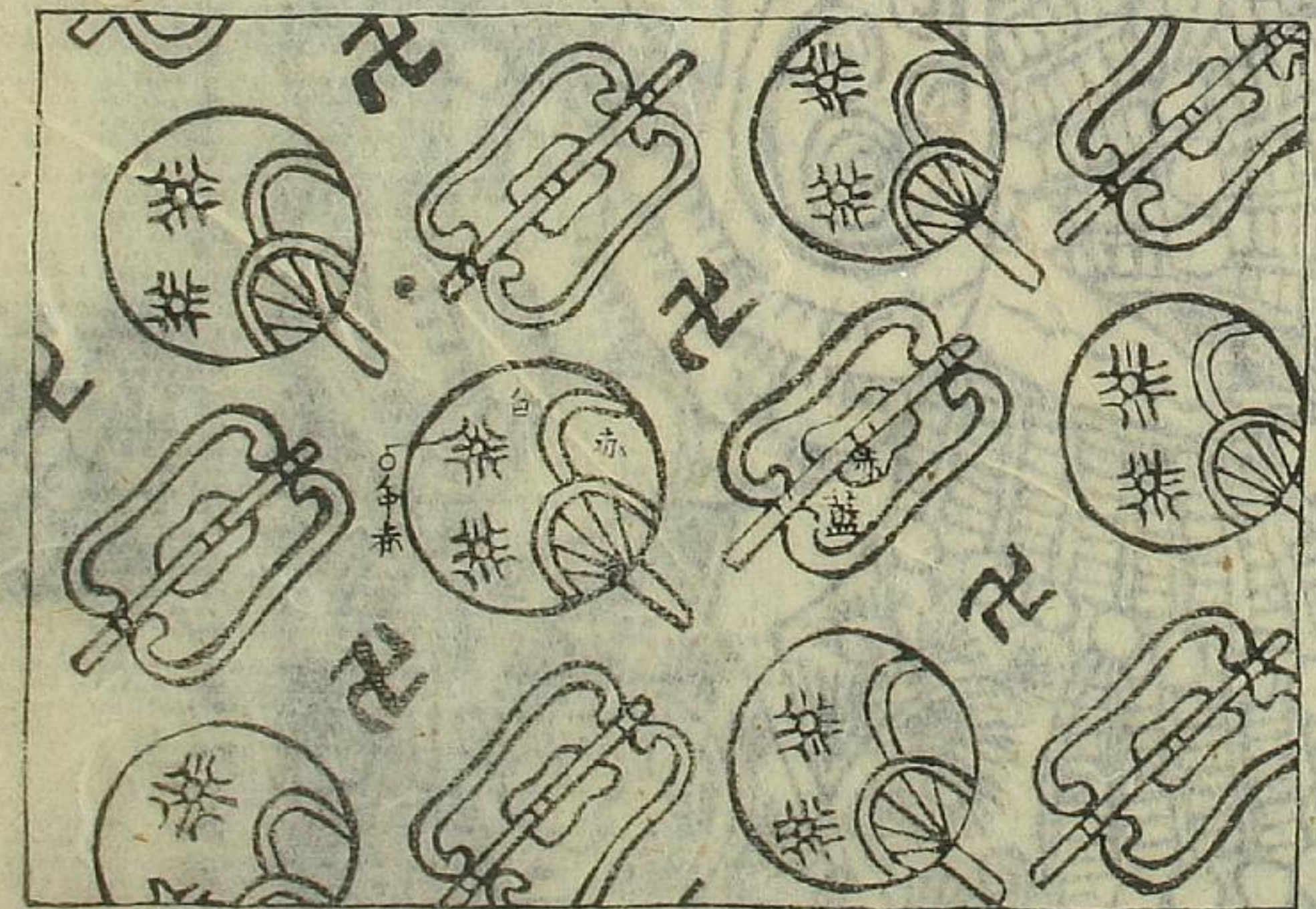
地藍

霜相

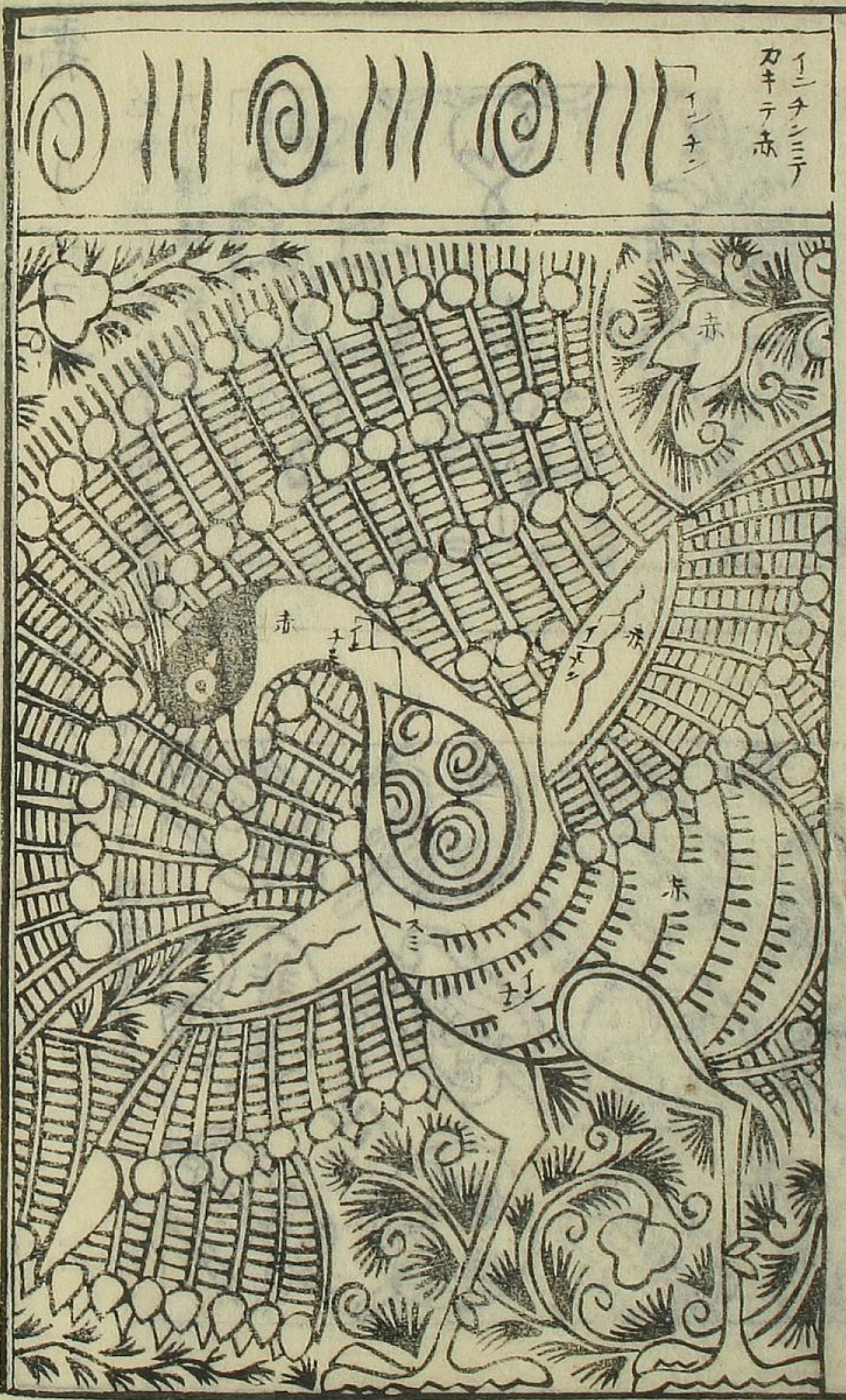


フリザラサ  
地赤モアリ或ハ紫ノヤウニ見ユルモ  
アリ模様ハ皆白ナリ

ウチハ手



地ハ藍ニテ模様墨ガキナリ



孔雀手

スミガキ玉ハツチガヒニ藍ト生エシ羽ノ多クステモ赤ト藍トカハルニテ其外ハスミガキニ

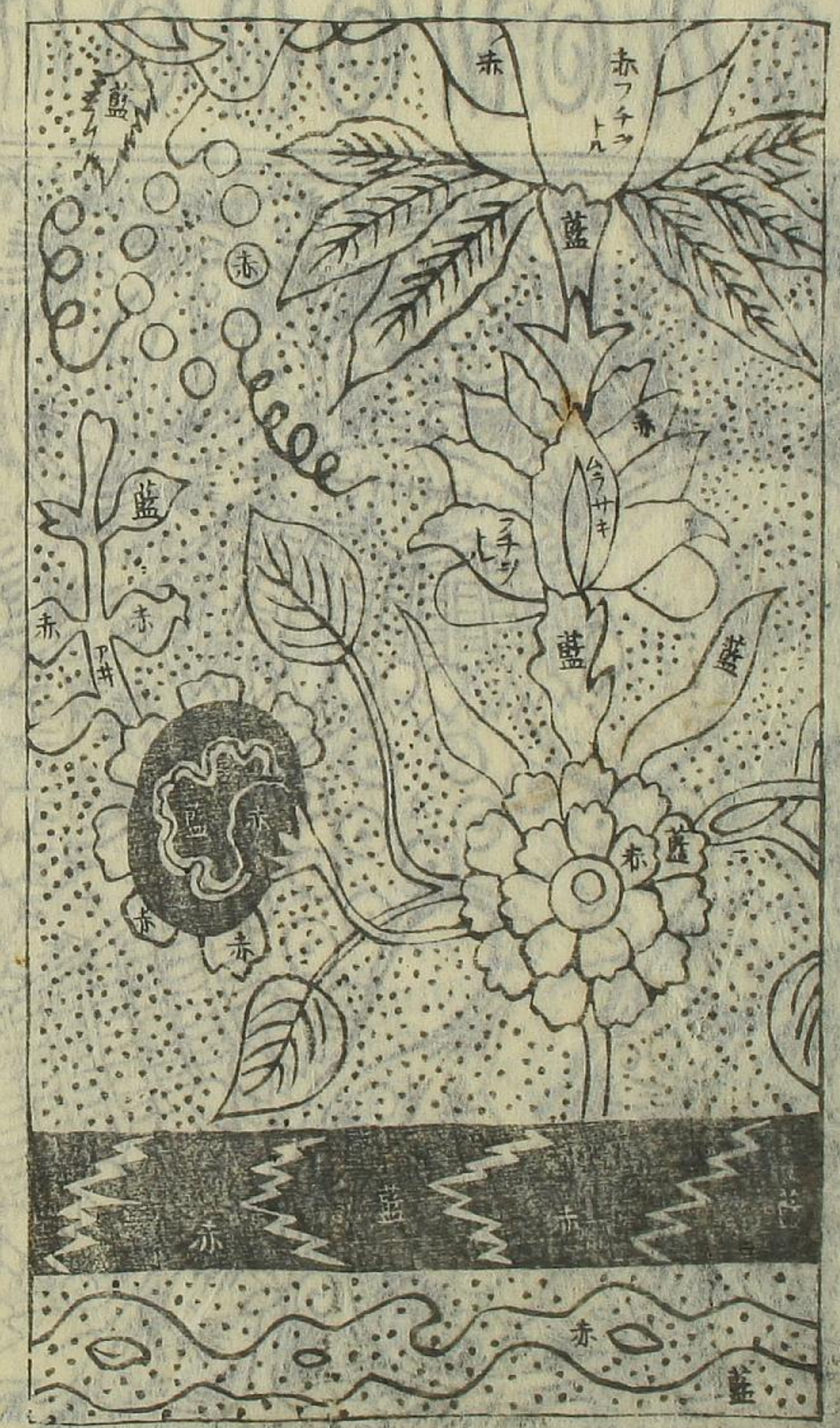
イニチニテ  
カキテ赤

「イニチニ



アフレ手

墨カキ 葉ト葉ト皆藍、アフレ赤ノ星ナリ



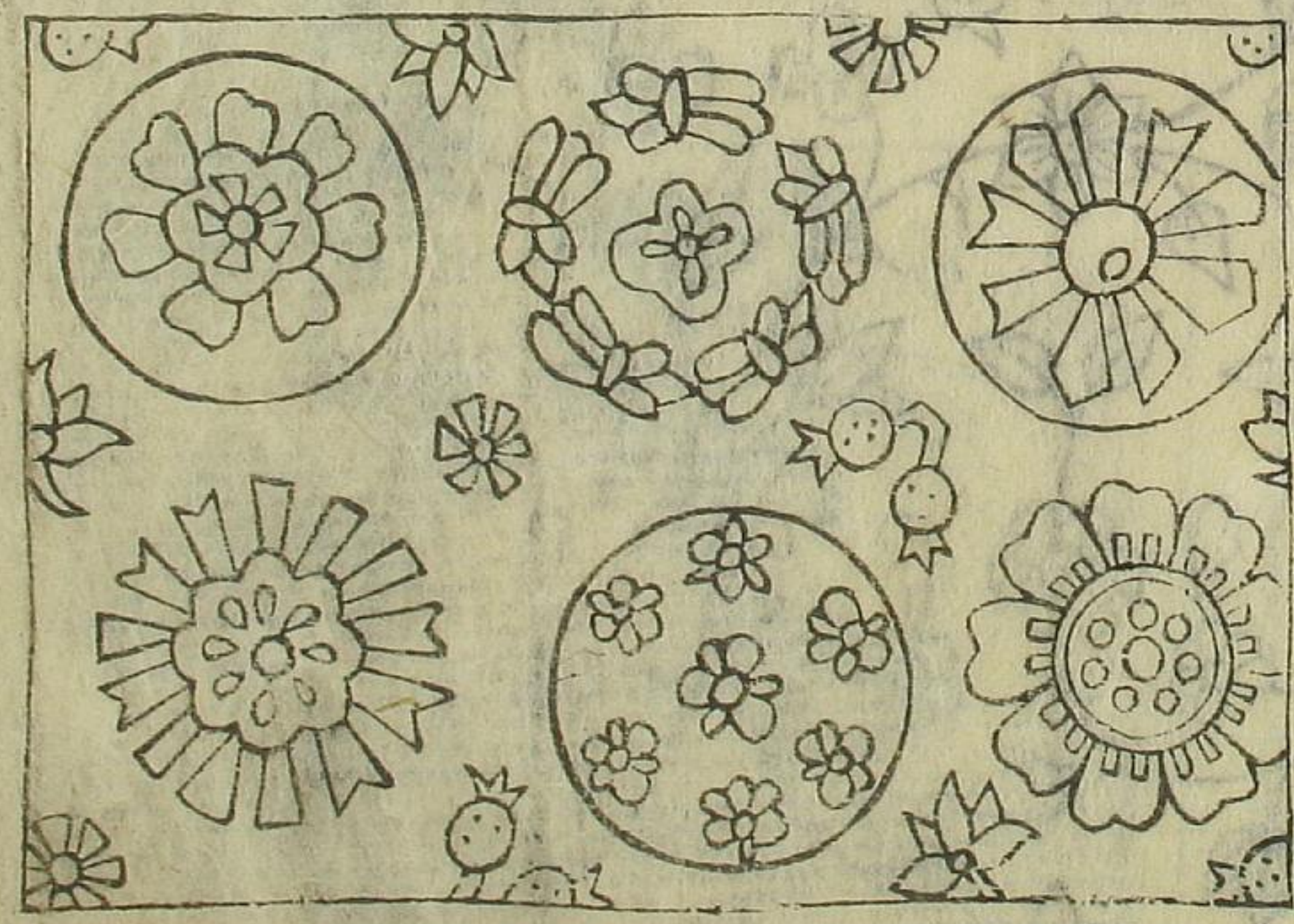
茗荷手



此葉類ノ中ノカバニ  
スルナリ

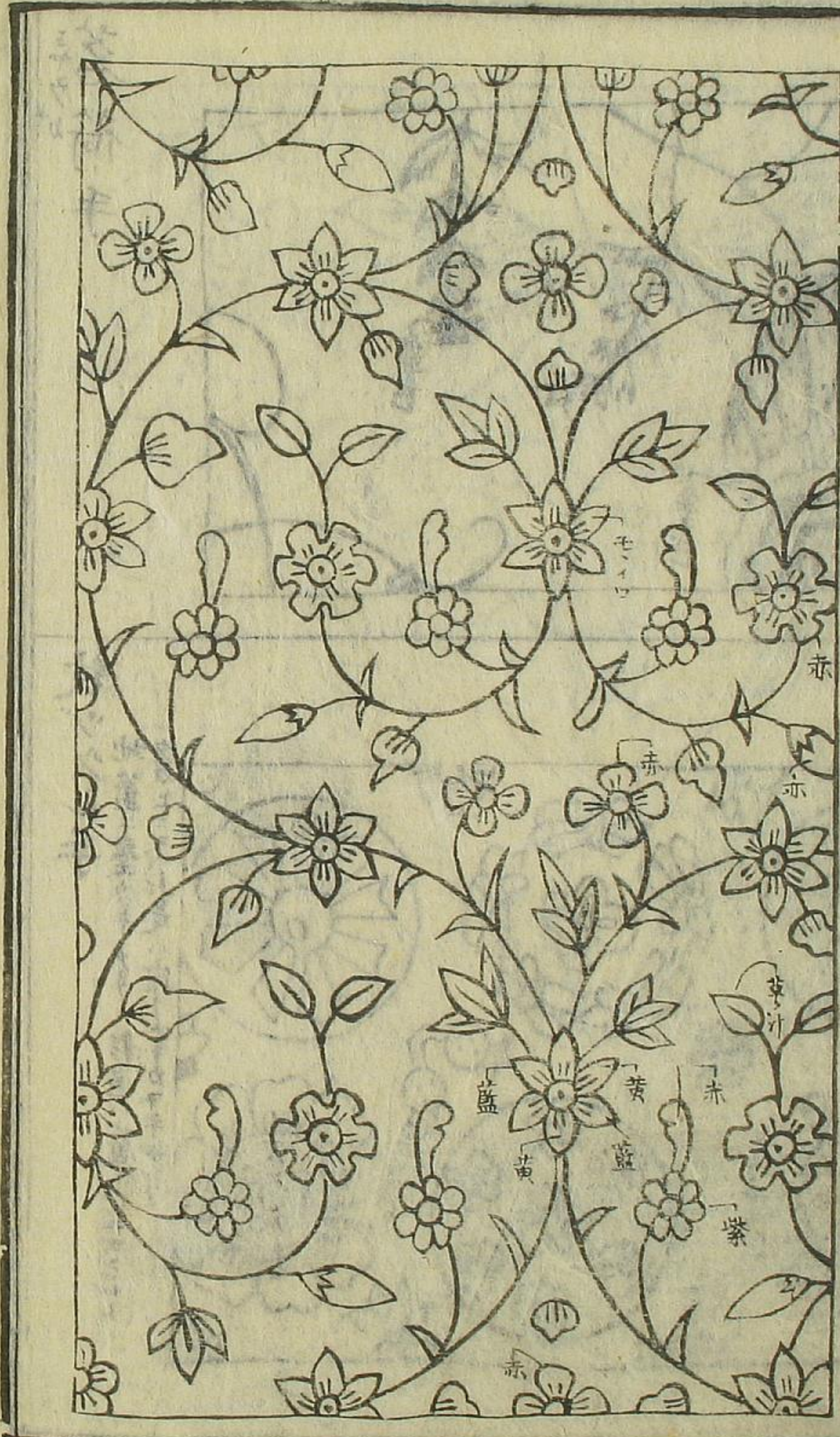
紋ツクレ手

地藍ニ墨カキナリ 彩色ハ藍ト生エミト  
タガヒニスヘシ是ハ一定リナキカヨキナリ



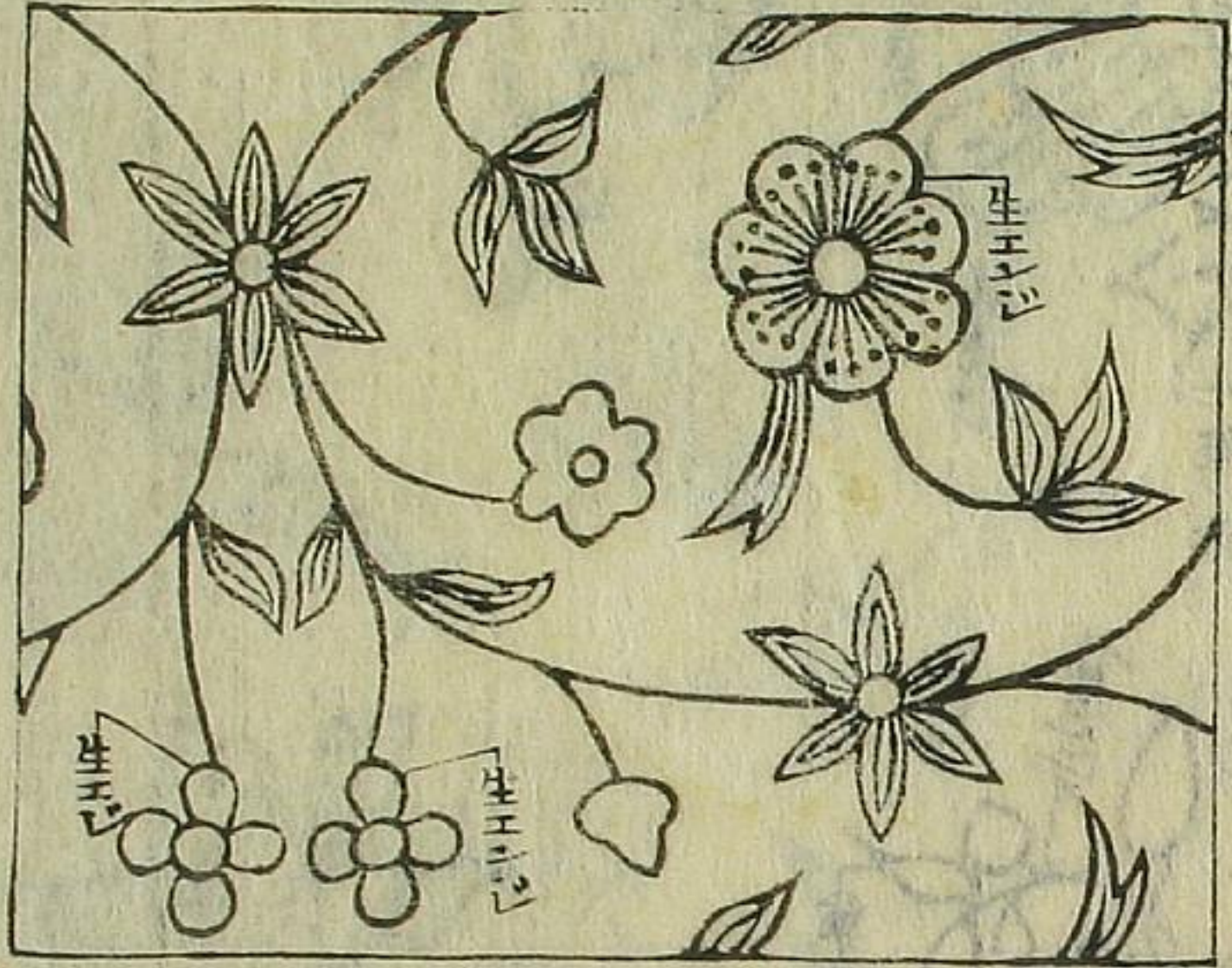
竹蔓手 金ザラサ也

黒主カキ



金ザラサ

惣模様ニ金ヲ添ルナリ。画家ニタレト云ヘリ  
葉ト蔓トハ紫



同上

スズノ画ノチカカリラ金ニテタリテシニハ金ナリ





小鳥手

又蟲手也云 金ザラサモアリ

墨ガキ 葉ハ草ノ汁ノ間ニ黄ヲサヌナリ 莖ハ藍花ハ  
モイロヲ赤ニテクルルナリ 鳥ハ藍 シバハツレモイニナリ

同上

墨ニテカキ丸所へ残ラス金ニテクルベシ



銀<sup>ギ</sup>ザラサ

茶地ニ墨ガキノ彩色ナレシモイ彩色ラスル時ハ紫・ウスムラサキ・赤モ・イロ  
草汁等ヲ用ベシ。ステ銀ニテフチラクルナリ。中ノ小ニハクハクラス



金<sup>キ</sup>ザラサ

地白・唐草金・花ハアサギニ濃  
藍又モ、色ニコキ赤葉ハ草ノ  
汁ステ金ノクナリ



銀<sup>ギ</sup>ザラサ

地コキ赤・模様ノコラス銀



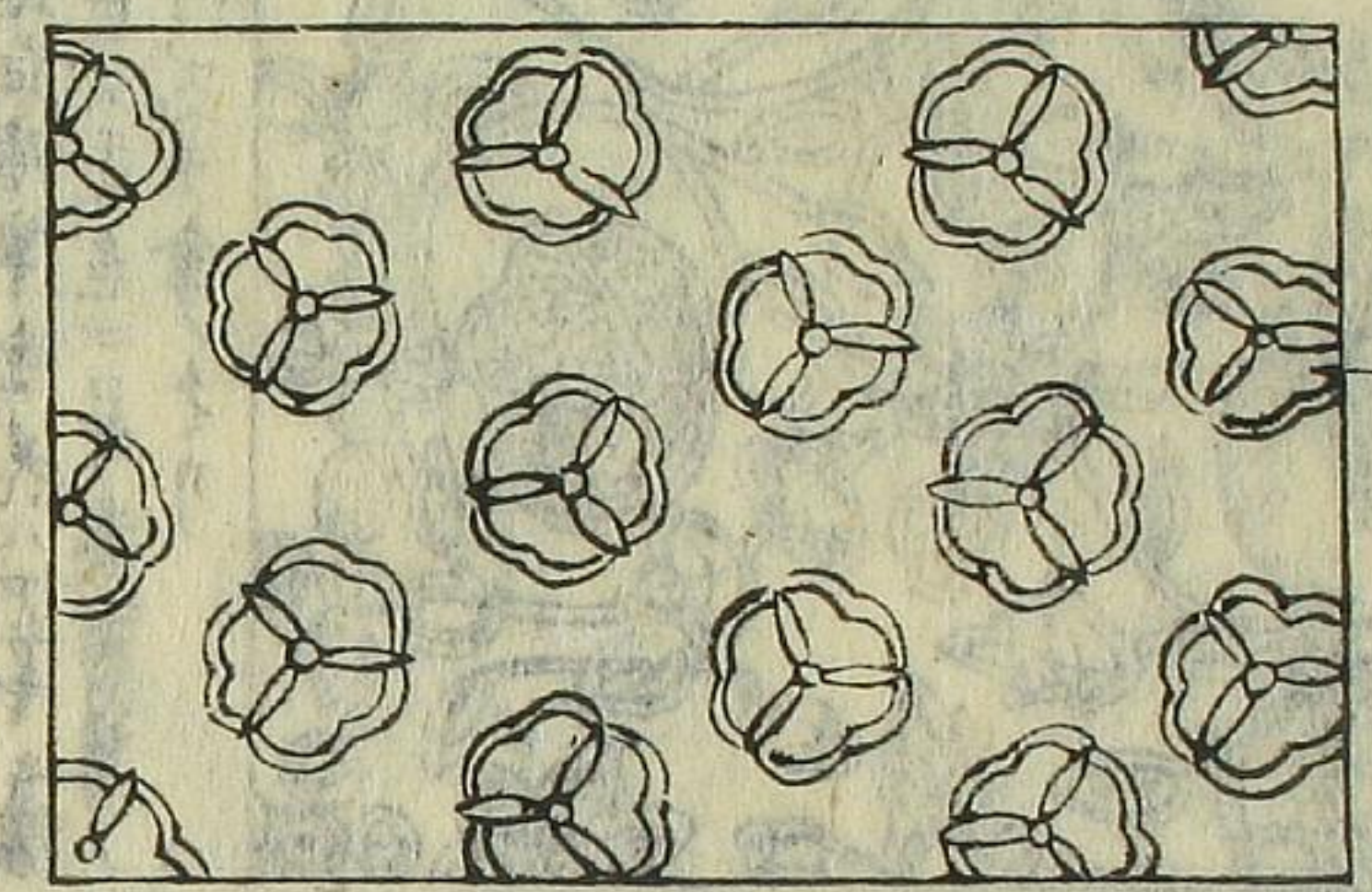


藍<sup>アサ</sup>サ<sup>サ</sup>ラサ

地白。モヤウ墨ガキ。藍ノ彩色。但シ和製ナリ。モト渡リノモノアリシヤ

カタバミ手

地モエギカタバミ赤



大<sup>オホ</sup>紋<sup>モン</sup>ケイト手

地赤丸ノ内黒花ト輪ト白



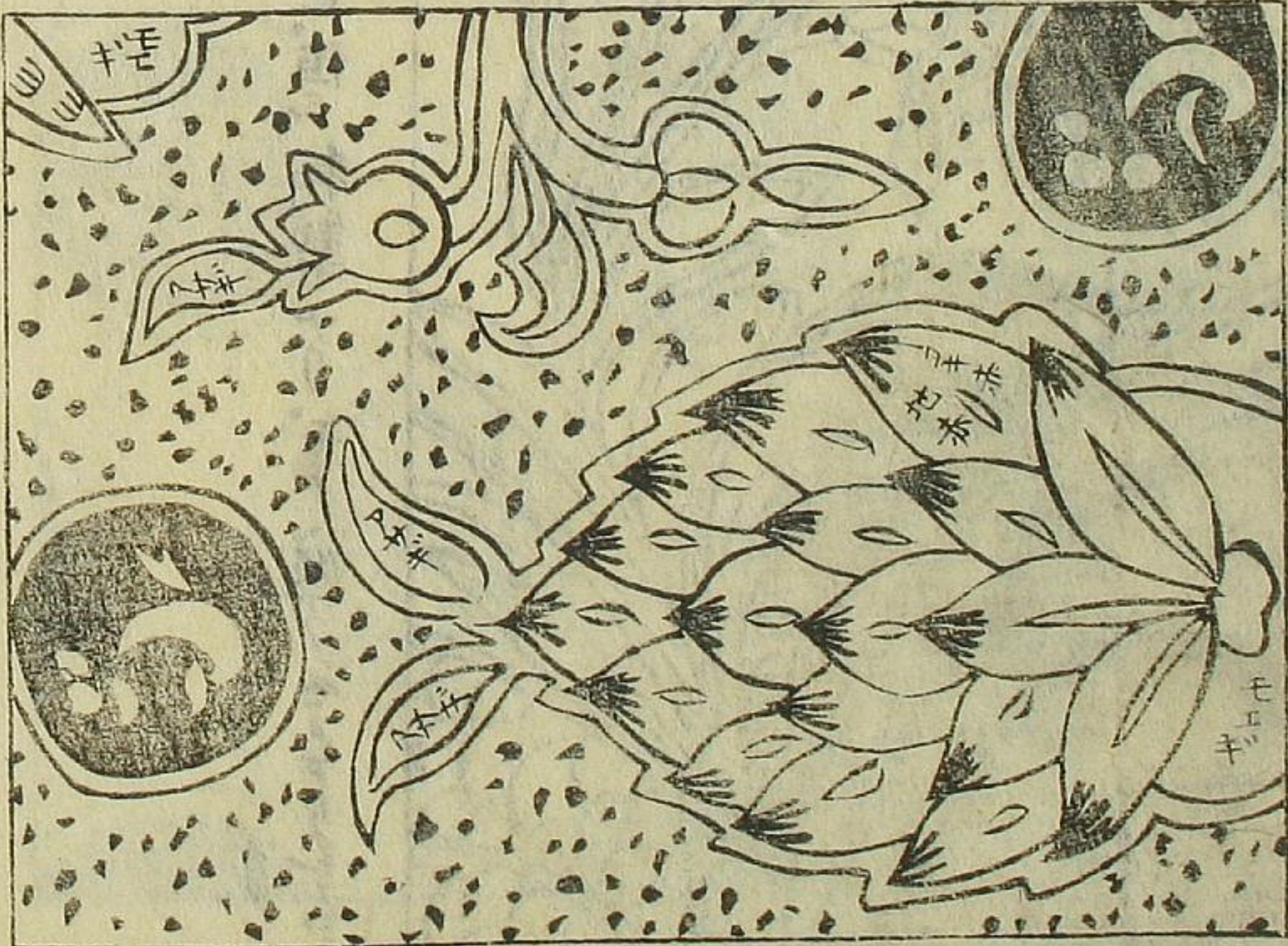
唐花菱

地赤模様白



レイレ手

地赤ゴ黒



象唐花

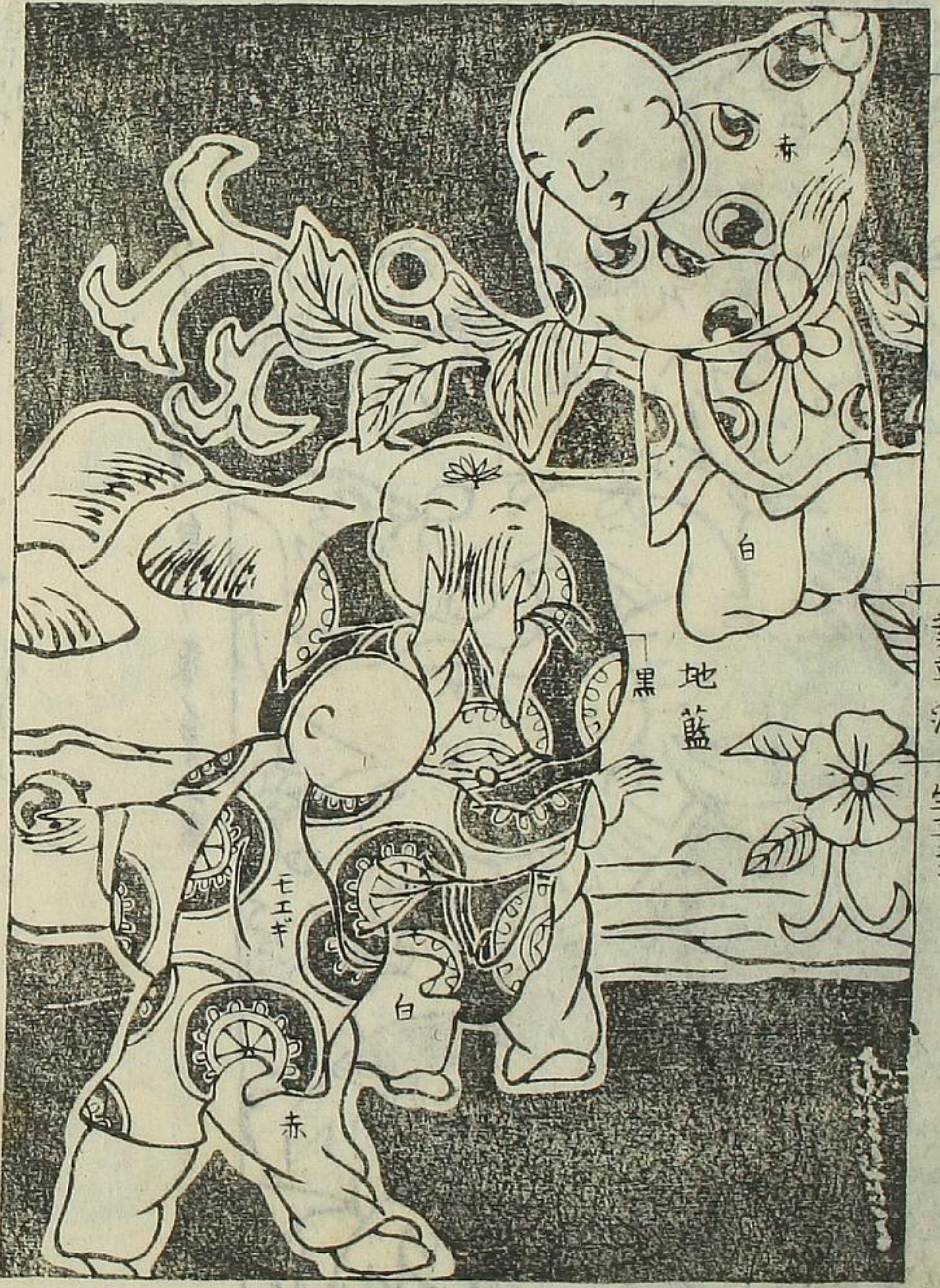
地ハ霜フリガラサ 如クニ筋ダテナリ

惣赤ノ添ザラサナリ模様ハ白上リ象ノカラダ黒



唐子手

世ニアル所ノ唐子更紗ト云モノスベテ和製ナリ  
 舶来ノモノアルニヤ未詳



長春手

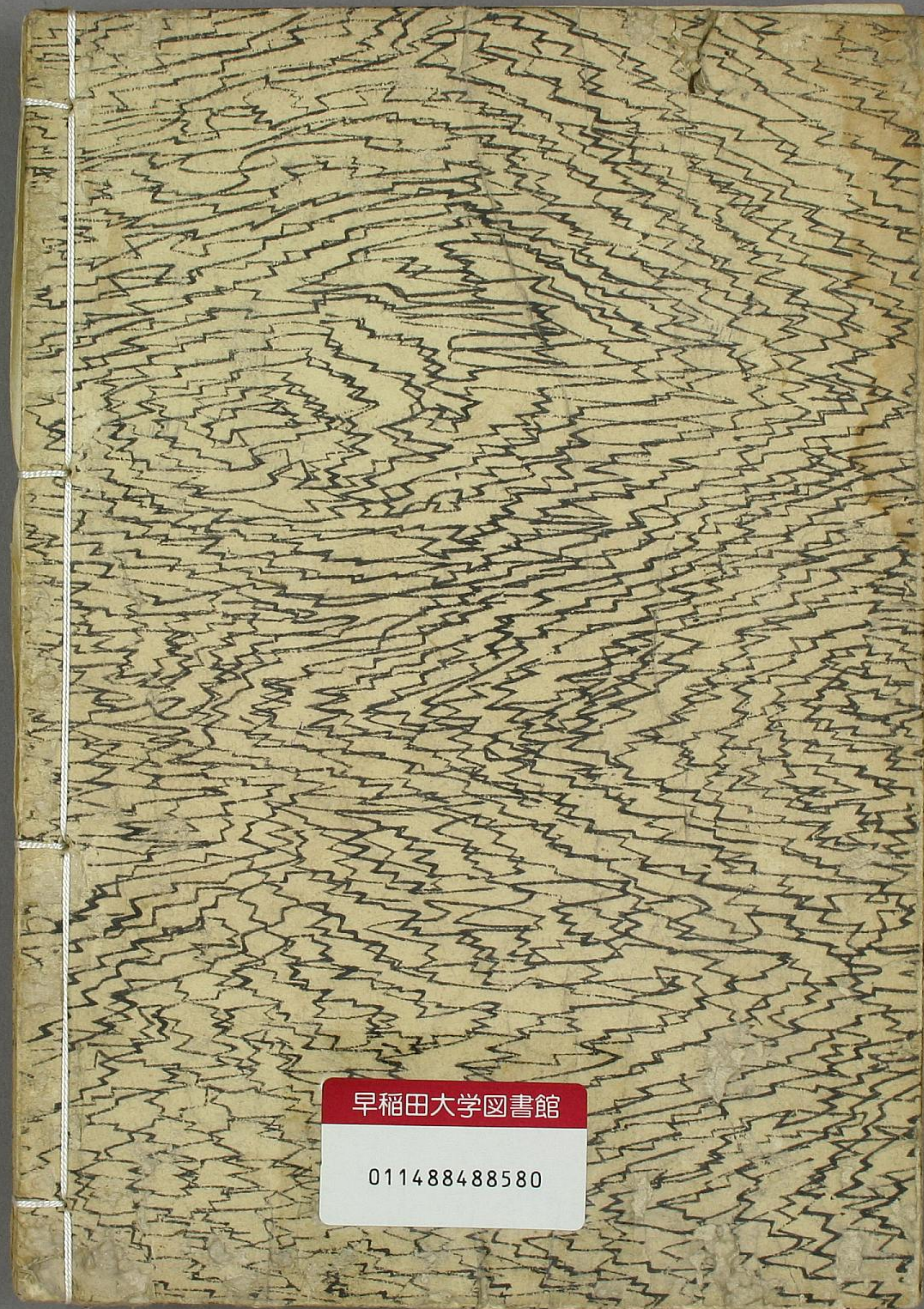


更紗

更紗







早稲田大学図書館

011488488580